

法輪大法義解

李洪志

まえがき

法輪大法の輔導をよりよく行うため、研究会と各地の輔導站の要求に応じて、私が輔導員の会議で説法、法を解釈したものを、私の確認を経て、現在、正式に出版しました。

当時、会議に参加した人の中に、他の省、市からの輔導員も少しいました。私が法を説き、法を解釈した内容、一部の人が録音に基づいて文字に整理しました。しかも、一部の地方ではこれを互いに写し合い、複製しています。私が法を説き、法を解釈する時、すべて特定の環境、特定の条件と具体的な対象者の中で行なっていたので、これらの要素を離れて写し合ったものは、理解上において、私の説いた大法と異なる意義が生じ、人に誤解されやすいので、大法を広めるにはよくありません。

出版発行した『法輪大法義解』は輔導員内部の読み物です。各輔導員は法輪大法を伝える時、自分に責任を負い、学習者に責任を負い、社会に責任を負い、大法に責任を負わなければなりません。大法を広める時と学習者の問題に解答する時、受け入れる側の大法に対する理解の程度と受け入れる能力に基づいて、適切に行わなければなりません。

李洪志

目録

1. 長春法輪大法輔導員のための説法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2. 北京法輪大法輔導員会議での提案・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
3. 広州で全国一部分の輔導站責任者に対する説法・・・・・・・・・・ 78
4. 北京法輪大法輔導員会議での法を正すことに関する意見・・・・・・・・ 99
5. 再版の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 114

長春法輪大法輔導員のための説法

李洪志

一九九四年九月十八日

在席の皆さんはすべて輔導員と世話人であり、法輪大法の創設において、特に長春法輪大法の創設において極めて重要な作用を果たしています。多くの煉功場の学習者がたくさん問題を提出しました。我々の輔導員や世話人が一部の問題に対して解答しにくく、或いは解答できません。これには二つの原因があります。一つは法に対する理解が不足しているからです。実は我々は講習会においてすべて説きましたが、法を十分に理解できさえすれば、何でも解答できるはずで、これがその原因の一つであり、しかも最も主要な原因です。もう一つは輔導員は学習者と身近に接触しているので、学習者から提出された一部の具体的な問題に解答しにくく、あまりよく解答できません。

私はずっとこのように思っています。つまり、法は私がすでに普遍的に概括的に説きました。あなた自身の修煉の問題に関してはこの法に従って行えばよいのです。もし何もかも解き明かしたら、あなた自身が修めるものはなくなりますので、私はこれ以上多く説かないことにしました。更に説いたら、私があなただを持ち上げたのと同じこととなります。残っているのは幾らかの具体的な問題です。しかし一部の学習者はやはり聞こうと思っており、どうしても安心できないのです。私に聞くことができないので、我々の輔導員や煉功の時間が比較的長い古い弟子に聞きます。しかし輔導員や古い弟子が自らぶつかったことのない問題であればやはり解答しにくいのです。

私はなぜ皆さんと一緒に集まって煉功するように要求しているのでしょうか？問題にぶつかったら互いに切磋琢磨し、一緒に検討すれば、これらの問題も解決できるからです。自分一人で煉功する場合、問題にぶつかったら解決できず、非常に困惑します。煉功場において、皆さんと一緒に検討してみれば、多くの問題が解決できま

す。実は一つの問題をしっかり把握して、つまり心性から探せば、どんな問題でも解決できます。しかし、やはり一部の具体的な問題は輔導員にとって確かに解決しにくいのです。これらの問題を解決するために、私は今回の会議を開くことにしました。これも長春の輔導員にとって特別なことであり、ほかの各地ではまだこのような機会はありません。今回帰ってきて処理すべき問題がたくさんあり、学習者は皆これを知っているので、できるだけ私を邪魔しないようにしています。電話が鳴るだけでも、酷く私を邪魔するかもしれないので、多くの学習者は電話をかけることも控えています。このことを私は知っています。皆さんに集まってもらったのは皆さんのために幾らかの問題を解答するためです。総輔導站から届けられた一部の学習者の体験談と纏めてくれた幾つかの問題を、私は読む時間がありません。なぜなら、私は第三冊目の本である『轉法輪』を修正しており、やるべきことがまだたくさんあるからです。

今日、皆さんのために問題について解答するのは、主に皆さんが今後仕事をする上での便宜をはかるためです。ここまで話が及びましたので、私はもう一つの問題を話します。つまり、在席の輔導員は責任を持たなければならず、動作の指導に責任を持つだけではまだ不十分で、法理をしっかり理解し、本当に身に付けなければなりません。多く本を読み、多く録音を聞くべきであり、少なくとも一般の学習者より理解できて、はじめて本当に良い輔導員になることができます。法に対する理解は必ずしっかりしなければなりません。学習者に何かの問題があれば、少なくとも一般的な解答ができるように、指導作用を果たせるとまで言えなくても、だいたい分かるように説明できなければなりません。真に高い次元への功を伝えることは、つまり人を済度することであり、即ち本当に修煉することなのです。もし、このように考えてみれば、これは寺院の中、或いは山の奥で専修することと何の違いもありません。

我々のこの法は主に常人社会の中で伝え、大部分は常人の中で修煉しています。そこで我々は修煉者に対して、常人の中で修煉する表れは常人とほぼ一致するようにと要求しています。はっきり言えば、我々の煉功場の責任者は寺院の中で修煉する住職、方丈と同じです。これはただたとえ話で、我々に官職を与えたり、資格を与えたりする人はいません。我々はつまりこのような修煉形式を採っています。考えてみてください、それは同じことではありませんか？ 多くの修煉者を良く率いることができれ

ば、それは功德無量の事です。良く率いることができなければ、私に言わせれば、それは責任を果たしていないのです。このような目的で皆さんに集まってもらったのです。総輔導站の責任者はこの問題を私に話したことがあり、「もう一回講習会を行なったら如何ですか?」と話しましたが、私が思うには、この法をあまりにもはつきり説きすぎると、反って皆さんの修煉によくありません。それは常人の中の道理になってしまい、我々は常人の中で如何に修煉するかという問題を説く必要がありません。後に私がこれらの紙に書かれている問題を皆さんに解答した後、残りの時間に皆さんは何かの問題があれば提出してください。何かの知識を探求しようという問題を提出しないでください。国家の政策に及ぶ問題も提出しないでください。我々が修煉の過程でぶつかった典型的な問題、主にそのような問題に解答するので、皆さんは提出してください。

我々は輔導員と世話人だけが会議に参加するように通知しましたが、今後通知を受けていない人を絶対に連れて来ないようにしてください。来る人が多すぎると、事が運び難しくなります。すべて輔導員なので、少し高く、少し具体的なことを話して、輔導員が今後の仕事をやりやすくなるようにと思っていました。しかし、在席の中に新しい学習者がおり、講習会に一度しか参加しておらず、ひいては一度も講習会に参加したことのない人もいます。突然こんなに高くて奥深いことを聞くと、非常に受け入れ難く、彼には良い作用を果たすことができず、かえって彼の思想の中に抵抗する気持ちを生じさせやすく、これによってこの人を駄目にしてしまうこととなります。

輔導員は責任を持たなければならず、新しい学習者の動作が正しくなければ、彼らに正しい動作を教えるべきです。一部の古い学習者は動作がすでによくできていますが、まだ少し正確でないところがあれば、煉功が終わった後、彼に教えればいいでしょう。入静の邪魔をしないように、煉功の途中で彼を邪魔しないようにしてください。新しい学習者に対して、必ず輔導しなければなりません。質問をする人がいれば、辛抱強く説明してあげなければなりません。我々の煉功場のすべての学習者はこの責任があり、普く衆生を済度すべきです。普く衆生を済度するとは何でしょうか? 衆生に法を得させることこそ本当に普く衆生を済度することなのです。人が聞きに来たら、あなたは説明しなくてそれでいいのでしょうか?

輔導員は必ず煉功を専一にしなければなりません。専一に煉功できない学習者に対して、注意してあげたり、助けてあげたりしなければなりません。どうしても専一にできず、彼が自分のものを放下できなければ、離れて別の功を練りに行くように勧め、我々の学習者を妨害させないようにすべきです。彼がどうしても離れなければ、それも仕方ありません。彼は練っても得られず、これは悟性が良くないのです。我々佛家は慈悲から出発するので、嚴重に正法を破壊していなければ、彼を懲らしめようと思っ
てはいけません。

人に病気を治療してあげたり、或いは病気を治療するために人を我々の煉功場に連れて来たりする人がいますが、これは大法を破壊することです。これは一つの非常に嚴肅な問題であり、誰もこのようにしてはいけません。もしこのようにしたら、もう私の弟子ではなくなります。もし輔導員がこのようにしたら、すぐ更迭しなければなりません。断固としてこの二つのことを排除しなければなりません。

輔導員は仕事に責任を持つべきであり、煩わしい仕事でも積極的に取り組むべきです。一部の年配の輔導員は、法に対する理解が足りず、自分は良いと思っ
ていても、はっきり説明できません。その場合、助手をつけて輔導員の仕事に協力させた方がよいでしょう。法に責任を負うべきで、あなた個人の損得ではなく、あなた個人の損得も法と緊密に関わっているのです。輔導の仕事をする時、個人の様々な考えを混ぜ入れてはいけません。さもなければ個人と団体の修煉を妨害することになります。輔導員の煉功動作はできるだけ正確にし、できるだけビデオテープの動作と同じようにするべきで、大体同じでなければなりません。僅かな違いは免れがたいので、絶対に一致して同じ形にすることは不可能です。大体一致していれば構いませんが、違いが大きすぎ
てはいけません。特に輔導員の場合、あなたがそのまま人に教えると、ずれが生じます。

これから問題に解答します。

弟子：形神俱滅はどのような状態ですか？

師：形神俱滅は一つの古い名詞で、我々はそれを形神全滅と言います。俱という字の発音は良くなく、滅とはつまり散らしてしまうという意味で、俱と聚は同音で、聚は、即ち集まることになりますので、我々は今後、それを形神全滅と呼びます。もちろん本の中に書いてあるのはやはり形神俱滅ですが、この本は過渡期の読み物に属します。我々の第一冊目の本である『法輪功』は書き上げた時、低次元の気功と類似する部分がありました。第二冊目の本、つまり『法輪功』（改訂版）は、気功よりかなり高くなりました。私は今、私の説いた全部の法を整理しており、将来書き上げたら真に修煉を指導する大法とします。新しい本の中では多くの名詞が正されることになります。

形とは、即ち有形の身体を指すのであり、我々の肉眼で見えるこの物質空間の身体だけを指しているではありません。各空間にもあなたの身体が存在しており、皆有形なもので、皆物質的存在であり、極めてミクロ的な次元まで皆身体が存在しています。言い換えれば、どれほどの空間であろうとも、どこにも人の身体があります。形神全滅とは即ちこれらの身体が全て存在しなくなるという意味です。

神とは、即ち人の元神を指しています。主元神にしても、副元神にしても、各種の生命体にしても、形神全滅になった時、それは非常に恐ろしいことです！ 全宇宙の中でこれより恐ろしいことはなく、全て滅びることになり、何もかも無くなってしまいます。もちろん、まだ無限のミクロの物質の存在があり、私は真空でも物質が存在すると話したことがあります。我々の現在の物理学の研究はただ中性微子というレベルにしか達しておらず、最小の物質は中性微子だと認識しています。これは物質の本源物質まで、生命の最も微小の本源物質まではほど遠く、遥かに遠いのです。超ミクロの物質、最も原始的な状態にまで壊滅された時、我々はそれを形神全滅と言います。また最も原始的な状態に戻ったので、それはもう存在しなくなり、かなり高い次元にいる大覚者もそれが見えなくなったのです。同時に思惟も無く、完全に散乱した最もミクロ的な形式になってしまい、かつて高次元で大法に罪を犯したらこのように処理されるのです。人類の壊滅もこのようなことであり、人類がすでに最低の次元まで落ちてきたので、更に悪事を行なったらこのような問題に直面することになります。つまり宇宙の中から徹底的に消滅され、思惟も無くなり、物質も殆ど無くなり、最も原

始的な、最も原始的な状態にまで消滅されるのです。

弟子：男佛や女佛の性別は修煉者の肉身の性別でしょうか、それとも主元神の性別なの
のでしょうか？

師：人が出世間法まで修煉できた時、すでに羅漢果位の修煉に入っており、つまり初
果羅漢になったのです。その時すでに佛だと言ってもよいのです。実際、あなたはす
でに佛体での修煉なのです。羅漢は初果羅漢、正果羅漢と大羅漢に分けられています。
各次元の距離はかなり開いていますが、しかし大菩薩は佛陀だと言えます。羅漢果位
の修煉に達した時に悟りを開いたら、男女に関わらず皆男身の形象を現します。あな
たは常人の中で修煉しており、あなたの肉身の性別は変わりません。あなたの肉身は
時に男性になり、時に女性になるのなら、それはおかしなことになります！ 昔、羅
漢果位まで修煉して圓滿になった人がいますが、圓滿は境地に達したことと同じでは
ありません。もし人が修煉して羅漢果位にまでしか圓滿できず、更に高い次元へ修煉
できなくなったら、そのまま定められることになります。彼は一旦功を開いたら、男
性でも女性でもすべて男身の形象を現します。彼の身体は彼が修煉してできた佛体で
あり、羅漢果位においては皆男体を現すのです。

本来の元神は、男性あるいは女性であるかも知れません。彼のその身体は、高エネ
ルギー物質により転化されたものであっても、或いは彼が修煉して成就したその金剛
不壊の身体であっても、或いは涅槃の時、佛が彼に与えたその佛体であっても、羅漢
果位においては皆男身の形象を現します。菩薩の境地に達したら皆女身の形象を現し
ますが、元神の性別は変わりません。佛の境地に達した時、やはり身体を持っていま
すが、その身体は高エネルギー物質で構成したものになります。更に高くなってもや
はり身体を持っており、つまり異なる空間の身体（佛体）です。佛の境地に達したら、
性別が主元神の性別に戻り、男佛は男佛で、女佛は女佛になります。

弟子：本体と佛体を修める意義は？

師：我々がここで言っている本体は低次元での修煉における一つの概括的な名詞であ

り、あなたの各空間の身体を指しており、あなたの肉身もその中に含まれています。

弟子：正法を得て、正果を成すことは、圓滿とみなされます。ならば、我々ほどの程度まで修めたら圓滿になれるのでしょうか？

師：圓滿は我々が言う果位の高低とは違い、あなたが羅漢果位にまで修めれば、あなたはすでに佛体の修煉なのです。過去は如来しか佛と呼ばれなかったのですが、現在、佛は比較的多くなりました。区分すればつまり如来も一部の佛を管掌し、それらの佛は如来の次元に達しておらず、菩薩を超えれば、佛と呼ばれ、大菩薩も佛と呼び、ひいては羅漢、菩薩をも佛と称します。皆佛家だからです。ですから、皆さんに教えませんが、あなたが羅漢果位まで修めたら、すでに佛体修煉の段階に入っており、つまりこういう意味なのです。しかし、あなたはすでに佛体をもって修煉する段階になりましたが、必ずしも圓滿になったとはかぎりません。人の根基は違い、忍耐力も違います。菩薩果位にまで修煉できる人がいれば、佛果位にまで修煉できる人もおり、更に高い、如来を超える果位にまで修煉できる人もいれば、羅漢果位にまでしか達することができない人もいます。しかし、どの次元に達したとしても、すべて三界から跳び出したので、全部果位を得たと言えます。つまり、あなたはすでに正果を得たのです。それでも、必ずしも圓滿になったわけではありません。例えばあなたに菩薩果位で悟りを開き、圓滿成就するように按排してあげましたが、あなたが羅漢果位に達しても、まだあなたの最終の修煉の目的に達していなければ、圓滿にはなっていません。つまり、このような関係なのです。あなたが払った分だけ、修煉した分だけ、それ相応に得られます。あなたは圓滿にまで修煉できていませんが、あなたはすでに果位を得ています。しかし、あなたはやはり圓滿にまで修煉できていないので、まだ次元の問題が存在しており、まだあなたの修煉の最終の目的に達していません。

弟子：返本帰真と正果を得ることとの関係は？ 本と真との意味は？

師：返本帰真は常人の中で言われる返朴帰真とは異なります。我々の言った返本帰真とはあなたの先天の本性に返り、あなたの本性、あなたの本質、あなたの本来の姿に返ることです。あなたが常人社会の中に落ちてきて、すでに本来の姿が覆い隠されて

います。常人社会の中で白黒を逆にし、是非を逆にしており、あなたは本来の姿に戻る必要があります。帰真は道家の名詞で、我々が修煉しているこのものは非常に大きいので、すでに佛家自身の範囲を超えており、一部は道家の言い方です。道家は修煉して成就したら、真人になり、つまり佛に成就します。彼らは真人と呼び、真正の人なのです。

弟子：私が永遠に修めていく願を立てたことと、先生が我々に按排してくれた道とはどういう関係なのでしょう？

師：あなたは永遠に修めていく願を立てましたが、この永遠というのは絶対的ではないでしょう。正果を得ず圓滿にならずにいつまでも修めるのですか？ 修めるには目標がなくてはならず、高次元を目指して修めていくことは、あなた自身の立てた願に基づき、更にあなたがどれくらいの高さまで修煉できるかを結び合わせて、師父があなたのために按排するのです。皆非常に科学的なのです。あなたは本来鋼なのに、鉄として按排されたら、それはいけません。あなたが菩薩果位にまで修めることができるのに、羅漢果位に按排されたら、これもいけません。非常に正確に見ており、それには見当違いは少しもありません。

弟子：宇宙の中に全く同じものはありますか？

師：修煉方法は一人の大佛が一つの法門を主宰しており、どこでも同じです。しかし修煉の方法は同じではなく、我々の今日のこの法輪と同じようなものはありません。しかし、旋回しているものは他にもあります。地球も回転しており、密教は意念で一種の輪を推して回します。このようなものは他にもあり、長春のある気功師も太極を旋回して練っていますが、我々のものと違い、彼は内へ収めるだけで外へ放たず、我々のものと同じではありません。惑星は恒星のまわりを回っており、電子は原子核のまわりを回っており、皆旋機が存在していますが、内涵には千里の差があります。二種の同じものは存在するかもしれませんが、極めて極めて少なく、私はまだ見たことがありません。

私が皆さんに話したように、大覚者たちは今日のこの事を按排したので、それならば宇宙の演化過程の中で一切の事はすべてこの事のために道を開かなければなりません。宇宙の形成の初期にはすでに最後の大事のために按排をしていました。そうであれば、多くの事はすべて今日の末劫の時、最後の一回の正法を伝えるために按排したのかもしれませんが。なぜ今世紀のこの年代に歴史上において未曾有の気功ブームが現れたのか、私に言わせればそれは偶然のことではありません。なぜ様々な功法が現われたのか、これも偶然ではありません。これらの事は常人の考えているような簡単な問題ではありません。

弟子：法輪と法輪世界とはどんな関係ですか？

師：法輪世界は法輪世界の如来が主宰している非常に歴大で美妙的な世界です。法輪はただ法の功の一面の体現であり、まだほかに法の一面の体現があります。法の一面の体現では、私の説いた法以外に、更に高い法と形態を我々は公開しておらず、公開することも許されません。功の一面では、私はすでにその図形を描き出しましたが、まだほかにその法の一面があり、功の一面はすなわちこの形式なのです。我々の学習者は将来正果を得て、果位を成就した後、自分で法輪を修煉し作り出すことができるようになり、一つだけ修煉し作り出すことができます。あなたはかなり高い次元に至ってもただ一つの法輪しか持つことができず、それはあなた自身の体現であり、それは私があなたに植えつけたその法輪に替わり、下腹部に位置し、それはあなたの真正の果実です。しかしながら法輪はまた法の体現であり、彼は分身できます。あなたが神通を使えば、彼は分身できます。あなたも幾つかの法輪を放つこともできますが、私が今日修めたそのような形式のそれほど多くの独立体になることはありえません。

皆さんが知っているように、このものはそれほど大きく、それほど貴重で、幾代もの方が作り出したものです。あなたは一度の修煉の過程で私が修めたこれほど大きなものを修めて出そうと思っても、それは不可能であり、絶対不可能なことです。皆さんは一つの法輪を修めて出すことができます。それは問題ありません。この法輪は威力がとてつ大きいので、もしこの空間に持って来ることができれば、法輪が作動すると、それは大変なことになります。それはすごい威力があります。あなたが将来、修

めて出したその法輪でも、この空間で回ると、一陣の巨大な竜巻が吹くようになるでしょう。その威力は非常に大きいのです。なぜ法輪を常人社会で顕現させないのですか？ なぜこの空間に出てきて作用をするようにさせないのですか？ その威力は本当に大きすぎるからです。法輪は別の空間で作用をしても十分にあなたを保護することができ、非常に大きな作用をしています。

弟子：法輪は宇宙の縮図であり、法輪世界は宇宙と同じ大きさですか？

師：そうではありません。法輪世界は我々のこの宇宙の非常に高い次元にある単元世界の一つです。宇宙は相当膨大なのです。新しい学習者が在席しているので、一部のことは話しにくいのです。彼らは受け入れられません。我々のこの膨大な宇宙の中には、無数の小宇宙があります。人類は一つの小宇宙の中に存在しています。しかしこれらの小宇宙の中には無数の銀河系があります。如来の次元の佛は一つの小宇宙を見てもその果てが見えません。大宇宙はどれほど大きいのか、過去には人類に知られてはいけないうことであり、それはとてつもなく膨大なのです。人が修煉する過程で、身体は外へ拡大することができ、つまり身体の容量が増大し、身体の容量は次第に大きくなり、心も広くなり、思想は昇華し、次元は向上していきます。常人のこちらにある身体はこのような変化が見られず、常人と同じです。圓滿の時になったら、身体が一体になります。合体したその一瞬、あなたが常人の中でその法力を体験する暇がないうちに、すぐ連れて行かれます。それは常人に対する妨害があまりにも大きいからです。皆このようにします。私がよく話したように、修道者は深山の中で長期に修煉して、人々は彼らの能力が非常に大きいと思っていますが、実は彼らの能力は非常に小さいので、はじめて彼らに世間で神通を開放することを許したのです。しかし現在、人に示す者も非常に少なくなりました。彼らも常人社会を破壊してはならず、さもないければ自分自身もだめになることを知っています。

弟子：講習会に参加したことがなくても法輪を修めて出せますか？

師：この問題について私は何回も話したことがあります。本を読んでも同じです。本当に大法に従って修めさえすれば、あなたは一人で最も僻地に住んでいても、それも

問題はありません。私の本の中には私の法身があり、一字一字は浅い次元から見ればすべて法輪ほど大きなもので、あなたが何かを考えれば、彼はすべて察知できます。同様に、本当に修煉さえすれば必ず得られます。自分で本を読んで煉っても、煉功場に行つて古い学習者と一緒に煉っても、どちらでも結構です。本当に修めさえすれば必ず得られます。皆さんが知っているように、釈迦牟尼は世を去ってからすでに二千年あまり経ちましたが、末法の時期になる前に修煉して成就した僧侶はたくさんいましたし、かなり高い次元まで修めた人もいます。先生の傍で、親授を受けなければ修煉できないというわけではありません。

弟子：この空間にある私が修めて法輪世界に行ったら、別の空間にある多くの私も、同様に修めて法輪世界に行けますか？

師：そうとはかぎりません。もし彼らがよく修めたら、あなたと一体になり、あなたの護法として存在できますが、あなたが主導し、彼は護法として副元神と似ています。もし彼がよく修めなければ、彼も独立した生命体なので、彼はだめになります。あなたが修めたらあなたしか得られず、修める人しか得られないのです。

弟子：法輪大法は漸悟なのですが、我々はいつ漸悟の状態に入りますか？

師：我々の多くの学習者はすでに漸悟状態に入っています。多くの学習者はよく修めています、声を上げず話さず、それは彼らが言わないだけです。私はハルビンで講習会を開いた時にこう話しました。四千あまりの人がここに坐っていますが、どれだけの人が修めて成就できるのか、将来どれだけの人が道を得られるのか、私はまだ樂觀しておらず、皆さんが如何に修めるかにかかっているのです。四千あまりの人が一度に佛になり、四千あまりの人が全員漸悟状態に入るとするのは、それは不可能なことです。煉功場に来て法輪大法を煉る人の中に、どれぐらいの人が漸悟状態に入ったのか？ 本当に堅実に修めているのか？ 異なる漸悟状態に入りますが、あなたが漸悟状態に入ったら、すぐ神通が大いに現れるということではありません。

ここでついでに一つの問題を話します。我々の多くの人はすでに漸悟状態に入って

いますが、彼はいつも恐れています。何を恐れているのですか？ 現在、人類社会の執着心はあまりにも大きいので、この方面については私が特に強調しており、機能が出たとしてもそれにかまわず、天目が開いたとしても追求してはいけないと言いました。しかし皆さんに教えますが、あなたの天目が本当に開いたら、あなたに追求する心がなければ、見てもかまいません。あなたの神通が出たら、人のいないところで運用してみても問題はありません。この点について皆さんにはつきり言いますが、それを執着心と見なさないでください。あなた自身の法であり、あなたは自分自身の法を運用してみても、これは執着心と違うのです。現在すでに漸悟状態に入った人がいますが、彼は自ら恐れており、いつも緊張していますが、使わなくてもいけません。多くの人は天目が開きましたが、彼はいつも幻覚だと思っており、これではいけません。開いたら、見られるなら見てもかまいません。執着と体験とは違うことです。

弟子：現在、三花聚頂に達した人はいますか？ 正果を得た人はいますか？

師：現在多くの人はすでに三花聚頂を超えています。圓滿に達した人は、今はまだいません。皆果位の中で修めており、異なる次元の果位の中で修めているのです。

弟子：我々が今から一生懸命に煉功して心性を修めるなら、一年半の時間の中で出世間法修煉に達することができますか？

師：時間の制限はなく、修めるか修めないかはあなた個人の問題です。どれくらいの高さまで修められるか、忍耐力がどれくらいあるか、耐える力はどれくらいあるか、すべてあなた個人の問題です。先生の指定した時間内に修めて抜け出ると言っていますが、あなたの心性はそこまで達することができますか？ 心性は昇華して上がるすることができますか？ 法に対する認識はそれほどの高さまで達することができますか？ あなたは常人の中での執着心を放下できますか？ 個人の利益の前で、人と争い闘うことにおいてあなたは放下できますか？ これらはすべて個人が修める問題であり、あなたに決めてあげる人はいないし、時間の制限もありません。羅漢果位まで速やかに修めて上がる人がいれば、一生かかって修める人もいます。すべてあなた自身の忍耐力、自分に対する要求の厳しさによります。これはすべて個人の問題です。

弟子：我々は自分自身を守れるところまで修めた後、まだ上を目指して修めたければ、どうすればよいでしょうか？

師：先ほど私はすでに話しました。釈迦牟尼はすでに世にいなくなりましたが、彼の弟子はまだ上へ修めることができます。仮に先生が本当に世にいなくなっても、私の法身がまだいるでしょう。私は本当に消えたわけではないし、形神全滅になったわけでもありません。

弟子：難を逃れるために煉功する人がいますが、彼らの結末はどうなりますか？

師：如何なる求める心を抱いて煉功に来ても、すべて正果を得ることはできません。しかし、人の法に対する認識においては、認識の過程を与えるべきです。多くの煉功者は病気を治療するために入って来たのですが、ある認識の過程を通してはじめて高次元のものがあつたことを知りました。我々は今日高次元において法を伝えており、講習会に参加したばかりの人はまだどうということなのかが分からず、突然、高次元へ修煉する功を伝えているのを聞き、我々の説法を聞いているうちに、彼は徐々に認識できたのです。このような過程の存在を許すべきで、これは確かに必要なのです。彼は病気を治療するための心、難を逃れるための心、どんな心を抱いて入つて来たにしても、その心を放下してから、はじめて修煉の目的に達することができます。病気治療や健康維持の目的に達するためであっても、彼が難を逃れる考えを抱いて来たのなら、それもいけません。

難は自分自身が作つたもので、生々世々で自分がやつた良くない事によつて作つた借りであり、返さなければいけないのです。あなたが修煉の過程の中で嘗めた苦は自分で作つた業力によつて現れた関ですが、それは良い事でもあります。我々はそれを利用して、あなたの心性を向上させます。それは良いことではありませんか？ 修めて佛になることもできれば魔になることもあります。それはこの道理なのです。業力の存在があつて、迷いの中ではじめてあなたに修煉させることができます。

弟子：他の空間の多くの私は肉身という次元の空間に存在しているのですか？

師：そうではありません。我々に見えない他の次元の空間に存在しています。同等の次元の空間においては、我々人類はこの身体を持っているほかに、もう一つの空間にも人の身体があります。その空間にある人は我々こちらの人よりずっと強いのです。彼らには名と利はありませんが、情があります。ですから、彼も色身を帯びています。形象は我々とほぼ同じですが、我々よりも少し美しいのです。彼らの身体は漂うことができます。彼らは歩かないので、足はほとんど見えません。あちこち漂うのです。このような空間があります。これは同等次元の空間です。

私は皆さんにもう少し空間の問題を説明します。我々の現在の科学者は研究して、電子が原子核を巡って回転しているのを発見しました。その運行は我々の地球が太陽を巡って回転するのと似ているのではありませんか？ それは同じことではありませんか？ 我々は今その電子の上に何があるか見えるような顕微鏡を持っておらず、もしあなたに見えるなら、あなたはその上に生命体があるのを発見できるかもしれません。私が話したように、これらのことはすべて我々の今日の物理学の認識に符合していますが、しかし我々の現在の科学手段はやはり極めて限られているのです。

弟子：多くの学習者は周囲の環境、病気、黒い気に極めて敏感であり、これはどういうわけですか？

師：この部分の学習者は皆、功が出る状態に近づいており、まだ気を煉る低いレベルから抜け出していません。気を煉る最高形式において、すでに乳白体状態に入った時にこのような体現があるはずですが、しかしそれは非常に短い過程であり、気にする必要はなく、恐れる必要もありません。自然に任せれば良いのです。あなたが過剰に恐れるなら、それも一種の執着心です。気にしないで、すべてを必然と見なして、自然に任せて良いのです。この次元を通り過ぎれば、あなたはもう感じなくなります。功が出ればあなたの身体は功に覆われるようになります。これらの黒い気、病気はあなたの身体に侵入することができなくなるので、感じなくなります。

弟子：一部の学習者は心性が絶えず向上していますが、坐禅する時に結跏趺坐ができず、無理やりに重い物で押さえたり、縄でくくりつけたりしていいですか？

師：私の知っているところでは、昔一部の和尚は坐禅の時、石ローラーや石臼で押さえることがありました。石ローラーを使うにしても、石臼を使うにしても、すべて自分の意志であり、彼は人に頼んでしてもらうのです。しかし道士は違います。道家は弟子を一人か二人しか採らず、しかもその中の一人しか真伝が得られません。弟子に対する要求はとても厳しく、度々弟子を叩くこともあります。耐えられるかどうかに関わらず、何としてもあなたに乗り越えさせます。そのため、彼は一般的に強引な方法で、弟子の足を縛りつけ、両手を背後に縛って、自身で縄を解くことができず、身体を横にしても解くことができず、痛くて気絶する者もいます。昔このようにする人がおり、その時の修煉は非常に苦しかったのです。

我々は今日このように要求しません。なぜなら我々のこの一門は人心を真っ直ぐに指して修めるからです。ですから、我々は人の心性の向上を最も重要なことと見なしているのです。形体上の修煉は第二のものだと見なしています。あなたはできるだけ耐えて足を組む時間を延ばすべきです。しかし厳しく規定してはいけません。なぜでしょうか？ 皆さんも知っているように、釈迦牟尼の時代には戒律がありましたが、釈迦牟尼在世中に経書は無く、如何なる文字も残っていません。釈迦牟尼が世を去ってから、後人が釈迦牟尼の言った言葉を思い出してそれを整理して経書としたのです。釈迦牟尼は在世中にたくさんの修煉の規定を制定し、これを戒律として文字で残しています。しかし我々には今日法があり、戒律はありません。修めるかどうか、修めることができるかどうか、基準に達しているかどうかは、皆法によって量られるのです。ですから我々が修煉するには厳しい規定を定めてはなりません。皆さん考えてみてください、末劫の時期になって、根本からだめになり、済度の範囲に含まれず、消滅されるべき人がいます。講習会を開いた時、このような人が講習会に入った可能性があり、無理矢理連れて来られたかもしれませぬ。あなたが彼にそのようにさせれば、骨折するかもしれませぬ。ですから我々は厳しく規定していません。自発的な方法を採用し、あなたが耐えられるなら、できるだけ耐えてください。しかし、皆さんに教えま

すが、本当に修めたければ、真に法の威力を感じた人は皆修めることができ、あなたは頑張ってみてもかまいません。問題はないはずです。

弟子：宇宙には果てがありますか？

師：宇宙には果てがあるのです。しかし、これらのことを探求しないでください。この果てはあまりにも大きく、如来の次元において指している宇宙の果ては皆小宇宙の果てです。この小宇宙でも、人類は言うまでもなく、如来佛でさえ見ても際限がなく計り知れないのです。それはとてもとても歴大なのです。

弟子：『文芸の窓』の中には一匹のうわばみが李洪志先生のために道案内をしていたと書かれていますが、それは本当のことですか？

師：これは『文芸の窓』が文芸作品の角度に立って創作したものです。その学習者は二回講習会に参加しましたが、深く理解できませんでした。一回目の講習会の後、彼はすでに書き始めました。彼は非常に感動して、この法は非常に素晴らしいと思って書き始めたのです。二回目の講習会の時、彼は何かを書こうと思いながら聞いたのです。皆さんが知っているように、静かな心で聞いてはじめて会得することができます。彼はやはりよく会得できなかったのも、我々が見たこの文芸作品の形式に書き上げてしまいました。文中の一部の事は芸術的に加工されたものであり、そのうわばみは存在していません。観音菩薩は私の師父だと書いていますが、それも存在しない芸術的な加工です。しかし、彼の目的は良く、この法を広めたいだけです。動機は良いので、この点は肯定しなければなりません。彼の理解には限りがあるため、このような作品を書いてしまいました。文芸作品なので、彼は元々文芸の角度に立って書いたのです。小説なので誇張しても良く伸縮性もかなり大きくなります。それを我々の学習の指導の材料としなければ結構です。その中で書いた五戒、十悪十善の内容はすべて原始佛教のものです。我々は戒を講ぜず、修めるか修めないかの基準は我々がすでに法の中で説明しました。

弟子：「玄法至極」と「旋法至虚」との区別は何ですか？

師：玄法至極とは、我々が言ったのは一つの概括的な名詞です。これは法を伝える初期の理解の問題です。この「玄」ではなく、回転の旋であるべきです。我々の法は元々圓容の法であり、ですからそれは回転しているのです。法輪はすなわち輪のような表現形式です。旋法至虚は、間違いがなく、かなり高い境地に達することができ、極点に達するという意味です。旋法至虚は、我々修煉過程の中の一つの名詞であり、我々のこの功の中の呪文でもあります。

皆さんが知っているように、その呪文は覚者、あるいはこの一法門の中で修煉する覚者、あるいはこの一法門の中で成就した覚者を招いてあなたのために護法となり、あなたを加持するという作用を果たすことができます。宗教の中でも呪文はやはりこのような作用を果たしています。呪文を唱えれば功が伸びるという言い方がありますが、それは全く不可能なことです。それはただ以上のような作用を果たすことしかできません。至虚とは、とても高い次元に至ることを指すのです。人々の見えない境地は虚界と呼ばれますが、それはこの意味でしょう。道教の中にはこの名詞がよく見られますが、太極がまだ形成される前に太虚と呼ばれていました。つまりそれはとても高くとても原始的なのです。

弟子：坐禅の時、坐る時間を延ばすために、繰り返し口訣を唱え、千回以上唱えると、法輪を変形してしまうことがありますか？

師：口訣を唱えると良い作用があります。千回以上唱えても法輪を変形させることはありません。もちろんあなたが功を開き、悟りを開いた後に分かるようになりますが、かなり高い次元に達したら、口訣を唱えてはいけません。あなたが唱えればその震動はあまりにも大きいので、あなたがずっと唱えると、ゴーンゴーンという震動で人につらい感じを与えてしまいます。

弟子：ある学習者は煉功してから、頭が割れそうになったのですが、なぜでしょうか？

師：「割れた」なら良い事です。我々は頂を開くことを講じるので、「割れた」ことは

良いのです。割れる時「パッ」と割れ、あまり大きな感覚のない人もいれば、割れる時ゆっくりで、とても辛い人もいます。しかし物事は二つの方面から見なければなりません。執着心を放下せず、良くないものを招いて捨てたくない人がいます。煉功の時に法はそれを除去するので、それはあなたに頭痛を起こさせ、あなたに正法を修めさせないために、このような状況が現れる場合もあります。肝心なのはあなたが修められるかどうか、法に従ってそれらのものを放棄できるかどうかということです。

弟子：煉功する時、頭に冷汗が出て、ショック状態のようになる人がいますが、どうすべきでしょうか？

師：この現象はあり得ることです。我々の講習会でこのような人もおり、どこの講習会にもいます。なぜでしょうか？ 身体を浄化して病を除く時、皆強い反応があります。しかし煉功場ではこんなに猛烈な反応はないはずで、その場合はゆっくり取り除かれるからです。もしこの人がかなり良いのであれば、これは正常なことだと思います。もしこの人が自分に厳しく要求せず、でたらめにやり、この功を練ったり、あの功を練ったりして安定せず、心性が高くない場合には問題になるかもしれません。彼を暫く休ませ、他の功を練ったことがあるのか、あるいは何か誤った事をしたかどうかを確かめてみましょう。その反応の勢いが過ぎてから再び煉ってみましょう。現在煉功に来ている人が皆真に修煉する人だと保証できないからです。

弟子：ツボ按摩をするのはいいですか？

師：我々はツボ按摩などはやりません。世間法修煉の段階で人のために病気を治療してはならず、このようなやり方はありません。真に修める人には病がなく、私の法身がすべてを取り除き、やるべきことは全部してあげました。ツボ按摩などは必要ありません。修煉者の業力は按摩で消去できるものですか？ あなたが他人に按摩をするなら功を帯びるはずであり、我々はこのようなことを薦めません。もし医者であれば問題はあります。それは常人の中の職業だからです。

弟子：人の副意識は人の一生に伴いますが、彼はどのような作用をしていますか？

師：人の副意識は主に人が無意識の状態下で悪い事をしないようにするのです。人の主意識がとても強い時、彼には左右することができません。

弟子：私は坐禅する時、かなり長い時間坐れる時があれば、十分間しか坐れない時もあります。どうしてでしょうか？

師：それは正常な現象です。足を組むことも業を滅することであり、その心志を苦しめ、その筋骨を勞せしめることです。如何に筋骨を勞せしめるのか？ それは即ち煉功時間を増やして、足を組む時の苦痛に耐えることで、主にこの二つの方面に現れます。その筋骨を勞せしめること自体は業を滅して向上する過程です。足を組むことは業を滅することではありませんか？ しかしこの業を一気に足に押し付けることではありません。それは一塊一塊のようなもので、一塊がやってきたら痛みが強くなり、消去されたら楽になります。足を組む時は往々にして辛くても暫らくすると楽になり、また辛くなります。皆このようなのです。あなたがこの塊の業を消去したら、その時は長い時間組むことができます。しかし業がやってきたとき、あなたは足を組むとすぐ辛くなるかもしれません。しかしあなたが耐えられれば、足を組む時間は以前と同じぐらい組むことができます。ただ痛くて辛いだけです。

弟子：飲酒により煉功者が煉り出した生命体は身体から離れることがありますか？

師：そうです。喫煙も同じことを起こします。そのようなものにくすぶられると、それはあなたの身体から離れます。その時何もかもなくなり、他の人から見ればあなたの身体に功はなくなっています。以前にも話しましたが、真に修煉したいと思うのであれば、これぐらいの執着心すらも放下できないのですか？ 修煉を遊び事としてはいけません。これは極めて厳粛な問題です。我々は人類が何か大きな災難に遭い、命を守るために修煉するようには言いません。我々はこの事を言わず、これを以て一種の動力としてあなたを押し進めて修煉させることもしません。我々が言っているのは、本当に修煉すればあなた個人の永遠の問題を解決できるのではないかということです。

佛教の中では六道輪廻を説いていますが、その説によれば、人は常人社会の中で時間はかなり長く感じますが、しかし時間が更に長い空間から見れば、人類の時間はかなり速く進むのです。二人の人がそこで会話をしている時、振り返って見るとあなたが生まれ、また二言三言話しているうちに振り返って見ると、あなたはすでに寿命を終えて亡くなっています。人はなぜ人体を持っているこの段階で修煉に励み、人体を保ち続けるよう努力しないのですか？ 佛教の言うところによると、六道輪廻に入れば、あなたがどんなものに転生するかも分かりません。動物に生まれ変わったら、何百年か何千年経ってからはじめて再び人身を得られます。もし石に生まれ変わったら、その石が風化しなければ、あなたは出られず、万年経っても出られません。動物には修煉をさせません。しかしそのもの自身は先天の条件を備えて修めることができます。これは自然環境によりもたらされたのです。しかしそれには高い功が出ることは許されません。高い功が出れば、それは即ち魔になるのです。それは人の本性を備えていないからです。そういうわけでそれを殺さなければなりません。動物が高く修めたら殺さなければならず、雷もそれを撃ちます。それはなぜ憑依しようとするのですか？ それは人体を得ようとしており、人体を得てから正々堂々と修めることができるようになるからです。以前は人体を得てから修煉を許されましたが、現在では人体を得たとしても許されません。あなたが修めよう、法を得ようとするれば、頭を白紙の状態にして常人の中に来て得なければできません。現在これはすでに変えてはならない規定になっています。覚めたままで常人の中に来てはいけません。頭を白紙状態にして悟りながら修めることしかできません。何でも分かれば、誰でも修めに行くのではありませんか？ 佛も次元を高めるために、常人の中に来て苦を嘗めたいのですが、それでも頭を白紙状態にしなければなりません。覚めたままで何でも見え、何でも分かるならば修めない人がいるのでしょうか？ それでは向上の問題が存在しなくなるのです。この意味は、修煉はとても厳粛なことで、如何なる執着も修煉に影響すると皆さんに教えているのです。

弟子：更年期が過ぎた高齢の女性は、生理がこなくても、修められますか？

師：更年期が過ぎた高齢の女性は、生理がこなければ、修煉の進み具合が遅いかもし

れません。一部の高齢の女性は確かに緊張感を持つべきです。彼女たちの一部の人は急がなければなりません。急ぐようにと言われたら、一生懸命に動作を煉るようになりますが、心性を修めることが最も重要だと知るべきです。稀にこの方面で少し遅れる人がいますが、正常な進み具合なら皆生理がくるはずですよ。

弟子：学習者はどこかに痛みがあり、頭痛、腹痛……なぜでしょうか？

師：煉功中の様々な反応も正常なことです。業を消去するには辛くないはずはありません。病を取り除くのも辛いのです。一部の学習者には功が出る頃、この功はあなたの身体に付いており、機能は万種以上にもとどまりません。一つ一つの功はすべてエネルギーがかなり大きく、密度がとても高く、威力がとても強い高エネルギー物質です。それがあなたの身体の中でちょっと動いてもあなたは辛く感じるのです。しかも異なる形態の功、異なる形態の機能、異なる形態の術類のものが、あなたの身体の中に現れて、それが動くともあなたは辛く感じるのです。あなたがそれを病気だと思えば、またどのように修煉するのでしょうか？ あなたが本当に法に基づいて修めれば、それはすべて正常なことだとあなたには分かるはずですよ。

以前ある人は身体に憑き物が憑いていました。ある気功師は彼に、あなたの身体には、うわばみが憑いていると教えました。彼はそれでいつも、うわばみが憑いていると感じます。私は彼に今はもういなくなったと教えました。彼はそれを信じず、まだ身体の中で動き回っていると思っています。憑き物があるとあなたが思うと、そのうわばみが憑いていたときの状態が彼の身体に現れてきました。彼のその心を取り除かれるまで、この状態は変わりません。それはあなたのその心を取り除くためなのです。もしそれが一種の執着を形成してしまえば、取り除き難くなります。その人はかなり長い時間がかかってやっと取り除きました。

弟子：如何に機能に対応しますか？ 例えば天目で何らかの物や光が見えたら、それを見るほうがよいのか、それとも見ないほうがよいのでしょうか？

師：見えるなら見てもいいのです。煉功の時に静かに観察すれば、これは執着ではあ

りません。

弟子：一部の学習者は天目が開いて幾つかの光景を見ましたが、輔導員は機能がなく見えません。

師：見えるか見えないかは、異なる人が異なる次元で修煉して達した漸悟状態によるものです。漸悟に達したとしても、あなたの功が高いから高く開き、彼の功が低いから低く開くとは限りません。それは違います。天目の次元の高さは人の功の次元の高さを決めることはできません。自身の要素、条件、多方面の原因によりあなたがはっきりと見えるかどうか、あるいは見ることができるとかが決められており、これは多方面の原因により決められたことです。それは人の修煉が良いか悪いかを意味しているわけではありません。必ずこの点に注意してください。私は天目が開いたので、私は他の人より功が高いというのは、誤った認識です。

我々の長春ではこのような人が現れたのではありませんか？ 彼は天目が開いたので、自分は誰よりも高いと思いました。この人の身体には憑き物があり、あの人には何かがあると言いつらしていますが、すべて彼自身が想像したものです。我々の煉功場ででたらめに行ない、最後に彼は誰に対しても不満を覚え、私よりも高いと言うようになりました。ですから、我々は天目が開いたかどうかで誰がどれくらい高い次元にまで修めたかを量ってはいけません。正常な状況下では相応した状態が現れてくるのです。我々の中には特別に良い人はいますが、まだ彼に見せておらず、相当高くまで修煉してから、はじめて彼に見せるのです。ですからこれをもって良し悪しを量らないでください。

今後、皆さんは私を見かけても、見かけなくてもよく、先ほどの質問で、先生がいなくなったら我々はどうすればよいのですか、と聞きました。釈迦牟尼が当時在世中に、師尊、あなたがいなくなったら、誰を師としますか、と聞いた人もいました。釈迦牟尼は戒を師とするといいました。我々は法を師とします。心性の高さを以て修煉の良し悪しを量る基準にすべきであり、機能の多さを基準にしてはいけません。さもないければ、皆機能を追求するようになるのではありませんか？ 機能はあなたの修煉

の過程の中に付随して現れたものです。世間法で修煉して現れた機能はすべて人の本能です。それは人の思想が複雑になるにつれて次第に退化しました。

あなたの修煉につれて、それが自然に現れてきます。あなたが返本帰真して元へ戻る時、はじめて人の本性が戻ってきます。彼にいくらはっきり見えたにしても、私の見た次元を見ることはできないし、見えたとしても、宇宙の最高の真理まではまだまだ遥かに遠いのです。彼に見えたのはただその次元の体現であり、それを真理としてはいけません。人が修煉の過程の中で、ある次元のことを評価の基準にするのは正しくないのです。「法には定法なし」とは、即ちこの道理です。ある次元の体現を真理としてはいけません。法には定法はなく、ある次元の法はその次元でしか作用しません。ですから、彼はある次元のもの、その次元の状態を見て、かなりはっきり見えたら歓喜心が生じてしまいますが、しかしそれはとても浅い次元のものであり、くれぐれもこのことを覚えておいてください。

弟子：子供が修煉する際、五式の功法は必ずやらなければならないのですか？

師：子供の場合は多く煉功できれば多くてもよく、少ししかできなくてもそれでよいのです。修煉の主要な目的は人の心性を高めることです。ですから、子供に対して心性に関することを多く教えてあげれば、子供に対して良いでしょう。私はとても幼い時、全然外形のものを煉ることができず、主として心性を修めたのです。一部の子供を普通の子供として扱わないでください。一部の子供はたいへん素晴らしいのです。当初我々がこの事をやると決めた時、すでにかなり高い次元の人がついて来ました。私が来た時、各次元の中からもついて来た人がおり、彼らは私が間もなくやろうとすることを予測できました。特に最近この時期になって、我々のこの小宇宙と銀河系の中からやって来た人がかなり多くいます。少し前は、彼らは予測できなかったのですが、私が出山の直前になって、彼らは知り、どんなことが起きるのが見えたので、たくさんついて来ました。何のために来たのでしょうか？ 法を得るために来たのです。彼は以前の法がすでに崩壊したことが分かり、あらためて修煉するためにやって来ました。彼らを一般の人と見なさないでください。彼らはかなり素晴らしいのです。しかしどの子供もこういうことではなく、一部の子供はかなり素晴らしいのです。

弟子：自分がどの次元まで煉ったかを、どうすれば知ることができますか？

師：我々の一部の学習者はすでに漸悟の状態に達しており、また一部の学習者は次第に漸悟の状態に達するようになります。達しても、達していなくても、あるいははっきり見えても、見えなくても、煉功場で煉功した後、互いに切磋する時、みんなに話してもかまいません。あなたが顕示心を持たずに話せば、我々全体の修煉に有益なのです。天目でものが見えても話してはならず、話したら天目は閉じられてしまうという人がいます。これは昔の煉功ではすでに普遍的に認識されたことですが、彼が話したから天目が閉じられるというわけではありません。皆さん考えてみてください。気功を普及するあの時期に煉功者の中に徳を特に重んじる人がいたのでしょうか？ 本当に修煉する人は極めて少なく、彼は徳を重んじることを知らないのです、何かが見えたらすぐ話してしまい、自分の執着から顕示心が現れるので、当然ながら天目が閉じられてしまったのです。

また一部の人は言うべきことも言うべきではないこともすべて話してしまい、そのため彼の天目は閉じられてしまいました。これがその原因です。もし法に対する認識を高めるために、互いに交流するなら私に言わせれば、それは何の問題もありません。この点について、はっきり区別しなければなりません。もし彼の天目が閉じられ、傷つけられたら、それは彼が常人に言うべきでないことを言ってしまい、あるいは顕示心を帯びていたからです。煉功者の顕示心は執着心の体現ではありませんか？ ですから閉じなければいけません。当初一部の人の天目が閉じられた時、彼に機会を与えているのです。彼にはっきり見えたり、はっきり見えなかつたりする時、あるいは見えたり見えなかつたりするのは、つまり彼に注意しているのです。しかしそれらの人はどうしても悟れず、最後に完全に閉じられてしまいました。傷つけられた人もおり、ひどく傷つけられてしまったのです。

弟子：正果を得ることと圓滿は、どの次元ですか？

師：この問題に関して私はすでに話しました。正果を得るということは、羅漢果位に

到達したらもう正果を得たのです。圓滿とは修煉が終ることです。通常では正果を得るとともに功を開いたことを指し、すなわちこの二つのことを同時に修煉し終わると圓滿なのです。

弟子：その後如何に修煉しますか？ 常人とどう違いますか？

師：まだ常人の中で常人と同じように苦に耐えなければなりません。あなたが羅漢果位を得たとしても、常人の中で大した力もない子供があなたを罵っても、あなたが常人の中で修煉しているので、引き続きあなたの心を取り除かなければなりません。一部の人、根基がよい人は、彼の心はすでにかなり取り除かれましたが、再びあなたにもう一度繰り返させるのです。一般の修煉、正常な修煉では、一通りで圓滿になりますが、一部の人には二度繰り返させます。あなたが高いところへ修めようとするならば、三度繰り返させて、すべて修めて乗り越えましたが、再度あなたに繰り返し修めさせます。もっと高いところへ修めようとするなら、この問題が現れるはずで、あなたはやはり常人の中で修めなければなりません。もしあなたが羅漢果位を成就したら、あなたに迷惑をかける人はおらず、常人の中で誰もがあなたに迷惑をかけず、あなたがこの環境を離ればどのように修めるのでしょうか！ もしあなたに迷惑をかける人が常人ではなく、常人の中で佛や菩薩、羅漢らが現れて、あなたにトラブルを造ってあなたの執着心を取り除くということは、それはありえないのです。師父があなたにこれらの事を造り、これらの事を按排し、すべての難を按排するにしても、やはり常人を利用して行なったり、常人を使ってあなたを妨害したりして、常人の環境の中で向上させます。

弟子：一部の学習者は講習会に参加してから、また他の功法に参加しましたが、まだ引き続いて法輪大法を修煉しようと思ったらどうすればいいのでしょうか？

師：このような人は往々にして悟性があまり良くありません。我々は修煉は縁に従うと言いました。彼は得ようと思って法輪大法を学びました。彼に学びに来させる人はいません。彼は法輪大法が良くないと思うようになり、学ばなくなりました。彼は後でまた法輪大法がいいと思って、また学びに来たくなり、それなら学びに来てよい

のです。うまく修められるかどうかは彼個人の問題です。法輪大法に入って真に修める弟子になれるかどうかに関しては、我々は彼に厳粛に言わなければなりません。つまりあなたが我々のところで修めるなら、それ一つだけを修煉し、法輪大法に専念して修めなければなりません。さもなければあなたは何も得られません。ここで専一でなく、むやみに練るなら何にもなりません。我々は善意で彼に言えばよいのです。しかし、あなたが我々のところで煉功してはいけないと言ってはいけません。我々には何の権力もなく、人に命令する資格はありません。人に勧めることしかできず、善を勧め、善を勧めるのです。

弟子：各地で講習会を行なう状況や全国での法輪大法の情勢はいかがでしょう？

師：現在、法輪大法の講習会を行なうことは、とりあえず全部断っています。断った理由は私が今処理する必要なことが沢山あり、各方面の事も処理しなければならないからです。これからどうするかに関しては、現在はまだ考えていません。処理し終わってから、処理した状況により決定します。法輪大法の発展状況を言うと、私は皆さんに教えますが、現在、我々の法輪大法は人から人へと伝わり、法輪大法を学ぶ学習者はすでに相当多くなり、私に言わせれば数十万人もいるでしょう。私が各都市に行って講習会を開く時、当地の市や県から来た人もおり、人の来ていない県は殆どありません。彼らは帰った後、あちこちに行って伝え、このように伝わっているので、発展はすでに非常に速くなっており、人数は非常に多くなりました。湖北省のある県の町では、最初学ぶ人は二人しかいなかったのですが、現在千人以上に発展しました。このような事例はたくさんあります。煉功場に行って煉功する人がいれば、煉功場に行かないで煉功している人もおり、具体的な数字はなかなか把握しにくいのです。

弟子：かつて精神病や癲癇を患った人は煉功できますか？

師：私は皆さんに注意しておきますが、このような人を我々の煉功場あるいは講習会に連れて来ないでください。もしかすると、我々の法を破壊することになりかねません。もし講習会であるいは煉功場で彼に発作が起きたら、人々から法輪大法を煉ったから病気になったと言われてしまいます。そうなれば、我々の法を破壊したのではあ

りませんか？ なぜなら、我々には一つの前提があり、人のために病気を治療してはいけないからです。ただし我々には一つの条件があり、本当の修煉者に対しては、小さな病気なら、即時に解決することができます。大きい病気にかかった人、身体にあまりにも多くの良くないものを帯びている人は、自分の考え方を変えてから、はじめて取り除くことができ、修煉したいと決心してから、はじめて彼のために業を取り除くことができるのです。もちろん、一部の人はまだ修煉する意思がないうちに、すでに処理してあげました。本を読み始めた時すでに処理しました。なぜでしょうか？ 彼の根基がとても良く、彼は元々得るべきだからです。このことは皆一律に見てはいけません。家族の中にこのような病人がいて、大法が良いと思うなら、彼に学ばせても良く、彼に家で学ばせれば良いのです。我々は先に明言しておきますが、私が勝手にこれらの常人の問題を解決してはいけません。彼が修められるかどうか、彼自身によるほかありません。修められないなら、あなたも彼に修めさせないでください。一旦問題が現れたら大法を破壊してしまうことになり、私がこれらの常人の問題を解決してあげても良いのですか？ 私が治療してあげないので、彼は法輪大法を煉って精神病になった、先生は治療してくれないとあちこちで言いふらし、私に泥を塗ります。いずれにせよ、我々はすでにはっきり言いましたが、彼を講習会に入れず、煉功場にも来させません。癲癇の人なら一般的に問題はありません。講習会で我々は癲癇の人は講習会に参加してはいけないと明確に言ったことはありません。一般的に我々の係員は彼に入ってほしくはありません。彼が考え方を変えていないうちは、発症しやすいからです。発症すれば我々に影響をもたらします。癲癇の人は精神病の人と違い、彼は単一の問題であり、ただ頭の中に一つのものがあるだけです。その良くないものが取り出されたら良くなります。一般的にはこのような状況です。

弟子：全体の向上についてどのように理解しますか？

師：全体の向上とは、つまり完全無欠の向上ということです。我々の修煉過程の中で、あなたの身体のあらゆる生命体とあなたが修煉してできた生命体は皆あなたと一緒に向上します。我々は全体の調整を講じますが、全体的に皆さんのために、学習者のために身体を調整します。全体の向上とは、主にあなたの心性が上がってきて、あなたの功も同時に上がってくることを指しています。先ほど話したことと同じです。あ

る人は、なぜ生理がこないのかと聞きましたが、あなたの心性が上がってきたら、功も上がってくるのです。業力があまりにも大きい人は身体を調整しても、一部がついて上がることができず、遅れる可能性もあります。つまり全体的に向上しなければならず、その先決条件としてはまず心性が向上しなければなりません。ただ身体を変えたいとか、劫難から逃れたいと思うならそれはいけません。修煉で自分自身を変えようとするれば、心性を修めることから始めなければなりません。次元の高さを決める功がなければ、つまりあなたの心性の高さが変らなければ、何を話しても無意味なことです。

弟子：一部の学習者が提出した問題ですが、魔の大法に対する妨害について如何に対処すべきでしょうか？

師：皆さんに教えますが、我々の正法を伝えることに、もし反対する人がいなければそれこそおかしいことです！ 皆さん考えてみてください。私が今日もしこの事をやらなければ、私は一番楽です。私が皆さんのためにこの事をしているので、私が遭った妨害とあなたたちが遭った妨害が、皆この法を阻害し、人に法を得させないのです。人があと一歩というところに至ると、法を得ようとするれば、魔は許さず、あなたを阻害しようとしています。その魔は、あなたは私に借りがあり、私がまだあなたに返してもらっているのに、あなたが法を得たら、私に返すべき借りはどうするのかと考えています。その魔はあなたを恨むのです！ 各方面の要素はみな阻害の作用をしています。はっきり言えば、すべては自分でもたらしたことであり、人はみな業力があります。昔、イエスは、人間よ！ 汝には罪があると言いました。彼が人間には罪があると言ったのは、業を罪と称したからです。実際はこうなのです。自分が良くない事をしたので業力をもたらしました。それは罪ではありませんか？ それは各方面に阻害の作用をします。あなたが正法を得たので、もちろんあなたを妨害します。つまりこの原因です。ですから、我々が遭ったこれらの事はすべて我々の心性に対する試練です。法輪大法を学んだら如何に良くないとか、あれこれ言う人もいますが、それもあなたが固い意志を持っているかどうか、本質からこの法を認識できるかどうかを試しているのです。あなたがまだ本質からこの法を認識していなければ、あなたはどのよう修めるのですか？ あなたが悟りを開く前に、法に対して固く信じることができ

るかどうかという観念がずっと存在しており、どの門派においても同じです。本質的なものにおいてあなたがまだ固い信念を持っていなければ、それではあなたは何を修めるのでしょうか？ ですからこの方面の試練と妨害があります。

私が講習会を開く時、必ずたくさん別の気功講習会も同時に始まります。私がおもいここで講習会を開かなければ、そんなに多くありませんが、私が講習会を開くと、一気に多くの邪な気功も集まって来て講習会を開きます。なぜでしょうか？ つまりあなたがこの事をやろうとすれば、それと相応して魔の妨害もやって来ます。即ちこのように按排されているのです。どの門に入るのか、正法を得るのかそれとも邪法を得るのかはあなた次第です。あなたがどの門に入りたいのか、あなたが決めることです。言われたように、人が修めることは非常に難しいことであり、しかもこうあるべきなのです。非常に難しいのも当たり前のことです。なぜなら、我々の一切はすべて自分もたらしたからです。しかしこの難の中から人の心性、悟りが現れます。向上できるかどうかは、様々な方面の原因により、相補って成し遂げられます。弁証法的にこれらの事を見るべきであり、ですからこれらの妨害があるはずで

長春にはこのような人がいました。彼は、私は佛だ、あなたは他の人に従って学ばなくてもよい、私はどうのこうのと言いました。各方面の妨害、甚だしきに至っては私の個人の名誉に対する破壊もあり得るのです。あなたがそれを受け入れるかどうか、信じるかどうか、どのように対処するかを見るのです。それは様々な手段を使って破壊しに来るはずであり、あなたの心を動揺させるためです。あなたが揺るぎなく信じるかどうかを見るのです。

ある人は一心に正法を修め、あれこれのことに動揺しないと言いました。実際は、我々の多くの学習者はすでに法の威力を体験し、自らの変化もかなり大きく、私の説いたこの道理も分かっています。それでも、彼がまだ動揺するなら、それは悟性の問題ではありませんか、悟性は確かに非常に低いのです。つまりこういう道理です。ですからこれらの妨害は、私に言わせればそれも正常なのです。修煉はまさに荒波が砂を洗うように、砂をすべてふるい落とすあと、残ったものこそ真の黄金です。どれぐらい黄金が残るか、それは皆さんが如何に修めるかによるのです。

弟子：法輪大法の宣伝資料を多く作って、煉功場で宣伝するために使っては如何でしょうか？

師：我々の法輪大法の宣伝、功を伝える方法は、すべて現在の気功の宣伝方法とは違うのです。皆さんが知っているように、我々は何かを誇張したこともなく、何かを持ち出して見せびらかしたこともありません。このようなことはありません。他の気功師はもし病人を一人でも治したら、あちこちにこれを宣伝し、聞く人がいなくなるまでずっと宣伝をやめないのです。我々にはこのような事はありません。我々の学習者は何千、何万人もおり、皆病気がなくなりましたが、これを宣伝したこともなく、これらの事をわざわざ持ち出すこともありません。もちろん、初期のころ、皆さんは新聞で何らかの情報を見たことがあります。なぜでしょうか？ 初期のころ、我々は通常の気功の形式で伝え出したのです。最初からこんなに高いことを説いたら、人々は受け入れられないのです。ですから、我々もこのような初歩的なものから次第に認識させる過程を歩みました。皆さんも知っているように、我々が初期に長春で講習会を開催した時、私が説いたものもかなり高かったのですが、しかし、いつも気功と称していました。我々は今日、高次元へと功を伝えるので、これらのことはもう言わなくなりました。これも人々に次第に認識させる一つの過程なのです。

弟子：自動車工場は十万人以上の従業員がいる企業なので、うまく展開できなければどうしましょうか？

師：我々のこの法輪大法は、自動車工場において本来比較的うまく展開していました。皆さんはそれらの魔を知っているでしょう。それらの妨害はかなりすごいのです。それはつまり魔なのです。しかし我々はすでに話しましたが、これらの事は皆相補って成り立つものです。どれくらいの人々が修められるのか、修められないのか、それは個人によることです。妨害がなければそれはどうして可能なのでしょうか。妨害をする人がいなければ、あなたの修煉はあまりにも易しすぎるのではありませんか？！ 大道がこんなに平坦で、上へと修めるのに、如何なる難もなければ、これは修煉ではありません。そうではありませんか？ 魔難があってはじめて人は修めることができる

かどうかを見分けられ、はじめて人の各種の執着心を取り除くことができます。しかしこの魔は確かに非常に大きいのです。それは相当大的な破壊作用を果たし、たくさんの人を台無しにしました。果たした作用はすでに一般の魔の作用を超えました。これらの事はかなり高い次元においても知られており、高級生命も皆知っています。どう処理しますか？ これらのことに関しては私の同意が必要になります。私は人に一度機会を残したいのですが、今見たところではこの機会はまだ残してはいけません。将来自動車工場では大法を学ぶ人がきっと多くなってくるはずで

弟子：一部の学習者は講習会に参加しようとしていますが、ずっと参加できていません。朝晩の煉功場の学習者はどうしたらいいのでしょうか？

師：一部の学習者は講習会に参加しようとしていますが、私のこの講習会はずっと行なっている、また十年続けていても、まだ参加しようとする人がいるはずで

我々には多くの古い学習者がおり、更に私の本や録音テープ、録画テープがあり、すべて法を伝播し人を済度し教化する作用を果たすことができます。実は、皆さんはすでに主力の作用を果たしています。特にこの期間において、あなたはきっと主力の一人です。私が直接伝えなくても得ることができます。そうではありませんか？ そうであれば、皆さんはこの方面の仕事をできるだけ多く担当すべきだと思います。他の人を助けて、特に学ぶために煉功場に来た人に対して、輔導員は更に責任を負うべきだと思います。あなたの責任は小さくなく、簡単に人に呼びかけるようなことだと思わないでください。できるだけ多く法を会得し、多く法を学び、より多くのものを習得すべきです。

私は一つの問題点を特別に強調したいと思います。つまり我々の煉功場で、望ましくない反応が出たり、変な状態が現れたり、気が狂ったようになりたりする人は、必ず他の功を練ったり、他に追求しているものを放棄していないのです。これは間違いのないことです。絶対に間違いのないことです。このような人は百パーセント他のものを練っており、あるいは家で他のものを祀っており、放棄していないのです。これは一つの状況です。もう一つは法輪が変形した問題です。これも他の功法を混ぜて練って、あるいは意識の中で混ぜたことによって起こった問題です。この二つの状況は、

皆さんに教えますが、間違いなくこのような原因によって起こった問題です。この二つの状況だけは普通私の法身がかまうことはありません。彼は他の功を練り、混ぜて練るので、我々法輪大法の人ではありません。私の法身は彼にかまわず、法も彼に与えません。それらのでたらめな魔は彼が法輪大法を煉り始めたのを見れば、もちろん彼を妨害し危害を加えるのです。彼は気が狂って、法輪大法を破壊しかねません。このような問題が現れることがあります。このような人もいます。彼は一心に法輪大法を修煉していますが、意念の中であるいは動作の中ではいつも何かを感じてみたい、何か他のものを加えてみたいと思っています。以前、他の功を練っていた時に少し感覚がありましたが、今回法輪大法を煉ったら、そのような感覚はなくなりました。彼はまだそのような感覚を求めています。これは執着するものを追求しているのではありませんか。彼が以前のもを加えると、法輪は変形してしまい、法に問題が現れます。絶対こういう状況です。

弟子：人生の本当の意義はより楽に生きるためですか？

師：次のような考えを持っている人もいます。つまり私は何のために修めて佛に成就するのかと言っています。これは佛に対する認識が非常に乏しいことを物語っています。何のために佛を修めるのかと言っています。笑い話ではありません。彼は確かに知らないのです。何のために佛を修めるのでしょうか？ 一つは、永遠に人身を保つことができるようになります。二つ目は永遠に苦しまず、永遠に美しく生きていくことができます。人の一生は非常に短いのですが、人身が保たれることはその一面です。その他には彼は苦しまないのです。あなたの生命が生じた所はかなり高い宇宙空間にあります。宇宙空間から来たのですから、本性は善良なのです。自分が悪いほうに変わってしまったので、一步一步ここに落ちて来て、壊滅されるのを待つばかりです。それはこのような過程です。何のために元に戻るのでしょうか？ 本当あなたが生じたところは高層空間なので、それこそ最も美しいところで、あなたのいるべきところ

です。

大覚者の言葉で言えば、人はまるで泥沼に落ちているようで、皆ここで泥んこ遊びをしているのです。しかしここに人が来たとき皆このようであり、まだ悪くないと思

っています。人は皆とても良いと思っており、泥んこ遊びをしているのに、まだ気持ち良く、悪くないと思っています。一つ例を挙げますが、人を罵っているのではありません。例えば、豚小屋の中で寝ている豚は糞尿の泥の中におり、その境地の感覚では、それは悪くないと思っていますでしょう。人は常人の境地の中におり、一旦昇華して上がってきて振り返って見れば、とても耐えられることはありません。つまりこういう道理です。人は常人の中で泥んこ遊びをしており、いたる所でとても汚いと言われていますが、つまりこういう意味です。この汚い環境の中で自分は他人より少しきれいだと思って自慢していますが、実際は泥だらけの身体を泥水で洗っているに過ぎず、私に言わせればさほどの違いはないのです。

弟子：人生の本当の意味はよく修煉して、佛になることですか？

師：佛になることではなく、返本帰真なのです。よく修煉して元に戻ることが、本当の意味です。高級生命の立場から見ればこうなのです。しかしあなたが常人の中の学校の先生に聞けば、このようにあなたに教えるはずはありません。なぜなら常人は常人の中の事情をあまりにも重く見ており、彼には宇宙の真相が見えないからです。人類は現在、西洋から伝わってきたこれらの知識を詰め込まれてあまりにも絶対化しており、かえって人はますます物質化してしまいました。現有の理論を用いて一切を量り、人類はこの常人の中にますますひどく陥っています。

弟子：夢の中であちこちトイレを捜して、やっと一カ所見つけましたが、目覚めたらすでに漏れていましたか？

師：皆さんに一つ例を挙げましょう。武当山は真武つまり玄武、道家でいう玄武大帝の修煉の場です。武当山での玄武の修煉物語を読んだことがあります。それは彼の修煉の過程を語っています。その中の一節に彼のことをこう書いています。彼が長年修煉して、四十年あまりの歳月で、すでにかなり高い次元にまで修煉できました。ある日夢の中で、魔が彼を妨害しに来て、美女に化けて全裸になりました。彼がふらふらしている時、自制できず情を起こしました。その後、彼は非常に悔しくてとても後悔しました。彼は自分の修煉はまだ見込みがあるのか？　こんなに長年修めてきたのに

何にもならず、自分の心を律することもできず、もう駄目だと思い、自棄になって山から下りて来ました。下りて行く途中で、針を磨いているおばあさんを見かけました。鉄棒を針にしようと磨いていたのです。当時、古代の人は皆この方法で針を磨いていたのかもしれませんが。

彼は、おや、あなたはなぜこんなに太い鉄棒を磨いて針にするのですか、とおばあさんに聞きました。おばあさんは時間を長くかけて磨けば必ず針になると彼に教えました。真武は心から感動しました。このおばあさんは針を磨く時に碗の中に水を入れていました。水は一杯になって溢れているのに、まだその中に入れてあります。彼はおばあさんに、水が溢れているよと言いました。彼女は満ちたら自然に溢れると言いました。実は彼女は彼に啓示しているのです。一人の人が修煉の過程で、それをあまり重く見ないようにという意味を彼に教えたのです。一回うまくできなくても、次回はきつとうまくできます。人体には皆このような本能があるので、満ちたらそれが漏れるのです。彼女は彼にこの意味を示したのです。この話の中に一つの物語を語りましたが、あまりまとまっておらず、あまり適切ではないようです。しかし皆さんに教えますが、この事はその通りかもしれませんが。先ほど質問を提出した人のことは、このようなことかもしれません。

弟子：站樁あるいは坐禅をするたびに、煉功し始めると、すぐ煉りたくなくなります。やめたらまた後悔するのですが？

師：それは自分の心から生じた魔の妨害です。常人の心には魔（思想業力の妨害）が生じることがあるのです。なぜでしょうか？ あなたの心の中、思想の中に生じたそれらの良くない思想物質は皆抵抗の作用をします。あなたの修煉が良くできていれば、このような悪い物質は消滅されてしまいます。ですから、それは承知せず、あなたに煉らせないのです。なぜあなたは煉功する時いつも動揺するのですか？ 思想の中で、煉るのをやめよう、こんなに苦しいと思うからでしょう。あなたに教えますが、その思想には原因があるのです。外からの魔の妨害がなくても、自身からの魔の妨害があるはず。それらの良くない物質による作用です。如何なる物質も他の空間においては皆霊体です。

私はこのような話をしたことがあるのではありませんか。あなたが良く修煉できればそれが消滅されてしまいます。それを消滅してはじめてあなたは良く修めることができ、はじめてその悪い考えを取り除くことができます。坐禅の時入静できない人がいます。雑念がずっと湧いてきます。それはあなたにそれらの物質が存在しているからです。それも生きています。それはあなたの思想の中で以前生じたものであり、妨害の作用をしています。あなたが良く修煉できれば、それは消滅され、消滅されればされるほど少なくなり、最後には全部消滅されます。それではそれが承知しますか？ あなたが修煉すれば、それは妨害します。

思想の中で師父を罵り、我々の大法を罵る人もいます。しかし必ずはっきり分かなければなりません。それはあなた自身の主意識が罵るのではなく、思想業という悪い物質があなたの思想に反映して生じたのです。一旦この問題が現れれば、すぐそれを抑えなければなりません！ 主意識は必ず強くならなければいけません。修煉を邪魔する意識が現れれば、すぐ排除します。こうすれば、私の法身はあなたの思想がしっかりし、動揺しないのを見て、あなたを助け、それらの大部分を消去します。ですからあなたはこのような体験があるはずですよ。

弟子：修煉の次元はすでに決まっていますが、大法無辺なので、もっと高い大佛に修めて成就できるということは本人が達した次元を指しているのですか？ 例えば羅漢に達してから再び願を立ててあらためて修めることもあるのでしょうか？

師：ある人は羅漢果位まで修め、羅漢果位で圓滿することを定められていましたが、それではだめで、私はまだ高いところまで修めたいと思い、あなたに本当にその能力があれば、あなたは再び願を立てて、もっと高いところへ修めることができます。昔このような人がいましたが、非常に稀です。なぜあまり見られないのでしょうか？ 人に修煉の道を按排する時、按排したその次元はすでに彼自身の状況に基づいて按排したので、各種物質の多少は自分の耐える能力によって決められているのです。ですから一般的に大きな違いはないはずです。しかし特別に良い人も稀にいます。彼の持っている一部のものは隠れており、一定の次元では見えないのです。修煉が一定の次

元に達すると、その師父はもう自分の力で導くことができなくなったと見て、自ら去って行きます。それからまた別の人が来て導きます。このような状況もあるのです。更に高い次元へ導くことは、自分が言う必要はなく、彼が自らあなたを更に高い次元へ導くことになります。

弟子：ある日、李先生の夢を見ました。先生は、あなたの状況はちょっと特殊だと言われました。その意味は、私はどこかの方面において駄目であるかも知れないということのようです。その後、李先生は私のために身体を調整されて、私は下腹部、足の裏にサーっとした流れを感じました……。

師：これはとても簡単なことです。これはあなたが修められないということではなく、あなたが修める過程でまだ他の要因があることを意味しています。これは一般的に法身が解決できます。この状態は夢ではなく、確実に接触したのです。あなたは昼間に定力が足りず、定の中で見えないので、夢の中で見ました。それはかまわないのです。夢の中で私と接触することは正常なことです。

弟子：よりよく修煉するために、日常の生活の中で真、善、忍を心の中で念じるのはよろしいですか？

師：日常生活の中で真、善、忍を心の中で念じるのは、問題ありません。これは構いません。煉功の時には念を動じさせないようにしてください。

弟子：『長春夕刊』の報道によると、今年の夏チベットである人が経を講じ、大小の二百あまりの活き佛が参加しました。どのようにこの事を見ますか？

師：和尚も、ラマ僧も人間です。彼らが何かをやりたければやればよいのです。彼らがやった事は佛がやったのではなく、佛がやらせたのでもありません。常人はこれらのことを重く見えています。修煉者ははっきりと分かるべきです。経を講じることも同じで、修行者の一種の宗教活動にすぎません。そのうえ、末法時期には講じられることはもう何もありません。その他にもう一つの問題に触れますが、皆さんが知ってい

るように、和尚にしても、ラマ僧にしても、国家の政治、法令に干渉してはならず、常人の中の事に干渉してもいけません。そのようなデモを行なったり、独立運動を行なったり、皆さん考えてみてください、修煉者としてこれをすべきでしょうか？ これは常人の執着心ではありませんか？ 常人のことをあまりにも重く見すぎたのではありませんか？ これらのことは、修煉者の取り除くべき執着心ではありませんか？ 私は我々法輪大法のところは浄土だと言いました。これは間違いのないことです。我々は学習者に対する心性の要求が非常に高いのです。我々は学習者に心性の修煉を重んじることを要求しています。英雄や模範人物は、常人の中の英雄や模範人物にすぎず、我々の要求では、あなたが常人を超えて、完全に個人の利益を放棄し、すべて他人のためにするのです。その大覚者は何のためにするのですか？ 彼はすべて他人のためです。ですから、学習者に対する私の要求は、かなり高く向上も非常に速いのです。

一つの例を挙げて説明しましょう。私が先ほど言ったこの話は決して行き過ぎではありません。全国各地の各業種でどんな大型の会議を開く時にも、落とし物を捜すのは非常に難しいのです。もちろん稀に良い人もいますが、それは非常に少ないのです。法輪大法の講習会では落とし物は全部見つかります。どこの講習会でも同じです。何千人もいる講習会で、毎回の講習会で拾った腕時計や金のネックレス、指輪、お金、金額は多いものから少ないものまで、千元以上のこともあり、拾ったらすぐ届けてくれます。私が会場で放送したら、落とし主が取りに来ます。このようなことは、雷鋒を見習うあの年代で見たことはありますが、学習者も最近は長年見たことがないと話しています。講習会が終わってから学習者は皆自ら心性を要求し、他人と社会に責任を持ち、厳しく自分を律することができます。私が言った我々のところは浄土であるということは正しいのではないのでしょうか？

弟子：ある学習者は何かの自然〇〇功の本をめくってみました。本の中で自分の功を賞賛し他人を批判して、法輪大法を貶す内容があります。この学習者は二頁めくった後、本の中にこの功の動物の影が動いているのが見えたので、入静に影響を受けましたか？

師：我々はすでに言いました。これらのものを読んではいけません。あなたは何のためにそれを読むのですか！ 真剣に修煉する弟子はこれらの偽りのもの、邪なものを全部焼却したのに、あなたはまだそれをめぐり、この差はあまりにも大きいのではないのでしょうか？ あなたは求める心を抱いてそれを見ていたのではありませんか？ でたらめなものを見ないでください。本物の功法は、公に伝えておらず、これらのごとに関わらないのです。気功を普及する気功師は、やるべき事をすでにやり終えたのです。現在、今日この功が現れ、明日にはあの功が現れても、それらの気功はほとんど偽物です。外部で、正法を伝えることを妨害したり破壊したりしているのです。

ことの分かる気功師は、皆伝えなくなりました。今でも伝えているのなら、法を妨害しているのではありませんか？ やるべき事をやり終えて、大きな功績を立てました。今も更に伝えるならば、妨害になります。ですから金銭のため、売名のため、利益のための偽気功師はすべて魔です。彼自身が自分は魔であることを知らないのです。我々は講習会で絶対的に言わなかったのは、主に一部の人が受け入れられないことを配慮したからです。実は、ほとんど魔が妨害しているのです。

弟子：学習者が入静して煉功する時、いつも邪な考えが現れるのですが？

師：そうです。これも私が先ほど言ったことで、以前自分が良くないことをした時に生じた各種の考えが物質として存在しており、これらの物質が作用しているからです。あなたがそこに坐って煉功する時、それらの良くない考えは、人を罵りたくなったり、悪い事をやりたくなったりして、あなたを操り考えさせます。つまり以前思想の中に生じた悪い物質がまだ作用しているのです。先生を罵る場合もあります。あなたは心配しないでください。あなたはできるだけそれを抑制し、排斥すれば、それは消滅されるはずで、必ずこのような良くない考え方を排斥してください。一旦現われても心配しないでください。それはあなたが先生を罵りたいのではなく、思想業力があなた的大脑に反映しているのです。

弟子：学習者が静功している時、他の学習者がある功にはイタチの憑依があると周りの人にいつも話しています。夜学習者は夢の中で誰かに香を焚くように教えられまし

たが？

師：今後これらの話は直接別のでたらめな功を練る人に言うべきではありません。我々の一部の学習者はとても仲のよい友達がいる、彼が練っているのがその憑依した功であれば、あなたは彼に説明しても構いませんが、できるだけ側面から話しましょう。あなたが多くの見知らぬ、しかも憑依した功を修練する人のところに行きその功が良くないと言ったら、もちろん彼らはあなたを攻撃し、一緒に非難し、場合によっては聞きづらい言葉を言うかもしれません。我々はこれらの厄介な事を避けるべきです。我々は善を勧めるように話します。彼が認識できればいいのですが、我々はできるだけこれらの事を避けるべきです。本当にその功の門に入ってしまった、その中から出ようと思わない人は、すでに邪道に入ったので、彼の本性はすでに迷ってしまい、少なくとも悟性が駄目になったのです。改めることができればもちろんいいのですが、改めようとしなければ、無理に勧めてもだめです。要するにやり方に少し注意すべきであり、これらの事に注意すればいいのです。邪なものがあなたを傷つけることはできません。

弟子：カレンダーを複製する人が原価で学習者に譲っており、一銭も儲けないのならよろしいですか？

師：これらの事を私はこう考えているのです。たとえこの学習者が非常に良く、皆のためにこの事を行い、原則的には背くこともありませんが、しかしその中には金銭のやり取りの問題があります。たとえ原価でも金銭に関わっています。私の考えではできるだけこれらの事を避けて、金銭に触れないでください。なぜなら、あなたが金銭に触れているうちに、時間が長くなると心の中でバランスが取れなくなる可能性があるからです。いつもこれらの事をやっていれば、次のような考えが生じるかもしれません。つまり私はこのままでは採算がとれないとか、私の交通費はこの中から捻出すべきではないかとか、他に少し損失があったので算入すべきではないかと考えてしまいます。これによって人の各種の心を助長することになります。段々とこの事に対して把握できなくなるので、くれぐれもこれらの事に注意しなければなりません。

なぜ皆さんにお金に触れさせないのか、皆さん知っていますか？ 釈迦牟尼は二千年五百年前、人にお金と物に触れさせないようにするために、皆を連れて深山に入って修煉していました。ただ一つの托鉢用の碗しか持っていませんでしたが、この碗に関しても一度法を説き、碗に対しても執着してはいけないと注意しました。これらのことは適切に処理できなければ強く人を妨害し、人の修煉に影響するので、くれぐれもこのような事に注意しなければなりません。イエスも当時人々を連れてどこかに着いたら、そこで食べ物をもって、お金に触れさせなかったのではありませんか？ 私はこの事に言及しましたので、この例を挙げました。あなたたちはまだ深く理解できないかもしれません。私は必ず正しく歩まなければなりません。私もあなたにこのようにさせてはいけません。長い歳月が経ってから、人々が李洪志の時期にこうした人がいたと言うなら、それではこの法はまだ伝えることができるのでしょうか？ とっくに駄目になってしまい、時間が長く経たないうちに駄目になってしまいます。写真がほしい人がいますが、ほしいなら、あなたは自分で複製して自分で現像すればいいのです。しかしできるだけ学習者の範囲に限定した方が良いでしょう。将来これらのものは、我々は社会で公開して発行するかもしれません。私のカレンダーまでも出版物の統一番号がつけられたのです。将来我々は統一的にこれらのことを管理し、くれぐれも自分で勝手にやらないでください。適切に処理できなければ大法を傷つけることになりかねません。

どのように販売するのでしょうか、それは原価で販売してもいけません。くれぐれもこのような心が動いてはいけません。何の役にも立ちません。自分が修煉して向上し人を助けるなら、必ずしもこのような形式を採る必要はありません。皆に法を知らせ、皆に少しでも法を伝えれば何よりもいいのです。人の心性の向上は外形のものよりずっと重要です。これらのことは統一して法輪功研究会が管理します。総站、分站、輔導站は皆お金に触れてはいけません。我々の法輪功研究会はどんなことをするにも皆私の同意を経てから彼らは初めてやるのです。どんな名目でも無断で行なってはいけません。それは権利を侵すことであり、社会の法律も許さないことです。

弟子：ある人はしっかり心性を修めようと思っていますが、日常生活の中で彼の心に触れるものはなく、試練のような夢を見たこともありません。本人は先生が自分を見

守ってくれていないのではないかと心配していますが？

師：そうではありません。一人一人が各自に持っているものとその本人の状態は皆同じではありません。彼の持っているものは複雑なものであるかもしれません。皆さんに一つ例を挙げましょう。これはある特定の人を指しているわけではありません。僅かな人は、わりと高い次元からやって来たので彼は苦を嘗める必要はなく、この法に同化しに来たのです。同化し終われば彼の修煉はそれで終わったのです。僅かな人、極めて少ない一部の人はこのような人です。ただし、あなたの言ったことはこの状況ではないかもしれません。私はただこのような状況があるということだけを言っています。たくさんの人には様々な要素が存在しているかもしれません。あなたが苦を嘗めるか嘗めないかにかかわらず、この法に同化し、この法を学ぶことこそ極めて重要なのです。

弟子：少なくない学習者が、夢の中で見た師父が教えられた功は五式の功法の中のものではありませんが、どうすればいいのでしょうか？

師：五式の功法の中の動作でなければ、それは魔があなたに教えたので、皆偽りのもので、絶対私があなたに教えたものではありません。今日皆さんに伝えたのはただこの五式の功法だけです。これらの功法で十分にあなたの身体を変え、あらゆる術類と有形のものを煉り出すことができます。真にあなたの次元の高低を決定するその功は、練り出すものではありません。それはすでに足りています。夢の中での練功は、頭の中で気付いたらやめてください。練るならこれは心性がまだあまり堅実ではありません。もし堅実であるなら念が動くとすぐ気付くべきです。

弟子：圓滿にならないうちにこの世から去って行った人はどうなりますか？

師：圓滿にまで修めることができず、圓滿に達していなくても、彼はその果位にいて、果位を得たら、すでに成就したのです。しかし世間法から出ていなければ、それは確かに問題があります。世間法から出ていない場合、三界内において異なる次元の空間に彼の行くところがあります。彼はある次元まで修めたらその次元に行けるので、そ

れも得るべきものを得たのです。もし、彼がそれではいけません、私はよく修めなかったが、願を立てて来世も続けて修めたいと思うなら、それでは彼は来世にまた修煉の状態の中に入って、また続けて修めるように按排することができます。しかし一つ注意すべきことは、把握できなければ非常に危険です。また良く修める事ができなければ、やはり下へ落ち、元より悪くなる可能性があります。もし良く修めたら、元より良くなります。つまりこのような関係が存在しているのです。

弟子：心性を修煉する過程で、いつも自分がやり間違えることを恐れ、いつも法により量っていますが、やはり何かにぶつかります。これでよろしいですか？

師：やることをすべて心配していますが、そんなに執着しなくても良いと思います。この関係は非常に対応しにくいのです。考えすぎれば執着になりますが、考えが足りなかったら、間違った事をやってしまう心配もあります。そんなに頭を緊張させる必要はないと私は思います。我々は何かをする時に、一般の事ならやれば良いか悪いかはすぐ分かるはずですが、あなたにはこの事が終わったらまたあの事が出てくるような、そんなに多くのことがあるはずはありません。常人の中の事は考えなくても分かるはずだと思います。突然に現れた事なら、それは良いことか悪いことを考える必要があります。いつもそんなふうに考え、どんなことをしてもそんなふうに考え、些細なことでも考えてしまうのは、私に言わせればそれは心が執着しすぎたのです。正々堂々と修煉して、大事に着目すべきです。もちろん修煉の過程の中で、自分が認識できなかった事をやり間違えてよく把握できなければ、それはあなたがまだそこまで修煉していないからだだと思います。一部の事はあなたがまだ認識できない場合、それほど執着してはならず、この心を取り除くべき時が来たら、自然に認識できるようになるはずですが。

弟子：性命双修の功法であれば元嬰と重なり合うのです。これは正しいですか？

師：つまり性命双修では、改変した本体と修煉してできた元嬰は、その時になると全部あなたの元神と合体して一体になるのです。

弟子：肉を食べると業力が生じますか？

師：肉を食べることそのものは、業力を生じることはなく、殺生の概念も存在しません。肉を食べることそのものは執着心ではなく、肉の美味しさに対する人の執着心を助長するのです。

弟子：一人一人の身体に持っている徳には限りがあり、修められる功の高さが定められていますが、功を開き悟りを開いた後、まだ徳を積んで向上することができますか？

師：徳には限りがあるので、功を開き悟りを開いた後は絶対に向上できないのです。功を開いた後、この人は何でも見え、何でも接触でき、何でも分かるようになるので、もう悟性は存在しません。何でも分かったうえで苦に耐えて高く修めることができれば、それでは修めない人はいないでしょう。佛でさえも更に上を目指して修めるはずで、なぜ彼の修煉は非常に遅くなるのでしょうか、つまり彼はもう殆ど苦を嘗めることはないからです。彼は特殊な貢献ができた時だけ、ほんの少し向上できます。この中にはこのような関係があります。もし徳が足りないというのであれば、まだ業力があります。苦を嘗めれば、業力を転化できるので、徳に転化できます。自分はまだ修められ、まだ修めたいと思い、もし本当に続けて修めることができれば、親戚や友人の業力を取って来て、あなたが消去してあげれば、それも徳に変わります。しかしこれは非常に難しいことです。これは人の心性、心の容量に相応して成り立つのです。その一步になると、すでに満杯になり、もう入れられなくなります。このような状態が現れます。更に苦を嘗めると、容量が足りないことによってその人は悪く変わり、落ちてしまい、修煉が無駄になってしまうかもしれません。

弟子：釈迦牟尼はすでに功を開きましたが、なぜ四十九年間法を伝えてから、始めて如来に達したのですか？

師：非常に高い次元から来た人は、如来を何倍も超えていて、彼が修めるなら、功を開いてから、四十九年も必要とせず、その半分の過程あるいはもっと短い過程を歩め

ばかなり高い境地に達することができます。これは彼の根基と関係があり、彼のいる次元とも直接関係があり、前世にいた次元ともかなり大きく関係しています。一人一人状況が異なります。

弟子：釈迦牟尼は四十九年間で如来の次元に達したのですが、誰が彼に功を演化してあげたのですか？ 彼は頓悟に属しますか、それとも漸悟に属しますか？

師：彼は頓悟に属するのです。彼は人を済度しに来たので、修煉しに来たのではありません。誰が彼に功を演化してあげたのでしょうか、誰も功を演化してあげませんでした。下りて来てこのような事をする人はすべて、下りる前に、多くの大覚者と共にこの事を討論し、自分が参与して今後やる事を決めます。決めておいてから、計画通りに歩み、いつになったら功を開き、いつ圓滿になり、いつ終了するかは、すべて決められていたのです。彼は我々が言っているような功を開き、悟りを開くことではありません。あなたはあまり理解できないかもしれませんが、つまり彼は一度に自分の記憶を開いて、以前の自分が修煉したものを思い出しました。彼はそれを持ち出して人に伝えたのです。釈迦牟尼が当時伝えた法、宗教の法、佛教の法は高くないと私は言いましたが、これは釈迦牟尼が高くないということではありません。釈迦牟尼は自分のものを全部伝えてはいません。彼は二千五百年前に原始社会から抜け出たばかりの人に対して伝えたので、それは彼の法のすべてではありません。

弟子：坐禅する時だけ功を演化するのですか？ それとも心性が向上すると同時に演化しますか？

師：坐禅中、煉功中、苦しみの中、難を受ける中で、すべて功が演化し、心性が向上する過程で次元の高さに相応する功が伸びているのです。

弟子：観世音は佛になったと言う人がいますが？

師：人の言ったでたらめなことを信じてはいけません。皆さんに言いますが、末法の時期に至った人類社会では、覚者たちは皆手を引いて関わらなくなり、彼らに関わる

ことも許されなくなりました。手を引いて人類社会に関わらなくなっただけではなく、末劫の中で彼らの境遇もかなり困難になり、自分のことさえ手に余っているのです。これらのことによって、彼らのいる次元でも問題が現れました。私は皆さんに以前このことを話したことがあります。現在他人のことを構う人はもういないと言いました。これは大げさに言っているわけではありません。皆さんに教えますが、これらのことは紛れもないことです。あなたが佛を拝むにしても、各種の宗教の像を拝むにしても、その上には何もありません。ごく稀に一つの影がそこに存在しているかもしれませんが、しかし彼は話ができるほか、もう何もできなくなりました。今は末劫になり、この時期になったらこのようになるのです。

現在人々が認識している観音菩薩は、即ち数年前人々が拝んでいた観音菩薩です。彼女の功は、実際如来佛や阿弥陀佛よりも少し高いので、大菩薩自身は佛でもあります。しかし、彼女はまだ如来の境地に達していません。ところが彼女が持っている功の中には如来を超えるものもあります。彼女が修めたのは菩薩であり、彼女は彼女のことを行なっており、この中にはたくさんの高くて深い道理があり、これ以上もう話してはいけません。これらは人類に知らせるべきではないからです。これは我々が想像したようなことではなく、常人のような上下階級の関係でもなく、まったく違うことです。

弟子：法輪世界の羅漢や菩薩は、他の世界の佛よりも高いと言う人がいますが、本当にそうですか？

師：これはそう言えます。一部の世界の佛が他の世界の佛より高いという言い方は、正しいのです。次元は佛の世界での位置を決めているからです。如来の次元にいる佛は、もし佛の果位に達した多くの人を導いているなら、これらの人にもやはり高さの違いが存在しているのです。法輪世界のすべてにこのような現象が存在しています。法輪世界の羅漢、菩薩は他の世界の佛よりも高いと言いますが、確かに法輪世界の次元は非常に高いのです。我々が今日伝えた法はとても大きく、法輪世界に限って伝えたものではありません。私が人に知らせるべきものは法輪世界ですが、法輪世界を超えたものは人に知らせてはならず、人に知らせることは許されないのです。多くの人はず

でに感じましたが、この法はこれほど大きいものです。それほど多くの大覚者もこの法に同化するためにやって来ており、これは一般の法ではなく、とても高くまで修煉者を導くことができます。これは間違いのないことです。すべての修煉者はみな法輪世界に限られるということではなく、これも間違いのないことです。釈迦牟尼、阿弥陀佛も彼の入門の中で修煉する人がみな彼のところに行くとか、あるいはどこそこに行くとか言ったことはありません。彼の範囲を超えたら、別のところに行くかもしれません。

弟子：羅漢に達した時の功の高さには基準があるのですか？ 初果羅漢は心性と功の高さにより決められたのですか？

師：羅漢の次元は異なる佛の世界で確定された不変の基準です。

学習者の心性の高さは彼の功の演化形式と同じなのです。すべてこの一步に達しなければならず、全部高エネルギー物質によって取り替えられ、それに相応して成り立つのです。これらのことについて私はかなり重く強調しました。これらの問題について輔導員は皆説明できるはずですが、世間法を出てからの修煉は佛体修煉ではありませんか？ 出世間法修煉なら、あなたはすでに佛体であり、佛体は高エネルギー物質に完全に取り替えられた身体です。世間法を出て浄白体になれば、それはすでに全身が高エネルギー物質に取り替えられた透明体ではありませんか？ 更に前へ修めれば、それはもう佛体になったのではありませんか、つまり初果羅漢に入ったのです。こういうことです。

弟子：身体の中にできた生命体、例えば龍などは六道輪廻の中にありますか？

師：六道輪廻の中にも幾らかの生物があり、六道輪廻以外にも動物の存在があり、より高い次元の中にもあります。それは一般的に修めて上がったのではなく、その自然環境の中で生じたのです。高次元において修煉する人の身体に生じた龍などの生命体は当然あなたのもので、あなたの圓滿に従って高い次元に行くことになるのです。

弟子：身体の中にできた生命体は、修煉する法門によって決められているのですか？
修道者はもし専一にすることができれば、佛を修めることができますか？

師：これは決まった規定がなく、あなたは佛を修めていましたが、その後また道を修めることになっても、それでも構いません。ただその一門の師父は最初、あなたを手放さないのです。どうしても戻らないのなら、彼もあなたに構わなくなります。あなたが確固たる意志で修めると決めれば、彼もあなたに関わらなくなります。もし二股をかけて修めるなら、それではいけません。どの法門の師父もあなたに構わず、これは心性の問題であり、二つの法門を破壊するのです。

弟子：邪道を修めるように決められているものがありますか？

師：います。専ら末法の時期に出て法を破壊するものがあり、様々な形式を用いるものがあります。公に法輪大法を攻撃し、私を攻撃するものがあり、我々の学習者は皆これを識別できます。このような魔は恐ろしくなく、偽気功も恐ろしくなく、我々の学習者は識別できます。現在皆さんは少なくとも冷静にそれが本物か偽物かを考えることができ、分かっているならば、以前のようにむやみに学びに行かなくなるのです。

最も識別しにくいのは、次のような魔であり、その破壊力はかなり大きいのです。それも法輪大法を学びに来て、法輪大法は素晴らしいと言い、他の人よりも感動的に語り、感じた変化も他の人より強く、またいくらかの光景が見えました。それから彼は突然死んでしまい、あるいは突然反対の道に走り、こうして法輪大法を破壊するのです。このような人は最も識別されにくく、識別されにくいので破壊力は最も大きいのです。その破壊形式はこのように按排されたので、彼がこのようにすることは決められているのです。彼は影響が大きい方法を選んで破壊を行いません。私が先ほど言った破壊力が大きな魔はこの類に属するのです。

弟子：地藏菩薩は佛に成就できますか？

師：大菩薩はすでに佛と称することができます。大菩薩、あなたが言ったのは地藏王

ですか？ 地藏菩薩は佛とも呼ばれており、つまりこの意味です。しかし彼は彼のすべきことをするので。

弟子：人の元神はどのように来たのですか？

師：このことについて私はすでに話しましたが、原始生命は宇宙の中の各種の龐大な物質運動の作用の下で生じたのです。

弟子：噂を伝える人がいますか？

師：これらの噂に耳を貸さないでください。特に私の法に影響があること、我々の法の形象を破壊することは、誰も伝えないでください。あなたのところに来たら止めて、人々が皆このようにすれば、広まることはなくなるのです。

弟子：他人の功績と過失を論じることは業を作るのですか？

師：常人の中の良し悪し、功績や過失には、煉功者として淡泊であるべきだと私は思います。常人の中の事をあなたはそんなに興味津々と論じないでください。あなたはそれに興味を持って執着しているのですか、それともあなたは修煉したいのですか？常人の中にはこれらの事しかありません。私は言ったではありませんか、常人の中の事はこれらのことに過ぎず、あれこれ話しても、それは皆常人が常人のことを言っているのではありませんか？

弟子：人は悟りを開いた後、もう上へ修めることができなくなりますが、なぜ釈迦牟尼は菩提樹の下で悟りを開いてからも、まだ上へ修めることができたのですか？

師：人が圓滿になったらもう上へ修めることはできなくなりますが、悟りを開いたら即ち圓滿になったのです。釈迦牟尼は当時半ば悟りを開いた状態にあつて、彼の記憶は部分的に開かれましたが、まだ開かれていないものが沢山あり、彼はまだ知らないことが沢山あるので、はじめて上へと修めることができます。何でも知っていれば、

もう上へと修め難くなります。彼は四十九年間法を伝えているうちに修煉して如来の次元に達しましたが、それは彼が半ば悟りを開いた状態がすでに高く達していたからもたらされたのです。我々が半ば悟りを開くのは、それほど高く達していないのです。なぜなら釈迦牟尼は人を済度しに来たからです。しかし私は僅かな人、やはり僅かな人には高く開かれる可能性があるかと強調したいのです。それぞれの人の状況は同じではないからです。

弟子：人は死後、親族の関係がすでになくなり、元神はそれぞれのところに行きますが、なぜ先祖の徳と業力は下へと子孫に積み重なるのですか？

師：そうです。即ちこの宇宙にはこのような理があり、それも人を制約する一つの理です。あなたが業を造り、あなたの死後、子孫はこの業を償わなければなりません。ですから子孫のために福を造ろうと思ひ、彼は沢山の金を稼ぎ、自分はそれほど使わないが、子孫に残して楽な暮らしをさせたいと思うのです。彼は世間の事をかなり重く見ており、子孫の事をかなり重く見ています。更に彼は死後の名をもかなり重く見ており、いなくなった後の名をもかなり重く見ています。これらの要素が存在しているので、彼は業を積み、子孫に業を積み重ねるのです。

弟子：一人が佛になったら、その人の先祖たちも天に昇ることができると言われていますが？

師：人は、大きな善を行い、あるいはよく修煉できたなら、その父母はそのお陰で上へ済度されるかもしれません。しかしどの次元に済度されるか、それはその父母自身の情况及び我々の修煉の状況により影響されます。先祖が徳を積めば必ず福の報いが得られます。一人の人が修煉すれば、その先祖も徳を積むことができると言われていますが、つまりあなたが佛に成就できれば、あなたの父母も大きな徳を積むことになります。しかし三界を出た者はあまりいません。彼はただ徳を積んだことになり、良い事をしただけです。あなたのような息子がおり、あなたのような娘がいるから、彼も徳を積んだことになるのです。このような要素が存在しています。しかし父母もこれによって佛になれるというのでは、それはいけません。それは修めなければなりま

せん。彼はただ異なる次元の天人として福を受けるだけです。先祖たちが皆天に昇ることができるというのは、でたらめな言い方です。

弟子：ある日の夜、寝ていたとき夢を見ました。父母は修煉者で、家に祀っているこれらの紙を破って火を付けました。私はやめるように説得しましたが、なかなか聞き入れないので、師父にお願いして助けてもらおうと思ったところ、師父が現れ状況を話しました。父母が一枚の紙を燃やすと、その紙は燃えました。その後その人は師父ではなくなり、屠殺業者の衣服を着て、手に拡声器を持って市場に立ち、肉を売っている姿に変わりました。それを見て私は泣き出しましたが？

師：これは間違いなく魔の仕業です。これは人を罵ることを暗示しています。この魔の位牌が燃やされて殺され、その意味は屠殺業者が人を殺したことで、つまりこの意味です。それには少し能力があり、これらのものを演化して、人を惑わせることができます。なぜ今日これらの魔をきれいに片付けたのでしょうか？ 皆さん考えてみてください。まさに私が挙げたリンゴの例のように、人類社会はここまでに至り、人類だけでなく、物質やそれらの動物も、皆業を持って輪廻しており、しかもかなり大きな業を持っています。それらは修煉などを知っていますが、人類の事を絶対にこれらの動物に妨害させ、主宰させてはいけません。それらはこのような作用をしています。これはすでに天理に背いたことです。大逆の魔は殺されるべきであり、これも末法末劫時期の必然です。それは少し高い功を修めると殺すべきなのです。現在はかなり乱れています。

私は話したことがあります。人々が理に適っていると思うことは、高次元から見ればすべて間違っているのです。高次元にいる大覚者から見ると、人類社会は妖怪や鬼、魔に乱されて、それらは勝手に人の身体に持っているものを取ったり、人を制御したりしています。それらは良い事をしており、人のために病気を治療したと思っています。何の病気を治療したのでしょうか？ それらが病気を治療する時に、それらのものを人の身体に送り込んだのではありませんか？ これはすでに悪いことをしたのです。

弟子：以前我々の発見したそれらの遠い昔の時期の動物に関しては？

師：今日の動物は進化してきたものだと言われていますが、私に言わせれば全く違います。大陸プレートの変化、異なる時期の周期的な演化により、生物の種を変えたのです。もし今の大陸プレートが沈んで、太平洋、インド洋、大西洋の中から新たな大陸プレートが上がってくれば、その上にまた新しい生物の種が存在し、新しい生物の種が生じるはずですが、それがまた沈めば、また新しい生物の種が生じるはずですが、もしこの大陸プレートが別の大陸プレートに替わり、ある年代が経ってから、またこの大陸プレートが替わりに上がってきても、その上の生物の種は元の生物種ではなく、新しい生物種になるはずですが、このように変化しているので、人々は進化してきたのだと言っていますが、全く違います。進化過程の中間段階のものがなぜ発見できないのでしょうか？ 発見したのはすべて二つの生物種の異なる存在形式だけで、中間の過渡段階の形式は存在していません。

弟子：修煉者が佛に成就できたら、どの身体が佛になりますか？ 真体ですか？ それとも師父がくださるのですか？

師：過去、浄土宗で修煉する人は、身体の修煉を重んじないで、ただ心性の修行を重んじただけです。真剣に坐禅しない法門は特にそうです。その場合は彼の佛体は迎えに来た佛が演化してあげるのです。彼を迎えに来た時に彼に直接佛体をあげるのです。真剣に坐禅して修行するそれらの法門では、彼は自分で元嬰を修め出すことができます。しかも道家と佛家の一部の特殊な修煉方法の中では、自らの身体を変えて性命双修の目的に達し、また他のものを修め出すことができ、自分の主元神はそのすべてを主宰します。

弟子：元神は高エネルギー物質ですか？

師：このように理解してはいけません。あなたの元神は最もミクロ的な、最も微小な物質、最も本源の物質から構成されています。あなたの性格、あなたの特性は物質の本源によりすでに決められています。ですから、どれくらいの年月が経っても、生々

世々に変らないのです。しかし本性は善良なのです。

弟子：キリストは彼の天国から来た人を済度しに来たのですか？

師：この言い方は間違っていない。欧州の人種、その最も原始の人種は皆彼らのその特定の空間から来たのです。彼のところには彼のところの特殊な状況があります。

弟子：私が法輪大法を学ぶ前に、夢の中で先生に会いましたが、どうしてですか？

師：大法を学ぶ前に、私に会った人は多くいます。何年、何十年前にすでに私を知っていた人もおり、夢の中で私に会った者もおり、このような例は多くあります。またかなり昔に占い師に教えられた人もいます。様々です。これは異なる時空の反映です。

弟子：私の子供は先生に会ったことがあり、先生を知っているとっていますが？

師：この子供の根基はかなり良いのです。子供の言ったことは間違っていない。一部の子供は目的を持って来ており、法を得るために来たのです。

弟子：徳と功は真、善、忍と同類の物質ですか？

師：真、善、忍は一般の物質として認識してはならず、同じ概念ではありません。如何なるものも皆物質により構成されたのですが、それはこのような概念ではありません。それは我々人間の元神のようなもので、それと我々人間の身体はどんな物質から構成されたのかと言えば、私が先ほど言ったその問題と同じで、それは適切ではありません。しかし如何なる物質も物体であり、真実の存在はその特性であり、法の体現でもあります。徳と功はつまり物質の形式で現したのですが、皆同類の物質ではありません。しかしすべては宇宙の特性である真、善、忍に同化しているのです。

弟子：葱、生姜、大蒜は食べていいですか？

師：我々は今日常人の中で修煉しているので、この問題を具体的に提出していません。しかし我々の專業修煉者の中で、将来の和尚はこれらものを戒めなければなりません。實際皆と一緒に集団で坐禅して修めている人も、食べてはいけません。過去にはそれが人の修煉を妨害するので、この問題を提出しました。葱、生姜、大蒜は人の神経を刺激するので、常に食べたり多く食べたりすれば癖になり、食べなければほしくなり、執着心を起こすことがあります。これらは淡泊にすべきです。加熱して食べれば問題はなく、匂いがいいからです。葱を炒めて調味の香りとして使っても構いません。實際の意味からみれば、当時釈迦牟尼が食べさせなかったのは、人の修煉を妨害し、その匂いが非常に刺激的で、入静を妨害するからです。その時十人、八人の和尚が車座になって入静し坐禅していたので、その匂いが放出されると、皆入静できなくなります。坐禅して修行することはとても重要視されていたので、これらの類いの物を戒めることをとても厳粛に見ていたのです。

弟子：徳と功は真、善、忍と同類の物質ですか？

師：徳は一種の白い物質で、特殊な物質です。業力も一種の特殊な物質です。功は徳から昇華した一種の物質であり、宇宙のほかの物質を混ぜて形成したものです。真、善、忍は法であり、一種の特性で、一般の物質概念で認識してはならず、超物質なのです。

弟子：不壊の身体はどのように理解しますか？

師：世間法を抜け出したら即ち不壊の身体になったのです。佛体は壊れるものですか？ 彼は宇宙の中の最も豊富で最も良い物質で構成したので、宇宙が壊れなければ彼は壊れません。

弟子：法輪大法を修煉する人は、最終的に皆法輪世界に行くのですか？

師：私の法輪世界には入りきれません！ 真に正果を得て圓滿した者しか行くことができません。法輪大法を修煉すれば法輪世界に行くと言うなら、今はすでに何億もの

人がいます！ 将来大法を学ぶ者はもっと多くなります。この生々世々の人もまた代々修めていくので、皆法輪世界に行くなら入りきれないのです。圓滿まで修めることができない人でも、高次元の美しい空間に行くことはできます。我々の学習者の中の大部分は異なる高次元から来たので、法を得てから自分の元の世界に戻るようになります。

弟子：私の孫娘は五歳で二期の講習会に参加したことがあり、夢の中でよく起きて煉功します。大人が彼女に話しかけても彼女は相手にしてくれません。これは正常ですか？ 彼女はまたよく先生から文字を教えてもらったり、絵画を教えてもらったりするのを見ます。また先生が虚空や彩雲の上におられるのを見ますが？

師：煉っているものが法輪大法であれば正常です。根基が良い子供ですね。くれぐれも子供にでたらめな功を学ばせないでください。子供を台無しにしてはいけません。このような子供は皆法を得るために来たのです。くれぐれも子供に悪いことをやらせないでください。全国ではこのような子供は数多くいます。

弟子：新しい学習者を受け入れる基準は何ですか？

師：ありません。煉ることができれば煉っていいのです。もちろんはっきり言うべきですが、二種類の病気の人には修めてはいけません。これは私が提出したのです。つまり重病患者は業力があまりにも大きいので、修煉ができません。精神病患者は思想業力があまりにも大きく、主元神がはっきりしていないので修煉できません。

弟子：常人の中で修煉する段階では体内の分子構造が変わらないのですが、それでは我々が出世間法に入ったら体内の分子構造が変わるのですか？

師：修煉の過程で変えなければ、出世間法に入ってから、あなたはどのようにやって変えますか？ 世間法の段階ですでに一步一步と変えて向上し、世間法から抜け出したとき、ほぼ全部変わり終えたのです。

弟子：テレビで「達磨の物語」をやっていますが、学習者に見させないのは正しいのでしょうか？

師：これは構いません。学習者はそれを物語として見るだけで、まねて学ぶはずはありません。現在、人には法を教えるべきであれば学ぶ気はまったくないのです。たとえば佛教のどの和尚でも今日ここに坐って、いくら彼に言っても学ぶ気にはならないでしょう。我々は講習会の時にすでに強調しましたが、禅宗法門はすでに存在しなくなりました。現在、存在しなくなっただけでなく、六祖の慧能に至ってすでになくなりました。何百年の間にそれはとっくに無くなったので、残ったのは歴史だけです。その禅宗の和尚は今何を読んでいるのでしょうか？ 阿弥陀佛経までも捜し出して読んでおり、禅宗のものは無くなったのです。禅宗の法は世間にはもう無くなり、実は末法時期にはどんな法も無くなり、禅宗の法だけではありません。

弟子：一部の人は講習会に参加したことがありませんが、煉功に参加し、本と法輪バッジを買いましたが、その後また煉らなくなりました。本、法輪バッジは取り戻すべきでしょうか？

師：彼はすでに買ったので、取り戻すことはできません。彼はお金を払ったからです。我々には行政的な管理方法はありません。当初私はこれらのものを持ち出すべきではないと考えていましたが、学習者、弟子の要求で今持ち出しました。状況を見守るしかありません。

弟子：「頭頂抱輪」の時、頭がとても重くて上げられません。どうしてでしょうか？

師：これは気にする必要はありません。頭が重いことは必ずしも悪いことではありません。修めてできた功柱は重量があり、感じることができます。もし上に大きな光の玉が出たらそれもあなたに押しかけます。上にもし一人の佛が坐っていたら、更にあなたに押しかけます。上に何かものがあるとしても気にしないでください。煉功にはあり得ることで、すべて良いことです。人の頭上には様々なものが現れることがあります。気を煉るにしても一つの大きな気柱が現れるはずですよ。

弟子：夢の中でよく試練を受けます。その時の対処は目覚めた時よりも良いのです。これは副元神によるのですか？

師：それはもちろん良いことで、副元神ではありません。副元神が事を行うならあなたに見せないのです、あなたはそれを知らないのです。それはあなた自身です。

弟子：浄白体以上の次元まで修煉できた時、身体には冷たい、熱い、痺れ、腫れなどの感覚は無くなるのですか？

師：まだあるはずですよ。それは異なる次元の異なるものによるあなたの身体での現れだからです。病気があるような辛い状態はますます少なくなります、何も感じなくなるということではありません。皆さんに教えますが、太上老君が話した言葉で、道家の本の中にもこの言葉が載っています。つまり「どれほど高く修めたにしても、なぜこんなに辛いのでしょうか？ それは常人の中にいるからです」とのことです。

弟子：法輪大法は宗教と矛盾していますか？

師：歴史上我々は宗教に入っていません。現在我々の大部分は常人の中で修煉しているので、宗教ではありません。宗教の目的は、一つには修煉であり、一つには人を教化して、良いことをするように導き、世の中で道徳を長く保つようにします。これは宗教が果たした二つのことです。我々が常人の中で修煉することはこのような作用を果たしますが、我々にはこのような宗教形式はありません。将来は専業で法輪大法を修煉する弟子がいますが、現在我々はまだこの一歩にまで進んでいません。如何にこの問題に対処するのでしょうか？ 現在の和尚にはすでに大法を修煉する者がおり、いずれにせよ、我々のこの法は社会に有益で人に有益です。我々は政治に干渉せず、政府の政策に違反せず、これらのことに関わりません。国家に対し常人社会に対し如何なることに対しても不利益なことはなく、有益なことしかないのです。

弟子：私は坐禅する時、よくエレベーターに乗ったように下へ滑り、自分がかかなり小

さくなくなったように感じますが、なぜか分かりませんか？

師：これも正常なことです。なぜなら、元神はとても小さいもので、かなり大きくなることもできるからです。ですから人が煉功する時には身体は外へと拡大することができます。大地にすっくと立っているように感じる人もいれば、とても小さく変わったように感じる人もいます。これはすべて正常なのです。しかしもう一面があり、修煉者は一旦あまり良くないことをしたら、下へ落ちるような感覚もあります。それは次元が落ちたので、身体の容量も縮んでしまいます。

弟子：最近の数カ月、私は夢の中でいつも何人かの周囲の親族と一緒に滑りやすいぬかるみでばたばたと忙しくしています。

師：これはつまり人が常人の中にいるということです。高次元の人から見れば、人類はとりも直さず泥をこね回しているのです。

弟子：法輪大法の中で正果を得るまで修煉できたら、必ず本体を持たなければならないのですか？

師：我々のこの法門が要求した圓滿は本体を持つことです。本体を持たず、この身体がこの形式に達していなければそれは許されません。なぜでしょうか？ 我々は皆達することができるからです。本当に修煉するならほとんど皆達することができます。あなたが果位に入って世間法の修煉から出れば、あなたの身体はすでにできており、多くの人はずでにこの段階に達していても自分では分かりません。なぜなら、身体の一部は鍵をかけられ制限されているので、感知できないのです。あなたの修煉につれて益々あきらかになってきます。ただし一つの問題を説明しなければなりません。一部の人には様々な原因によって限定され圓滿に達することができないかもしれず、異なる次元の中で天人（神仙）になることしかできないので、身体の変化は非常に少ないのです。実はこれは一般の人にとってはすでに高くて及ばないことであり、美しく求めることのできない大きな福です。一般の気功の中や憑依した功、邪法の中では決して達することはできません。

提出した質問は終わったようです。私が今日解答したこれらの問題は主に我々の輔導員と世話人が提出したことに對して説いたことです。もちろん、一部の学習者は講習会に参加したことがなく、あるいは一回だけ講習会に参加したことがありますが、来るべきではないのに来てしまいました。あなたがこの法を聞くべきではないと言っているのではなく、あなたが修められないとも言っているではありません。あなたがまだこれらのものを受け入れることができず、これがかなり大きな問題に関わっているのです。あなたをやらせなければ、あなたは不満があるかもしれず、心性がまだ高くないので、変な文句を言うかもしれません。やらせればあなたは受け入れられず、疑いを生じてあなたの前途が壊れることを心配しています。いずれにせよ、聞いたあと信じられなければそれを物語として聞けばよく、如何なる反発心も起こさないでください。

説いたこれらの法は主に我々の輔導員、世話人に対して説いたのであり、将来あなたたちが仕事を展開する中で役立ちます。一部の問題は共通性があり、学習者から提出されて答えられなかったことが、この機に少なくとも一部のことは分かったはずで、実は私が言ったように、この輔導員の会を開かなくても問題を解決できるはずで、例えば、私が済南の講習会で講義を終わってそこから離れる前に、多くの覚者は私にこう言いました。「この講習会ですべてのことを説きました」。その意味は常人に知らせるべきことは全部説いたということです。私に言わせればこの法に従って学び、完全に理解さえできれば、解決できない問題ははありません。私が説いたこの法は、ただ私のこの一法門の中のことだけではなく、これは一つのとても大きいものです。もちろん我々が今日したことは過去に伝えた功、したこととは同じではありません。他の人は衆生済度を講じ、釈迦牟尼は動物さえも済度の対象にしているのです。釈迦牟尼は衆生済度を唱え、すべての生命に対して慈悲を与えるのです。なぜ我々は今日このようにしないのでしょうか？なぜ我々は人を済度するにもまだ選択するのですか？なぜ我々の講習会に入るにもまだ条件をつけるのですか？それはこのすべてのことは当初と同じではなくなってきたからです。一部の人はすでに極悪で救いようがなくなったので、淘汰されるべきなのです。一部の人は残されるべきであり、一部の人は修煉して上られるかもしれないので、このような問題が現れたのです。

それでは、我々はどのようにこの会議のことを生かすのでしょうか？ 言うべきこととと言うべきでないことに関して、どのように対処すべきでしょうか？ 皆さんはどのようにすべきかすでに分かっているはずで、私もこの問題を強調しません。一言で言えば、我々のこの法に責任を負い、あなた自身に責任を負うことに基づけば、あなたは如何にやるべきか分かるはずです。話はこれくらいにしましょう。

……我々は討論してから、より一層大法に対する認識を深めることができ、認識も統一できました。将来学習者に何らかのことを解答する時、きっと役に立つと思います。これはその一つです。もう一つは、私はまだ責任者にこの事を言っていませんが、つまり我々は集まって一緒に煉功するだけでなく、私の故郷で率先して皆さんを組織して、ある特定の時間に皆さんが集まって一緒に法を学んでみたら如何ですか。一講一節を順番に皆で読み討論してみます。学法の時間は煉功と同じように固定すれば良いでしょう。こうすればきっと良い効果があり、問題意識を持ち、こうして我々は将来、実際の問題にぶつかった時、法に基づいて対処できるようになります。我々が先例を作れば、全国各地の輔導站に対して良い先導の役割を果たすことができます。その後、全国各地が同じようにすれば、我々の認識を高めることに対してとても良いことです。ここでこのように提案します。

法輪大法長春総輔導站が録音

北京法輪大法輔導員会議での提案

李洪志

一九九四年十二月十七日

皆さんがはっきり見えるように、私は立って話をします。

長い間皆さんと会っていませんでした。功を伝えることに関するたくさんの事を処理する必要があり、これらはすべて常人があまり知らず、あまり理解できないことばかりなので、講習会の開催を一時停止することにしました。この時間を利用してこれらの問題を処理しており、現在ほぼ終わりの段階に来ています。本来なら処理し終わってから、これらの事を片付けてから、私は新たに今後の功を伝える事を按排するつもりでした。しかし、今度広州で開かれる講習会は、当時慌てて決めた事で、新聞にも報道され、広告も出しており、しかもすでに多くの人から受講料を受け取りました。やむを得ず、私は手がけている仕事を中断して出かけてきました。つまり広州の講習会の前に、まず北京に来て少し準備の仕事を行います。それでこの機会を借りて皆さんと会うことができました。皆さんと会えて私は非常に嬉しく思います。

以前私はこのように言ったことがあります。つまり現在の人々の道德水準はかなり低下しており、各業種の中で浄土を見つけるのは非常に難しくなっています。しかし私はここに来て、我々のこの非常に和やかな場を見ました。法輪大法のこの所は、浄土であると私は胸を張って言えます。(拍手) 同時に、私は皆さんのとても喜ばしい修煉成果も見ました。皆さんは皆向上を求め善に向かう心を持っているので、非常に喜ばしいことです。ここの雰囲気と我々の心の状態は一致しています。ですから、法を学ぶことは無駄にならず、皆一定の成果が得られました。私もこの大法を無駄に伝えておらず、これは私にとって非常に喜ばしいことです。私が当初北京で法を説き、功を伝えに来たばかりの時、第一回の講習会は今と同じぐらいの参加者しかいませんでした。しかし、今日まで僅か二年間経過しました。私が実際には正式にこの法を伝

えてから一年しか経っていません。最初はとても低い気功の形式で法を伝えていたのです。我々は今日になって、ただ北京のこの所だけでも、輔導員はすでにこんなに多くの人数になりました。これはこの大法がすでにより多くの善良な人々に認識されていることを物語っており、この法の中で向上ができ、自らを修煉でき、これは非常に喜ばしいことです。現在、法輪大法を修煉している人がどれくらいいるのかを具体的に統計しようとしても、なかなか難しいのです。人から人へ伝えており、数え切れないほどです。ある地方では一つの県あるいは一つの市に一人か二人しか学んでいませんでしたが、現在千人にも達しました。たくさんの地区もこのような形勢であり、発展は非常に良いのです。

なぜこのようにできるのでしょうか？ 私が言ったように、法輪大法は人の心性を修煉し、人の道德水準を高めるよう要求しているからです。修煉して、なぜ功が伸びないのか根本原因も示しました。この問題をはっきり示したので、つまり我々は根本の問題を示しました。以前、私は言ったことがあります、修煉体験談の中で「先生のこの法が伝え出されてから、我々の社会の精神文明に対してとても有益です」と私に言った人がいます。もちろん私はすでに話しましたが、主な目的はこのことではなく、私はこの法を人々に残し、法を伝え出してもっと多くの人々に受益させ、本当に向上できるようにさせたいのです。我々の佛家の言葉で言えば、つまり本当に昇華して圓滿になるということです。しかし、これによって必然的にこのような結果をもたらし、人々の道德水準を向上させることができます。なぜなら、我々のこの功法の要求は、根本的な問題を指摘し、人に心性の修煉を重視するよう求めているからです。多くの僧侶、専修の道士を含む多くの人も同じく、彼らはすでに如何に向上できるのかが分からなくなり、彼らはただ形式上のものを重視し、実質のものを重視していません。

人の心性が昇華できなければ、向上することはありえません。なぜなら心性を高めずに昇華して向上することを宇宙の特性は許さないのです。もし人がこのような程度に達することができれば、つまり異なる程度に向上することができれば、私に言わせればこの人は圓滿になれなくても、社会に対して有益なのです。人はすべてを知りながら悪事をするはずがなく、悪事をすれば自分にどのような良くない結果をもたらす

かを知っているからです。こうして社会の精神文明、人類の道德水準の向上に対して、ある程度の効果があり、これは間違いのないことです。我々がこの功を伝えるには、人に責任を持ち、社会に責任を持つことを念頭におき、我々もこのようにできています。一般の民衆の間でも、修煉者の中でも生じた影響は比較的良いのです。我々もずっとこの法の要求を厳守してこのように行なっており、我々のこの功法はずれもなく、ずっとこのような純潔で、純正な修煉状態を保持できています。

現在のこの形勢によれば、将来この功はもっと広く伝えられるようになると思います。近いうち、来年になると思いますが、国外で功を伝えることは多くなるかもしれません。我々の国内で影響を生じただけでなく、実は国外での影響もかなり大きいのです。国外から帰って来た人が私に話したことですが、彼らは米国のある料理屋で食事をした時、そこに法輪功を紹介するものが掛けてあるのを見ました。彼は不思議に思って店の人に事情を聞いたと言います。これは我々が知らない、まだ把握していない状況です。発展の勢いはやはり非常に速いかもしれません。根本原因は、我々が人の心性の向上を重視しているので、社会に対しても、異なる階層の人、異なる考え方の人に対しても、皆法輪大法を受け入れることができます。これは私が先ほど言ったことで、ただ簡単に述べただけです。つまり法輪大法は現在このような発展状況になっています。

これは輔導員の会議ですから、私はこの方面のことを話しました。各地の法輪大法の発展状況から見れば、皆異なる長所があり、様々な経験も得られ、大法の学習に対して、修煉の中で様々なよい経験も得られています。この間に私はずっと長春の家だったので、長春の状況を比較的多く把握しています。例えば、今長春では法を学ぶブームが引き起こされていますが、どのような法を学ぶブームでしょうか？ 今他の地区では、動作を煉ることを非常に重要なこととしています。もちろんそれは非常に重要なことで、性命双修の功法なので、当然欠かせないことです。しかし長春では、この法をもっと重要な位置に置いて学んでいます。ですから毎日煉功し終えてから、そこに坐り本を読み、法を学んでいます。一段落学び終わると皆で一緒に討論します。その後、彼らは本を暗記するように進みました。大法はこれほど素晴らしいもので(もちろんこれは学習者が言った言葉で、私が言ったものではありません)、以前多くの経

書は明確に説いておらず、すべて曖昧に語っているのに、人々は皆それを暗記しようと考えました。もちろん他の理由も言いましたが、私はただその意味を述べており、つまり、こんなに良いものを我々はなぜ暗記しないのでしょうか？ いつでも我々が常人の中で良い人になり、向上できるよう要求されており、暗記できればもっといいのではありませんか？ そうすればいつでも対照できるようになるからと、彼らはそう思いました。こうして本を暗記するブームを引き起こしました。

現在長春では本を暗記している人は一万人以上います。彼らは今法を学ぶ時どんな状況になったのでしょうか？ つまりそこに坐って学び始めると、本も要らず、初めから本を暗誦し始めます。前の人が暗誦し終えたら、次の人は少しの間違いもなく、一字も間違えずに暗誦し続けます。あなたが一段落を暗誦し、彼が次の一段落を暗誦し、このように続けます。その後また本を写すことまで進みました。もし一字でも写し間違えたら、初めからやり直し、全部改めて写します。目的は何でしょうか？ 即ち法に対する理解と認識を深めるためです。こうすれば学習者の向上に対してとても効果的なのです。なぜなら、彼はすでに思想の中に深い印象があったので、行動の中で何かをする時、いつも煉功者の基準で自分を要求することができるから、確かに違うのです。

以前、私はこのように我々の学習者に要求しませんでした。先ほど話しましたが、各地もそれぞれ良い経験を得ています。私も長春輔導站到、あなたたちの経験を全国へ広めるべきだと言いました。これらの学習者はこのように法を学んでから向上はかなり速くなり、次元の向上も非常に速くて、それは必然の結果です。我々の多くは皆煉功者で、在席の皆さんは輔導員なので、私は深いことを話しても、問題はありません。私の本の中の一文字一文字は、浅い次元において見れば一つの法輪であり、深い次元において見ればそれは私の法身であり、偏旁部首でさえ単独の法身です。あなたの口を通して読み出した時、それも違うのです。多くの方はすでにかなり高い功を修煉して出しており、読み出した字もすべて形象があるのです。口から出たものは皆法輪です。つまりこの本は一般の本ではなく、もちろん次元が足りない者はそのような効果が得られないのです。本を読み、法を学ぶことも向上しているのです。我々は心性の修煉を重要視しており、理性から法を認識することも向上なのです。

我々の功法は性命双修であり、動作そのものは主に本体を変えることで、つまり我々の肉身と各空間に存在しているその物質身体の変化形式を変えることです。主にこの意義です。まだ一部の術類のものがあります。本当に向上しようとするれば、私に言わせればそれは法において向上しなければなりません。もし心性が向上できず、法において向上を得ることができなければ、他のことはすべて机上の空論になります。なぜこう言うのですか？ あなたは次元が上がらず、心性が向上できず、次元の高さを決める功が無いからです。心性の修煉がなければ功が得られず、このエネルギーの加持がなければ、あなたが自分の本体を変えようとしても、どのように変えるのですか？ それは最も重要なものを欠いているのです。このエネルギーの加持がなければ、あなたは何も変えられません。ですから法を学ぶことは極めて重要なのです。私が思うには、修煉者は多く本を読むべきで、きっと皆さんの向上を大いに促進することができます。(差し挟む言葉：先生、大変お疲れさまです。お坐りになってお話し下さい。たくさんお話を頂きたいと思います) 私にもっと多く話させたいようですね。(熱烈な拍手)

先ほど、主に法輪大法の発展の形勢を話しました。「法輪功」という名前は我々が初期に北京で功を伝えた時の呼び方です。私はすでに話したように、気功は現代人が作り出した呼び名であり、実際には、気功とは即ち一種の修煉です。常人の中で普及しているのは、気功の最低形式上のものにしか過ぎません。ただ人体を変え煉功に向かって進むことができるように、初期段階に過ぎないものが伝え出されましたが、実はそれは即ち修煉です。我々の功法は直接高い次元で伝えたのです。近年来、気功が普及する過程で、人々に気功を初歩的に認識させるための基礎をすでに築いたので、それらのものを再び説明する必要がなくなったのです。我々は初めから高い次元で修煉という問題を話したので、これからこれを気功、気功と呼ばないようにしましょう。

我々のこの法輪功は、まだ認識されていない時に、あなたがこのように呼んでも構いません。しかし私が思うには、我々の功法は本来法輪修煉法、法輪修煉であり、あるいは法輪修煉大法と呼ぶべきです。ここで話していることは、つまりこの功法の呼び名の問題です。私はもう一つの問題を思いつきました。つまり我々の多くの学習者

は、黙々と善い事を行なっており、社会においても、他の環境の中、職場においても、たくさんの善いことを行い、名も残さず報いも求めず、このような事例はたくさんあります。このことは私も知っています。あなたが言わなくても私も知っています。我々が名を残さないことは、素晴らしいことです。しかし、皆さん考えてみてください。この功法は伝え出されてから、現在社会においてすでに人の心を善へ向かわせ、道徳水準を向上させるという現象が現れました。この状況が現れたことには、法輪大法の影響も大きな作用があったと私は思います。ですから私は、一部の人は善いことを行なった時、人に名前を聞かれても、返事もせず、名を残さず報いを求めず、功德を積むことですから、私が思うには、あなたは返事すべきです。あなたは、私は法輪功を修煉している者、あるいは私は法輪大法の修煉者だと言うべきです。こうすれば、社会に対しても、我々の大法を広めることに対しても良い影響があるからです。人々が皆正法を求めに来られるならば、これは良いことではありませんか？ これは良いことだと私は思います。我々のこのような影響のため、全国各地で功を学ぶ人はすでに相当多くなり、その影響もすでにかなり大きくなりました。現在社会において誰かが少し善いことをしたら、人々は皆不思議に思います。一部の人は、どうして今になってまだ雷鋒が現れたのか、この人は本当に素晴らしい人間だと思っています！ 我々ははっきり彼らに教えたほうが良いでしょう。

最近の一時期に、また幾らかの問題があります。例えば一部の学習者は修煉中にたくさん問題にぶつかり、なかなか解決できず、なぜこうなるのか？ これは何の意味なのか、というような問題です。在席の輔導員でも、あなたはもし信じなければ、私がここであなたに質疑をさせるならば、あなたはやはり多くの講習会で学習者たちが出したことがある質問を提出するでしょう。なぜこうなるのでしょうか？ やはり先ほど私が話したように、法に対する認識がまだ深くないからです。私は異なる次元のものを結び付けて説いたのです。ある人は一回本を読み終えたら、彼は非常に良いと感じますが、引き続き読んでいけば、また新しい会得があります。更に読み続けていけば、また新しい会得があり、字の意味も変わったように感じます。多くの人はこのような感覚がありました。本の中で私が異なる次元のものを結び付けて説いているので、あなたの昇華につれて異なる認識が得られます。これが即ち法です。あなたが本当に法をしっかりと学んで、法を以て対照することができれば、どんな問題でも容易

に解決できるはずです。きつこうなります。修煉の問題でさえあれば、すべて解決することができると思います。

かつて、済南の講習会で私は最も詳しく説きました。多くの問題をすべて解き明かしました。ごくわずかの問題はあまり細かく話しませんでした。意味は全部触れました。信じがたいかもしれませんが、皆さんが本当に入念に学ぶことができる時、どんな問題でも解答を得ることができます。ここが辛い、そこが辛いと言っている人がいるように、たくさん問題がありますが、多くの人は考えもしませんが、もしあなたが辛くなければ、私はあなたに構っていないことになります。あなたが修煉したければ、いつも言っている言葉で言えば、そんな容易いことではないのです。はっきり言えば、人は皆業力をもっているのに、償わなくて済むのですか？ あなたの業力を一気に消去してあげて、すぐ佛に成就させればいいのでしょうか、あなたを特別に扱うべきでしょうか？ 私はただこの意味を言っているだけです。だれでも修煉を経てはじめて向上できるのではありませんか？ その修煉過程は即ち業を消すことで、つまり苦を嘗めることです。あなたが苦を嘗めなければその業は消去することができません。ですから身体の苦痛は必ずしも悪い事とは限りません。生活の中でぶつかった厄介なことでも、必ずしも悪い事ではありません。あなたは耐えて乗り越えましたが、なぜだか分からなかったかもしれません。

一つの例を挙げて言えば、過去佛教の中で言われたことですが、修煉するには、たくさん苦を嘗めなければなりません。あなたはまだ分かりませんが、これくらいの苦を嘗めるだけで何だというのですか？ 師父はすでにあなたを見守っており、たくさん業を消去してあげました。生々世々で悪い事をしたことのない人がいますか？ 私に言わせれば今日の人、ここにまで至り、殺生したことがなく、大きな業を造ったことがない人は非常に捜しにくくなりました。歴史を遡れば、その時、あなたがもっと悪い事をした時、他の人はどんなに大きな難を引き受けたのでしょうか？ それなのに、あなたは今日これくらいの難を受けるだけで、もう耐えられなくなりました。もちろん道理ではこのように言いましたが、多くの人は見えないはず。修煉のことを話している、つまり悟性の問題を説いているのです。あなたには見えないので、それは当然の事。あなたに全部見えたのなら、悪い事をする必要はなく、修

煉の問題も存在しなくなるのです。ですから人がここまで落ちてきたら、あなたに見させないことになっています。迷いの中に落ちて修煉するのです。

もう一つの問題があり、ここまで話が及びましたので、ついでに話します。我々の多く人は天目が開きましたが、異なる次元で天目が開いたのです。しかしそれほど高い次元に達しておらず、見えたものは物事の本質ではなく、その因縁関係が見えません。こうすれば、一つの問題をもたらすことになります。つまり彼は勝手に話すかもしれません。彼が勝手に話すと、重大な結果をもたらすことになります。ある人は、私の修煉はどうしてこの程度なのか、どうしてこうなったのかと言います。実は、彼が見たのは正確ではありません。一つ例を挙げましょう。天目が開いた多く人は、あなたには憑き物がある、彼には憑き物がある、皆憑き物があると言っています。私は随分前にすでに言ったことがあります。法輪大法の学習者、本当に修煉している人には憑き物はないのです。私は全部片付けてあげました。それなのに、なぜ一部の人は動物の形象が見えたり、このような形象が見えたり、あのような形象が見えたりするのでしょうか？ 皆さんに教えますが、実は我々の多く人は主元神、副元神と憑き物の存在形式を見分けることができません。彼に見えたものはあなたの副元神の前世、あるいはあなたの主元神の前世であるに過ぎず、このような情況に過ぎません。あなたがこのようにでたらめを言うと、他人に心理的な恐怖をもたらすことになるではありませんか？ あなたは誰それには憑き物があると言いますが、実はそれは全く憑き物などではありません。

過去、佛教の中で六道輪廻を説いたことがあります。佛教にはこのような話がありました。つまり、人から人に転生した例は非常に少なく、動物から人に転生した場合が比較的多いのです。もちろん、このような情況であるかどうかは別にして、佛教の中でこう説いていますが、私はただ一つの例を挙げて、その意味を言っただけです。皆さんも悲観しないでください。生々世々の中で何であったのかを知る必要があるのでしょうか？ 今日は輔導員の会なので、講習会に参加したことがない人は、もし信じられなければ物語として聴いても結構です。昔の話によれば、人は向こうから転生して来た時、皆動物になりたいのです。動物は複雑な社会関係がなく、気楽に生きられます。動物になりたいくても容易なことではないようで、比べれば人になるのは割合容

易です。人になれば苦を舐めなければなりません。即ちこういう意味です。人は苦しいからこそ、修煉できます。他のものは修煉できないのです。修煉して上がったとしても邪法なので、高くまで修煉することは許されません。ですから天目が開いた人は、今後くれぐれもこの問題に注意して、でたらめに言うてはならず、あなたは正確に見えません。その他に、一部の事はあなたが感じ取ることができますが、感じ取ったその信号はどこからきたのでしょうか？ 魔があなたに伝えたのかもしれませんが、ですから決してこれらの事に執着してはいけません。

天目が開いた人が高く、次元が高いと見てはいけません。これらを決めるのは天目の開いた次元に関わらず、人の修煉の次元に応じて開くではありません。あなたは開いていなくても、あなたは彼よりずっと高いかもしれません。これはごく普通のこと、この現象は個別のことではありません。人の修煉がよくできているかどうかは、その人の心性の高さ、法に対する理解の程度を見るのです。先生がいなくなったら、あるいは先生が功を伝え終えて皆が先生に会えなくなったらどうでしょうか、と言う人がいます。ある人はそれでは修められなくなると言いました。修められないはずはありません。皆さん考えてみてください、私は何のためにこの法を伝えたのでしょうか？ 釈迦牟尼は在世中、文字を残しておらず、残したのは後人が記憶した断片的な釈迦牟尼の話したことだけで、系統的なものではありません。皆さんが見た経書は即ちこのようなものです。その時は人々にこの程度のものしか知られてはならなかったからです。わざとこのようにしたのです。その中には釈迦牟尼がまだ説いていない一部のものが混雑しています。今日我々のこの法は比較的明らかに説きました。釈迦牟尼は当時戒律しか残しておらず、釈迦牟尼は在世中文字を残しませんでした。釈迦牟尼は晩年、修煉の過程において、人々が修煉できるように、修煉して上がれるように、多くの戒律を制定しました。しかし我々には今日このようなものはありません。実際は釈迦牟尼が残した最も重要なものは戒律にほかなりません。

我々は何かを戒める必要はなく、あなたに何をさせるかを規定する必要もありません。なぜでしょうか？ 我々は今日法を残しており、この法はあなたに如何にすべきかを教えることができるからです。ですから私が言ったのは、私がいなくなっても、あなたは私に会えなくなっても、「法を師とする」ようにすべきで、しっかりこの法

を学ぶべきです。あなたが成就できるかどうか、やり遂げられるかどうかは、すべてこの法にかかっています。もし李洪志が今日ある学習者を特に良いと思って、あなたを特別に扱い、功を与え、上がらせようとするならば、皆さん考えてみてください。このような事をしたら、私が法を破壊しているのに等しいではありませんか？ ですから皆さんは誰であっても必ずしっかり修煉しなければならず、みな修める必要があります、着実に修めなければなりません。もちろん、一部の人は法輪大法に特別な貢献をしましたが、それも修めていることであり、ただ修煉の形式が違うだけで、別の修煉方法なのです。こんなに多く話しましたが、要するに皆さんに真剣に法を学ばせ、真剣に修煉させるためなのです。

私が将来国内で功を伝える機会は今より多くないでしょう。ですから肝心なことは皆さんが如何にこの法をよく会得するかの問題です。法は皆さんに残しており、実は私の目的は即ちこの法を皆さんに残したいのです。私がずっと誰かが修めるのを見ている、私がある人の前にいても、あなたが私の言った通りやらなければ、それは何の意味もないではありませんか？ 何にも役に立ちません。私は、私の法身があなたを見守る事ができると言いましたが、実は私は更に高い状況、更に大きなことをまだ言っていない。人には皆別の空間の身体があり、人はある程度のエネルギーが備わったら、その身体はかなり大きくなります。私が別の空間で修煉した身体はすでに相当大きくなりました。どれほど大きいのでしょうか？ ある人は私に、先生がアメリカに行かれたら、私はどのように煉功するのでしょうか、先生は私を見守ることが出来ますかと聞きました。私はあなたを見守る法身がいると答えました。実はまだ別の一層の意味があり、私の法身はあなたを見守るだけではなく、相当大きな空間範囲、一定の宇宙空間範囲はまだ私のお腹の範囲を超えていないのです！ あなたはどこに行っても、常に私のところにいるのではありませんか！ そういうわけなので、あなたはただ修煉に専念すればよいのです。

もちろんまだ一部の魔の存在があります。なぜこれらの魔の存在があるのですか？ 私は言いましたが、最近いくつかの問題を処理しました。その中にはこれらの事が含まれています。皆さん考えてみてください。全国各地あるいどこかの煉功場でもよくこのような状況が現れており、法を破壊しています。私を罵る人がいれば、法輪大

法はこんなに悪いと言う人もいて、我々の修煉をひどく妨害しています。しかし皆さん考えてみてください、これは良い事ではありませんか？ あなたの修煉の全過程においてずっと法に対する根本的な認識の問題、あなたに確固たる信念があるかどうかの問題が存在しています。ずっとあなたの修煉の最後の一步までも、まだあなたにとって法に対して確固たる信念があるかどうかの試練があります。この根本的な問題を解決しなければ、他の問題には話が及びません。まったく語る必要がないのです。そうではありませんか？ あなたが法に対して確固たる信念を持っていなければ、法に従って行なうはずがありますか？ そうであれば、他の事はすべて動揺するものではありませんか？ 彼はこのすべてがみな偽りのものだと思うかもしれません。故にその全過程にこのような問題が存在しています。ですからこのような魔の形式が存在して我々を妨害するのです。もしこのような魔がなければどうなるのでしょうか？ この法輪大法の中にこれらの破壊がなければ、これらのものの妨害がなければ、それはあまりにも修めやすく、どのように人が向上する過程を確認できるのかと言う人もいます。少しの辛さがあり、身体に苦しさがあって、普段出遭うそれぐらいの厄介なことだけであれば、それでは漏れがあるのではありませんか？ あなたが法に対して確固たる信念があるかどうかをどのようにして試みますか？ 人が修煉するには各面においてすべて向上しなければなりません。動揺する心も一種の安定していない執着であり、執着心です。

ここでついでに私はもう一つの問題を提起し、もう一つの事を話します。ここまで話が及んだので、皆さんがもう少し多く話してもらいたいと、私はそう感じています。私が講習会を開いた時に話した一つの問題、つまり業力に関する問題です。悪いことをしたら業力を得、良いことをしたら徳を積み、徳を得ることができます。私は後期の数回の講習会で、人には一種の思想業力が生じることがあると言いましたが、詳しく話しませんでした。ただおおまかに業力の存在について話ただけで、思想業力について詳しく話しませんでした。それではこの種の業力はどのような悪い作用をするのでしょうか？ 皆さんはすべて輔導員なので、将来このような情況に遇ったら皆さんに説明できるようにしましょう。一部の新しい学習者は煉功する時、先生を罵り、法輪大法を罵り、思想が安定しません。

なぜこの状況が現れるのでしょうか？ しかも罵った汚い言葉は非常に多く、普段思いつかない汚い言葉も口から出てきます。甚だしきに至っては口から出なくても思想の中でそれを思い出すのです。多くの人はこのような過程を経験し、特に煉功の初期にこの問題が現れやすいのです。真に修煉し始めれば、多くの人はこの問題に遇わずです。そのため、「私はどうして先生を罵るのでしょうか？」と思う人がいます。その思想は「この法は偽りのものだ、彼に従って学んではいけない」という考えを生じさせます。思想が安定しない人は、この考えについていき、信じなくなり修煉をやめてしまいます。すでに話しましたが、この功法での修煉は人の主意識を修煉しており、あなた自身が自分を主導できなければ、誰もあなたを済度することができません。なぜ我々は精神病患者を講習会に参加させないと強調したのでしょうか？ つまり彼自身は自分を主導できず、自分を管理できないからです。そうであれば、我々は誰を済度するのでしょうか？ あなた自身を済度するのではありませんか？ だから我々はこの問題を強調したのです。

一部の人は分別することができます。ある人は「私はなぜ先生を罵るのか？ 私はなぜ法を罵るのか？ それを制御しなければいけない」と思うようになりますが、長い間に精神が緊張状態に陥り、自分ではなかなか制御できません。しかし私の法身は全部知っており、あなたにこんなに固い信念があるのを見て、あなたを助けてこの思想業力を消去してあげます。実はすべてその思想業力が悪い作用をしているのです。あなたは昔人を罵ったことがあり、その良くない思想が皆湧き出てくるのです。なぜこの状況が現れるのでしょうか？ 皆さん考えてみてください、我々が煉功するのは業を消去することです。別の空間のすべての物質は皆生きています。私は以前このことを話したことがあり、講習会で話したことがあります。その業力も生きています。あなたが業を消滅しようとしませんが、消滅されるとそれは死んでしまい、無くなってしまいます。それではそれが承知しますか？ あなたはそれを殺そうとしていますが、それは承知するのでしょうか？ それは生き物なので、あなたに修煉させないようにします。修煉させないのは、それが生きていたいからです。あなたにそれを消去させないように、それがあなたの頭の中に汚い言葉を反映し、法輪大法を信じさせないようにします。ひいては私を罵り、どんな言葉でも思いつくのです。一部の人は分別がつかなくなり、誰かが自分にヒントを与えているのではないか、あるいは自

分が本当に分かるようになったと思い、分別がつかず、そのままついていってしまい、駄目になり、誰も彼を済度できなくなりました。実はこの思想業力が阻害の作用をしているのです。

それは一つの段階で、非常に短い段階です。あなたの信念が固くなってきたら、それを消去でき、この業力を消去することができます。今まで講習会の時、詳しくこれを話していませんでしたが、最近多くの方が私にこの状況を訴えました。皆さんは心配しないでください、あなたが私を罵っても、法輪大法を罵っても、それはあなた自身が罵っているわけではありません。きちんと分別しなければなりません。主意識がしっかりしていなければ、それで駄目になってしまい、誰もあなたを済度することはできなくなります。多くの地区にこの現象が現れ、ある人は「私はどうして先生に申し訳ないことをするのか？ 私はなぜ先生を罵るのか？」と思い、長春のある学習者は「私はどうして先生を罵り、大法を罵るのか？」と言って、私の写真の前で「先生、私はもう煉功できなくなりました。煉功したら思想の中で先生を罵り始めるので、もう修煉できません。誠に申し訳ございません」と言いました。法輪大法に触れるとすぐ罵りはじめ、本を手にとるとすぐ罵り始めます。最後に「こんなに良い先生なのに、こんなに良い法なのに、私はたいへん申し訳ないことをしました」と言いました。もちろんこの学習者は思想の中では、はっきりしており、しっかり分かっているのに先生に申し訳ないと自覚しています。後に彼は煉功の時、この事を輔導員に話し、輔導員はすぐ総輔導站到報告しました。皆さんはこの状況に対して、これは魔の妨害だと説明しました。実はこの種の業力自身も魔の一種の形式なのです。彼が煉功して魔を招かないうちに、皆で彼を囲んで煉功し、一緒に本を読んでみました。すると、彼の頭はすっきりしました。実際はこれで彼を助けて業を滅したのです。

もちろん、私の本にはこのような作用があります。あなたは信じないかもしれませんが、例えばある人が病気にかかったら、もちろん私は病気にかかったという言葉を使いたくはありませんが、実はその病気、その細菌とウイルスのような微生物など、すべては業力がこの空間の身体に現れたのです。だから私の本を読めばそれを消去することができます。本を読む時に打ち出したのはすべて功であり、すべて法なので、業を消去する作用を果たすことができます。彼は頭がすっきりしたと感じ、とても良

かったと思いましたが、帰ったら彼は元の状態に戻りました。なぜ元の状態に戻ったのでしょうか？ 実は彼の思想業力がわりと大きいので、この段階において他の人より多く償わなければならないからです。しかし彼は道理が分かったので、ずっと耐えてきました。暫く時間が経ってから、私の法身は彼を助けて業を消去し、残っている業が消去されて、彼もはっきり目覚めました。現在は非常に良い状態になり、何の問題もありません。このような問題が現れたら、皆さんはそれを精神的な問題、あるいは憑き物だと見なさないでください。そのような状況ではありません。

最後に私は少し希望を出したいと思います。皆さんの時間を更に多く使いたくありません。これは輔導員の会議ですから、皆さんは輔導站でまだ他の用事があるはずです。皆さんが今後学法のブームを一つ引き起こすように希望しています。毎日の煉功を学法よりも重要だと思ってはいけません。毎日の煉功は続けなければなりません、毎日の学法も同様に続けなければなりません。本当にこの法をよく理解できてはじめてあなたは修煉を指導することができます。何でも先生に聞きたい、何かあったらいつも先生の答えを待つ人がいますが、実は法の中には何でもあり、学びさえすれば何でも解答を得られます。もちろんあなたが法を信じず、動揺するならば、私に言わせれば、それは即ち悟性の問題です。その他に、ここに在席する皆さんはすべて輔導員であり、輔導員の仕事を担当しています。もちろん、皆さんはすべて無償で務めています。我々は皆さんに対してどうすべきか、如何にすべきかを強制的に要求することはありません。もちろん我々は輔導員に真剣に責任を果たすことを要求しており、煉功は専一でなければならず、これは揺るぎないことです。我々は行政手段で誰かを制約する必要はなく、我々にはその権力もありません。修煉は自分自身のことです。我々は皆さんをまとめること、皆さんのぶつかった問題を解決できるように手伝えることを担当しているにすぎません。

それでは輔導員としては法に対する認識において一般の学習者より少し高くあるべきなので、多く法を学ばなければなりません。一部の学習者からの質問に解答できなければ、これも問題だと私は思います。あなたは学歴がなくてもかまいません。皆さんをまとめて法を学ぶ時、本を読む時、認識を交流する時、即ちあなたの向上を促進しています。私が長春にいた時、彼らが輔導員の会議を開いた時に、私はこう話し

ました。つまり、我々の今日のこの修煉形式、常人社会の中で修煉するこれらの人は常人と同じようですが、実質的には我々は煉功者なので、常人とは違います。それでは一人の輔導員として、皆さん考えてみてください、あなたが皆さんをまとめて煉功する時、あなたの責任は何ですか？ もし専門に修煉するならば、それは即ちお寺の方丈、住職です。皆さん考えてみてください、我々はこの仕事をしっかり行なうべきではありませんか？ 一人の修煉者として、あなたは修煉しなければならず、同時に皆さんの修煉を手伝わなければなりません。皆さんに対して特別に高く要求しているわけではありませんが、実際はこうなっています。皆さんはぜひとも率先して模範となるような作用を発揮し、学習者をまとめ、この法輪大法をよりよく発展させて輝かせ、人類に福をもたらすようにしなければなりません。これは我々が最低次元において話していますが、実際こういうことです。

もう一つの情況があり、私は今思いつきましたが、先ほど皆さんに対して幾つかの要求を提出しました。その他に一部の人は仕事に専念せず、社会の仕事に何も構わなくなり、ただ劫難が来るのを待っています。更にこの劫難はいつ始まるのか、と私に尋ねる人もいます。私は講習会においてこの問題を話したことがあります。何の劫難ですか？ 皆さん考えてみてください、その劫難は誰に向けて来るのですか？ 善い人は劫難と関係なく、本当に劫難があるとしても、善い人はみな残されるのです。それは悪い人を淘汰するためのものです。ですから、あなたは修煉者として向上しているのに、それらのことに構う必要がありますか？ この難にしても、あの難にしても、あなたには関係ありません。これは本当に劫難がある場合の話です。しかし、今日私ははっきり皆さんに教えますが、この劫難はすでに存在しなくなりました。以前、地球の爆発や、衛星との衝突、大洪水などを言われていましたが、皆さんご存知ですか、この難は次から次へと続くように設定されていましたが、異なる次元で設定された難はみな過ぎ去りました。彗星は木星にぶつかることになり、地球にぶつかりませんでした。あの洪水もすでに過ぎ去りました。去年の洪水はかなり大きかったのですが、それは世界的範囲のことで、すでにかなり弱くなり、それほど弱くなったものもすでに過ぎ去りました。多くの事はすでに過ぎ去り、つまりそのような難は存在しなくなりました。我々はいまいに言う必要はありませんが、唯一存在するのは将来一部の人が淘汰されるかもしれず、それらのとても良くない人は、ある種の強い疾病の中で

淘汰されるかもしれません。これは可能性があることです。ですから、一部の人はよくこのような話題を持ち出しますが、あなたはそのようなことを考えなくてもよいのです。その災難はすでに存在しなくなりました。如何に修煉するか、如何に自分を高めるか、これこそ肝要な問題です。

私の話はここまでにしましょう。引き続いて会議を進行しましょう。(熱烈な拍手)

法輪大法北京輔導総站による録音

広州で全国一部分の輔導站責任者に対する説法

李洪志

一九九四年十二月二十七日

我々の輔導站は相次ぎ各地区で自発的に設立されています。多くの方は他の地方で講習会に参加してから、この功法はとても良いと感じ、現地の人々に伝えたいと思い、公園で積極的に功を教えたり、あるいは他の方法で功を伝えたりして、法輪大法の影響がますます広まるようにしました。皆さんは多くのことを行ない、多くの貢献を成し遂げました。総じて言えば、より多くの人に法を得させたい、より多くの方が向上し、より多くの人に受益させたいと思って、皆さんは良いことをしています。輔導站は相次いでたくさん立ち上げられ、将来はますます多くなります。こうなると、如何に管理するかの問題に直面してきます。これは将来の一つ重要な問題です。そのため、この時期に皆さんに集まってもらい、この問題について話してみたいと思います。

我々の輔導站の管理について、以前からずっと明文の規定があります。皆さんご存知のように、法輪大法を学ぶことに関して、何かの行政手段を採って、無理やりに人を学ばせ、人に役職を与えて望みを満足させたり、いくらのお金を稼がせたりするようなことは、我々には一切ありません。皆さんはすべて自ら志願して行ない、この法を学びたい、より多くの人に受益してもらいたいと思い、熱心にこの仕事に取り組んでいるのです。つまり、何の条件もつけず、しかもたいへん苦勞しており、ただ人々のために良いことをし、無報酬で貢献しているのです。もちろん、無報酬というのは、常人の角度からの言い方で、私に言わせれば大法を広めることは功德無量のことです。我々は以前すでに何回も規定を定め、本の中でも輔導站を立ち上げる条件を示しました。我々が輔導站を設立するには、社会のどの職場や会社、行政機関のようなものにせず、このようにしません。これは我々の最も重要な特徴です。なぜこのようにしないのでしょうか？ それは何かの事業をやりたいという心を助長させやすく、この心を起こしやすいからです。それに、また幾つかの問題も関連しています。もし我々の

輔導站が一つの職場のようになってしまったら、多くの問題に関わるようになります。例えば事務所の賃貸、電話の設置、水道料、電気代すべてにお金が必要です。この資金はどこからくるのでしょうか？ 皆さんはすべて無償で功を教えており、我々は会費も取らず、お金も徴収せず、完全に自らの意志によって無償で行なっており、我々はそのようにしません。本当に修煉するにはそのようにしてはいけません。釈迦牟尼は当時法を伝える時、人にこの心を起こさせないために、弟子を連れて出家し、寺院に入って修煉していました。彼はこのように行なったのです。他の一部の宗教、例えば西洋の一部の宗教はこのようにしませんでしたが、実質上は名利に淡泊になるように言及しました。つまり、我々が真に修煉し、向上したければ、この素晴らしいことを行ないたければ、このことを営利団体にしてはならず、職場のようになってはいけません。皆さんはくれぐれもこのことに気を付けてください。

その他、この中にはもう一つの問題があります。このことでお金を儲けたり、お金を稼いだりすれば、完全にこの法を破壊してしまうことになります。法は人を濟度するものなので、経営や商売に使ってはいけません。また、以前多くの気功師は病気治療や健康相談を行ない、ある程度お金も稼ぎました。他の功派の中でこのように行なっているものもあります。それに、お金がなければ道を養うことができないと公に唱える人もいます。実際これらはすべて間違った言い方です。まるで中国古代の修煉者はみな大金持ちだったようですが、実は彼らは一文もありません。もちろん、我々はあなたが金持ちになるのに反対しているのではなく、この問題に関して私はすでに話しました。あなたは職業として仕事をしっかりこなし、多くのお金を稼いでもかまいません。これは常人の中のことです。我々は修煉過程で如何にこの法を守り、この法が変わらないようにし、ずれないようにしなければなりません。今日皆さんはこのように学ぶだけでなく、将来の歴史においてもかなり長い間残ることになります。皆この法を学び、この法に従うので、もし最初からしっかりしなければ、はじめからすでにずれてしまっただけでは、将来は完全に面目が変わってしまいます。皆さんが知っているように、私のところでは、私個人のこの方面で、できるだけしっかりし、如何なる良くないこと、良くない現象が生じないようにしています。将来各地の輔導站も同じで、あなたが行なったこれらのことは法輪功を代表しており、ある意味では法輪功の形象の体現でもあります。皆さんは必ず自らの形象、仕事のやり方に気を付け、法輪功に

泥を塗らないようにしてください。もし会社を興し、お金を儲けるようにするなら、私に言わせればそれはもう法ではなくなります。金銭や物質、利益に関わると、あなたは多く儲けたとか、私が儲けたのは少ないとか、私が多く仕事をしたから多くもらうべきだとか、如何に清算するとか、社会からあなたに分担金を求めるとか、などなどのことが現れるはずで。もし本当にこの形式になってしまえば、それは修煉ではなく、完全に一つの会社になってしまうので、これは絶対に駄目なのです。

今日この法を伝え出しましたが、伝え出すことができるのは、我々がしっかり把握し、その形が歪まず、ずれが起きないようにすることができるからです。もし我々が最初からしっかりできなければ、後世の人々によってどのように変わるかまったく見当もつきません。昔、李洪志がいた時にどのように行なったのか、今も同じようにしようと、後世の人々はそう思うでしょう。私がいる時には、皆さんの間違いを正すことができますが、いなくなれば、変な形になってしまうかもしれません。ですから、はじめから我々はこうするように厳しく要求し、営利事業を行なわないようにしました。功派の管理において、輔導站はお金を貯えず、完全に無償で指導するのです。我々も団体や派閥を作らず、皆さんは無償でより多くの人々のために良いことを行なうだけです。

修煉したい人がいればその人を指導しますが、同時に我々自身も修煉者の一員です。つまりこのような原則なので、だから輔導站を設立しても、事務所や電話など、あれこれほしいと思うべきではなく、このようにしません。こうしてはいけません。一部の輔導站は既存の条件、例えば自宅や自分のオフィスを利用して、非常によく行なっています。どのような条件があるのか、どの程度に機能できるのかは重要ではありませんが、肝心なのは法に対する理解と認識なのです。堅い意志で修煉し続けていくことこそが、最も肝心なことです。如何に自分を高めるか、これこそ主要なことであり、他のことは全て二の次のことです。もちろん、仕事をやりやすくするために、我々にいくらか便利な条件を提供してくれる人がいますが、これは問題ないと私は思います。例えば学習者の中に、どこかの機関や企業、会社の管理職、あるいは取締役をしている人がおり、その便利な条件を利用して、我々に場所を提供し、皆さんがそこに集ま

って会議を開くことなどは問題ないと私は思います。これは金銭の問題に関わりません。各業種にも学習者がいるので、これらのことを解決できます。しかも皆さんは進んでこのようにしており、法輪功のために少しでも無償で尽くし、貢献することができて、非常に嬉しく思っています。各地にもこのようなことが現れ、法輪功のために場所や便利な条件を提供するなど、皆さんは非常に積極的にこのようにしています。

その他に、各地の輔導站は学習者の煉功のために、小さな新聞のようなものを作っています。例えば「法輪大法 長春にて」、「法輪大法 北京にて」、「法輪大法 武漢にて」などなどです。この形式もかなり良いと思います。それは新聞や宣伝ビラというほどのものでもなく、ただ学習者の体験を掲載した内部資料です。これで皆さんにしてもらいたいことがある時、適時に皆さんに伝えることができます。しかも彼らが行なっているこのことは割合簡単で、一、二枚の紙だけで、少し上質に印刷できているところもあり、いずれも構わないことです。しかしこの費用を如何に解決するのでしょうか？ これはお金の問題に関わります。私の知っているところでは、これらのものを作っている地区は次のような方法を採用しています。つまり、学習者の中の一部の人は商売をしており、現在多くの方は会社を経営しています。あるいは勤め先でこのような仕事を担当しています。また行政管理の仕事をしているので、このような便利な条件があり、勤め先に印刷工場があるので、このような条件を利用して行なっています。また企業家が便利な条件を提供してくれたお陰で、このことを行なっています。輔導站はお金に触れておらず、他の人は我々を助けて作っています。我々はただ原稿を提供するだけで、完成したら配ります。皆このように行なっているのです。私はこうしてもよいと思います。このことを必ず行なわなければならない、定期的に行ない、条件が整っていないなくても何とかしてやらなければならないと思う人がいますが、原則としては、不定期にしてもよいのです。条件があれば定期的なものにしてもよいし、条件がなければ無理にしなくてもよいのです。

輔導站の管理について、すでに明文の規定があり、皆さんはこの規定に基づいて行なえばよいのです。輔導站を設立するにも、要求があります。すでに皆さんに話しましたが、新しい輔導站を設立した際には、北京あるいはいくつかの大きな輔導站到報告すべきです。特に省あるいは大都市の輔導站は、その行政区範囲内の、例えば貴陽

市輔導站は、貴州省内のことを担当すべきです。各県の輔導站は適時に彼らに連絡すべきです。もしすべての輔導站が全部北京に連絡したら、不便が生じるかもしれません。大都市付近の各県に対しても責任を持つべきであり、彼らの仕事の展開に便利な条件を提供すべきです。皆さんは法輪功に責任を負うことに基づいて行なうべきで、あなたが世話をしなければ、彼が勝手に行動し、要領を得ず、実際にずれてしまえば、これは法輪功に対して一つの損失です。その他に、武漢のような大きな輔導站は、付近の幾つかの省を全部担当しています。これも非常に良いと私は思います。彼らには経験が比較的多く、この仕事に携わる時間が長くなったので私も安心してしています。彼らの法に対する理解は良く、仕事の展開も比較的良いのです。基本的にこのような状況です。我々の輔導站はくれぐれもずれないようにしなければなりません。

輔導站の人員配置に関してメモを提出して聞く人がいます。人員はすべて自発的です。しかし一つの規定があります。つまり、輔導站の責任者は私の講習会に参加したことがある人でなければなりません。聴いたことが多ければ多いほど理解は深くなり、少なければ往々にして深く理解できず、ひいては一部の内容がまだ分かっていない場合、人をずれた方向へ導きやすいのです。もちろん独自で多く聴き、多く読み、多く学ぶことができれば、分かるものが次第に多くなり、認識も深くなります。人を選ぶ時、熱心で、真面目でなければならず、邪で怪しげなことをする人を選んではいけません。

その他に、法輪功の修煉は一般の気功修煉ではなく、高次元での修煉です。このことをするのはかなり難しいことです。人の身体を浄化し、本当にその人の心性の水準を向上させるのは非常に難しく、私は多くの功を打ち出して彼らの身体を浄化し、身体を整理して、多くのものを彼らに植え付け、更に法を分かりやすく説き聞かせなければなりません。このことはとても難しいのです。私は短時間でこれらのことを全部成し遂げることができます。彼らがもし自分で修煉するなら、この一步に達するのに何十年もかかるかもしれません。他の一般の師でも、一、二年の内にここまで到達させるのはかなり難しいのです。真に一人の人を導くのは容易なことではありません。人を駄目にするのはただ一瞬のことで、非常に簡単にできます。ですから、我々は一貫してこのように要求しているのです。

このような規定があります。つまり、各地の気功協会に役職を持っている人に輔導站の仕事を担当させてはいけません。しかし一つ特殊な状況があります。例えば、ある輔導站の責任者のことですが、この人は非常に良く、彼は気功協会を脱退して輔導站の仕事を担当したいと思いました。彼が所属している気功協会はほぼ解体に近い状態であり、この人も非常に良く、自分でしっかりしています。これは唯一の極めて特殊な例です。他の地区の気功協会の人たちはこの法に対して深く理解できておらず、彼らの頭にあるのは、如何にお金を稼ぐか、如何に各功派を管理するかなどで、以前の観念がまだ深く残っています。こうして、彼が我々を一般の気功として管理すれば学習者を駄目にしてしまうかもしれません。ですから、我々は最初から気功科学研究会の人は輔導站の仕事を担当してはならないと指摘しています。輔導站の責任者は皆、我々の研究会から選ばれたのです。大多数は私が自ら任命し、指定したのです。これは大法がずれないことに直接関係しています。さもないと、一般の気功と同じように管理すれば、皆さん考えてみてください。そこにはでたらめな資料が沢山あり、その資料を持ってきて売ることができれば、彼は大喜びでしょう。これは金儲けの良い機会だ、沢山儲けられる、これも売ろう、あれも売ろうと思うでしょう。彼の目的は金を儲けることだけで、故意に我々の功法を破壊することではありませんが、それは破壊の作用を果たします。その中の様々なでたらめなものはすべて学習者を邪魔します。それによって、法に対する理解が深くない一部の人はずれた道に入りやすくなります。更にでたらめな気功の本を持って来て売る場合もあります。他の功派はこのように行なっています。

現在では講習会を開く気功師が来たら、人々は冷静に考えるようになりました。気功師が来て講習会を開いても、以前のように何も考えずにすぐ参加することはなくなりました。皆さんは非常に冷静になり、本物か偽物かをよく観察するようになり、昔のようではなくなりました。そのため、気功師が講習会を行なうことは非常に難しくなりました。彼は受講者をうまく集められない場合、我々の学習者を参加させるようになります。彼は講習会を開講でき、金儲けもできますが、我々の学習者を駄目にしてしまいます。我々はこれほど大きなことをしてきて、これほど苦勞して行なったことなのに、彼は一瞬で学習者を駄目にしてしまいます。もちろん一部の学習者に対し

てはあまり高く要求できません。彼は法を勉強し始めたばかりで、法の理解はあまり深くできておらず、知らないうちに自分を台無しにしてしまうかもしれません。我々には以前から一つの規定があります。つまり、各地の省や市でこのようなことをする輔導站の責任者がいたら、すぐに換えなければなりません。絶対そのまま留めさせてはいけません。

各地の輔導站の人や煉功場の輔導員の中に、学習者を連れて他の気功師の講習会を聴きに行ったり、学習者の中で他の気功の資料を売ったり、あるいは我々の学習者を連れて邪なことをする人がいたら、このような輔導員を一人残らず換えなければなりません。絶対残してはいけません。残せばきっと問題になります。これはすでに重大な法を破壊する行為で、内部から法を破壊することは、絶対に許されません。これに対しては厳格に、一人残らず換えなければなりません。

我々の原則は緩やかな管理ですが、煉功に関する問題においては少しもいい加減にしてはならず、如何なる人にも破壊されてはなりません。我々の組織の形式は非常に緩いのです。あなたは煉功に参加したければ参加すればよいし、したくなければ離れてもよいのです。あなたが来たら我々はあなたに責任を持って、どうすべきかを教えます。あなたが学びたくなければ、あなたのその心を誰が引き留めることができるでしょうか？ あなたをここに引き留めたとしてもあなたがしっかり学ばず、いい加減なことを何でも勝手に話し、でたらめなことを行なうなら、あなたは内部から法を瓦解し、破壊するのです。我々はこのようなことを許しません。学びたければ学ばよく、法を認識できたら修めればよく、人の心が善に向かうのは自らの意志によることで、誰かに強要されることではありません。あなたは立派な人にならなければならず、そのようにすべきだと言われても、その人がそうしたくなければ、他の人はどうすることができますか？ 本人が修煉したくなければ、佛もどうすることもできません。必ず自発的にするのであって、強要はできません。

もう一つのことですが、我々の相当多くの学習者は、静かに本を読んでおり、毎日読んでいます。問題にぶつかる時も本を読んでいます。この点から見れば、輔導員よりもよくできています。ですから各輔導站はできるだけ皆を集めて多く法を学ぶべき

です。特に各煉功場の輔導員は率先して行なうべきです。我々は輔導員に対して要求があり（一般の学習者であればあなたが学びたいければ、学べばよい）、専一に法輪功を修煉している人でなければなりません。そうでなければ、それらの学習者は全部彼によって誤った道に導かれてしまうでしょう。輔導員になった以上、しっかり責任を負うべきです。我々は輔導員の法に対する理解をより一層深めさせなければならず、常に多く本を読ませるべきです。もちろん、多くの輔導員はとても真面目で、熱心にこの仕事に努めています。しかし彼の知識レベルには限りがあり、場合によっては本を読むことも困難で、年もかなり取っていますが、それでも構いません、彼は皆さんに呼びかけて一緒に法を学べばよいのです。皆さんに呼びかけて学び、本を読むとき、彼は聴くことができるではありませんか？ 皆さんが体験を交流する時、彼も皆さんと一緒に向上できます。学びさえすれば、誰でも向上することができます。法を学ぶことと動作を煉ることを結び付けて、同時に進行すべきです。

今多くの地区では動作を煉ることはよく集まって行なっていますが、法に対する学習はあまり重視されていません。学習者が質問した時、輔導員は解決できず、説明できないので、ただ先生に聞くのを待つばかりで、先生がどこに行ったのか捜しています。実は提出された質問は全部本の中で説きました。どうしても解決できなければ、皆さんを集めて録音を聴けばよいのです。多く聴くべきです。これらの問題は本の中にすでに解答があります。『法輪功（改訂版）』の中ですでに概括的に話しました。真剣に学べばすべて解決できるはずですが、長春では法を学ぶブームが始まってから、学習者は私に会っても聞くことはなくなり、私に会っても聞かなくなりました。以前は、私が街に出かけると誰でも私を知っており、故郷なので私を知っている人はかなり多く、街を歩くと法を学ぶ人が多いので、多くの人はあれこれ聞きたがっていました。今会ったら、ただ先生こんにちは、と挨拶するだけで、何も言うことはなくなり、聞くことは何もなくなったのです。本を暗記するようになってから、学習者は事後に対照するのではなく、事前にやるべきかどうかが分かるようになりました。これは非常に素晴らしいことです。皆さんは法の学びを修煉にとって欠かせないこととして勉強し、しかももっと重要なことだと思えるようになりました。各地も長春と同じように法を学び、法を学習するブームを起こすべきだと私は思います。そうすれば、多くの問題は容易に解決でき、自分でもこれらの問題を解決できるようになります。それに、

輔導員を選ぶ時、あなたとの関係の良し悪しや友情などを顧慮してはならず、感情から出発してはなりません。あるいは一旦輔導員を決めた後、取り換えづらいと思っ
てはなりません。法に責任を持たなければならず、くれぐれもこのようなことに注意し
なければなりません。基準に符合してやれる人であれば、それでよいのですが、そう
でない人ならば、あえて臨時に担当する人に任せて、いい加減にやらせてはなりません。
私は以前このような問題を話したことがあります。つまり、お寺で修行する僧侶、
お寺の長として住職、方丈と称される人、彼は專業修行者です。我々は常人社会の中
で修めており、この法は素晴らしく、高次元へと修めることができます。煉功場の輔
導員はお寺の方丈、住職と何の違いがありますか？ 皆さんに対して要求が高いとい
うわけではなく、確かに功德無量のことなのです。煉功場でどれほどの人が修めて成
就できるのか、たとえ一人だけ修めて成就できたとしても、この輔導員も功德無量な
のです。これはとても厳粛なことであり、真剣に取り組むべきです。我々は最も便利
な条件を用いて修煉し、皆さんを向上させますが、便利な条件であっても法に対して
いい加減に無責任なことをしてはいけません。将来、專業修煉者が現れるかもしれず、
このような可能性があるので、必要な条件を提供しなければなりません。

各地区ではこの間の煉功の中で、さまざまな問題に出遭ったかもしれません。皆さんはそれを提出してもよいのです。煉功においても仕事においても、どうすべきか分からないことがあれば提出してください。私が皆さんに解答します。

弟子：法輪功の学習者が超能力の実演に参加する問題について。

師：私はこれをまだ見たことがありませんが、これは絶対に禁止します。絶対いけません。彼は専一に法輪功を修煉する人ですか？ 以前は？（挿話：この人は他の功法を学んでいましたが、功が上がりず、法輪功を煉ってから功が上がりました。彼は「三花聚頂」に至ったと言っています）我々はこれらの人に教えるべきです。法輪功を修煉したければ、法輪功の要求に基づいて行なってください。彼は元々法輪功の要求に従っていないので、根本から法輪功の修煉者の基準に符合していません。しかもこの人には憑き物が付いている可能性があります。彼自身がこうするのがいいと思って求める時、私の法身は何もしてあげられず、このような状況かもしれません。こ

のような情況は別の角度からみれば我々の法を破壊しに来たのであって、絶対に許されません。この人が本当に修煉を続けるのであれば、我々の基準に従ってやらなければなりません。そうでなければ、彼に如何なる条件も提供しないでください。彼は法輪功の修煉者ではありません。他の功法を練る人は法を学びたければ学びに来ればよく、縁に任せれば良いのです。人を学びに来させたり、人を連れて学びに来たり、あるいは学びたくないのに、皆が学びに来たから自分もついて来たという情況であれば、あまり良いことではないと思います。一部の人は済度してもしなくてもいいので、我々は縁に任せます。彼がどれくらいの人を連れて来たかを重く見るべきではなく、これらの人が法輪功を修煉できるかどうか、専一に修煉できるかが、重要なのです。皆さんは帰ってから法を学ぶブームを起こすべきであり、この要求は普遍的に実行でき、認識できることです。そうしなければ、こういう問題は将来ますます目立つようになるはずで

弟子：我々は煉功の世話人を増やしてもよろしいでしょうか？

師：よいです。人を増やして、あなたたちが自分で選んで、一人か二人を増やしても構いません。必ず法に対する理解が比較的深い人、熱心にこの仕事に取り組む人を選択しなければなりません。

弟子：ある学習者は、私はすでに三花聚頂に達し、八月十五日、李洪志先生は私の「法身」を連れて行ったと話しています。

師：皆さん、気を付けてください！ このようなことはすべて様々な執着心によってもたらされた幻覚です。このような人が相次ぎ幾つかの地区で現れました。正にあなたが今話したように、彼はかなり危険です。彼は、私はすでに三花聚頂に達した、これほど能力がある、最後には私はすでに佛になった、あなたたちは李洪志について学ばなくてもよい、私について学びましょう！ と言うかもしれません。そのまま進めば、最後にはこのような問題が現れます。このような人に対してすぐ指摘してあげるべきで、彼にこれらの執着心を放棄させるべきです。こういう情況では、大変問題になりやすいのです。最初これらの人はとても私を尊重し、私に血書を書いた人もいま

す。指先を切って血書を書き、法輪功の修煉を最後まで続けると表明しました。結局、彼は自分が「佛」になった、「あなたは李洪志について学ぶことをやめよう、私について学ぼう」と言い出しました。彼は落ちてしまい、名利を求める心、歓喜心、更に魔の妨害により、自ら抜け出せなくなりました。人前では彼はやはり法輪功が良いと言っていますが、実際、彼の行為は法輪功を破壊しているのです。これは正に私が話したように、「法輪功は本当に素晴らしい、法輪功を学んだら何でも気にする必要はなくなり、見てごらん、私がこの本を持って車道を歩いても、車は私にぶつかることはない」と言う人と同じです。彼はこれで法輪功を破壊しているのではありませんか？ 表面上では法輪功を擁護しているようですが、実質上は、法輪功を破壊しているのです。

弟子：この間、広州地区の気功科学研究会が行なった気功の実演の問題について。

師：一部の地区の気功科学研究会は体育委員会に属しているのです。体育委員会は気功を一種の体育活動としています。大衆的な体育活動として、時に各門派の功法と一緒に活動を行ない、まるで体操のようにしています。ある状況下で行なった気功活動なので、彼らはそれを一種の体育活動と考えており、良くないこととして扱っていません。このようなことに我々は参与したくないのですが、彼らがどうしても行ないたいければ、その意見を尊重する意味で、我々は学習者を連れて参加してもよいのです。体操をするように動作を実演すればよいのです。ただし注意すべきことは、我々はそれを何かの意味があることとしてするのではなく、やむを得ず、気功科学研究会の要求に応じて行なっただけです。これを学習者の皆さんにはっきり説明し、一緒に一、二式の動作を実演して、彼らの体育活動を支持します。特別な状況下ではこのようにしても構いません。しかし一つ特例があります。つまり、もし他の気功師がエネルギー場を作って実演するようなことがあれば、我々は一切参加しません。単純な体育活動のような行事なら構いません。これは皆さんがしっかり把握しなければなりません。

また一つの問題があります。今、各地の輔導站はみな法輪功を広めています。一部の地方では講習会の形式で行なっています。我々はやはり「講習会」と言わず他の名称で呼んだほうがよいのです。このことを行なう時、誰もこの法を説くことはできず、

無論そうしてはいけません。もし誰かが演台に立って法輪功を論じたり、どのようにすべきだと話したり、この法を説いたりすれば、それは彼が邪法を伝え大法を破壊しているのです。法輪大法は一つしかありません。もし彼が本を持って読むなら構いません。輔導站の責任者が誰かに本を読ませるのであれば、それも構いません。

その他に、皆さんを集めてビデオを見せてもよいのです。これは全部の説法のビデオを指しています。第一講を見てから、止めて功を学びます。翌日に第二講を見てから、また止めて功を学びます。

あるいは、録音を聴いてもよいのです。一講ずつ聴きます。それから専任の人が動作を教えます。これは問題ありません。動作は皆さんと一緒に学んでも構いません。今後このような形式を採用すべきであり、これは一番良い形式です。我々が皆さんを集めて一緒に功を学ぶのは問題ありません。

それに、個々で学びに来る人は煉功場で皆さんと一緒に煉功し、それから本を読み、録音を聴くようにすればよいのです。このようにします。しかし、一つ気を付けなければならぬことがあります。我々は断じてすべての功を伝える活動を如何なる営利的な性質のものにしてはいけません。備わる条件に合わせて行なえばよいのです。料金を取ってはいけません。我々は教室や会議室を借りたり、人が多い時に講堂を借りたりしても構いません。このようにしてもよいのですが、料金を取ってはいけません。我々はすでに断言しており、営利の仕組みにしてはいけません。くれぐれもこの点に注意してください。もし極めて特殊な状況があり、多くの学習者、多く法を学ぶ人がいる場合、広い場所が必要になりますが、なかなか貸してくれるところが見つからず、どうしても講堂を使用したいのですが、講堂を借りるには使用料を払わなければなりません。このような極めて特殊な状況では、北京に直接連絡してください。もし本当にこのような状況であれば、講堂を借りるだけの費用を取ってもよいのです。一銭も残らないようにしてください。要するに、我々は貯金をしてはならず、輔導站も貯金をしてはいけません。如何なる営利活動もしてはなりません。この問題に関して、私はすでに皆さんに明確に話しました。これはとても厳粛なことです。我々の功派は正しい道を歩むことができ、この一点において他の功派とは根本的な区別があります。

弟子：上海からの話によれば、ある講習会に参加したことのない法輪功の煉功者は、皆を集めて煉功する前に、「尊師李洪志を拝し、大法法輪功を学び、心性真善忍を修める」と唱え終えてから煉功を始めます。煉功終了時に「しっかり修めます、先生に感謝します」と唱えます。彼は先生に対する崇拜だと言っています。

師：彼は講習会に参加したことがないのですか？（答え：そうです）あなたが言ったこのことはとても重要なことです。多くの地区の学習者は、彼は本を読み、あるいは録音を聴いてから、とても素晴らしいと思いましたが、どのようにすればよいか分からない場合、このような問題が現れるかもしれません。他の地区でも将来現れるはずです。皆さんはくれぐれも注意してください。このようなことを聴いたら、あなたがどの地区の輔導站の人であっても、こうすべきではないことを、彼に教える責任があります。このようなことによって、法輪功を学んだことの無い人を知らないうちにその形に連れて行ってしまいます。実際はこの人は講習会に参加したこともなく、あまり分かっておらず、この機会を借りて自分を表現したい可能性があります。しかしこの人に対して結論を下してはならず、将来彼は学習に参加した後、この問題に如何に対処すべきかが分かるはずで、これは確かに重要なことです。皆さんはくれぐれもこのことに注意してください。どの地区で現れたにしても、輔導站は聞いたら、彼に近い地区であれば、皆さんは電話あるいは他の形式を通じて彼を止めるべきであり、このようなことは正さなければなりません。

上海には将来行く機会があるはずで、私はずっとそう思っています。

弟子：ハルビン総輔導站が一部の輔導員を連れて長春へ学習に行った問題について。

師：ハルビンの状況はかなり良いのです。一部の輔導員は長春に行って総輔導站の企画した修煉体験交流会に参加した後、彼らの認識もかなり向上でき、各種の活動を展開しており、この方面ではとても良いのです。長春の総輔導站はすでに私にハルビンの状況を説明したので、私はすでに知っています。ハルビンの夏はとても良い季節で、特に松花江の岸辺で皆さんと一緒に坐って本を読むことは、とても良いことです。

弟子：先生をお招きして大慶市で講習会を行なうことについて。

師：講習会を行なうことについてはもう聞かないでください。将来私はまとめて按排することにします。今、要請状がかなり多く、大慶からの要請状を私は二通見ました。去年ハルビンの講習会の時、大慶から学びに来た人もいました。

弟子：先生が講習会を行なわれたことのない地方で法を伝える問題について。

師：こうすればよいでしょう。今回広州で法を聴いた後、皆さんは帰ってから講習会に参加したことのない学習者を集めて一緒に話してみましよう。皆さんが録音をしている場合、皆と一緒に聴いてもよいのです。済南の録音テープもあり、とても良くできています。皆さんを集めて一緒に録音を聴いてもよいのです。初めから終わりまでずっと録音を聴くだけでなく、一段落を聴いてから、自分が理解できる程度のことを皆さんに話してみ、更に皆さんから自分の理解を話してもらい、活発な雰囲気の中で行なってください。

弟子：寄付の問題について。

師：他人がいくらお金持ちであっても、いくら法輪功に寄付したくても我々は要りません。なぜでしょうか？ あなたが貯金してもよいのなら、他の輔導站も貯金してもよいではありませんか？ すべての輔導站が皆貯金したら、このまま続ければ、将来、お金の問題に触れると、すぐ人心が変わってしまいます。ですから我々はこのようにしません。もしこの人が本当に法輪功のために貢献したければ、例えば資料の購入や、あるいは我々が法を学ぶ活動を展開する時に、彼に活動に便宜をはかってもらったり、実際に物を提供してもらったりするのは構いません。

弟子：天目が開いている輔導員はどのように活用すべきでしょうか。

師：天目が開いている輔導員はどのように活用すべきでしょうか？ 普段皆さんの修

煉が良くできている場合、彼らには何も言わないほうがよいのです。まだ足りないところがある学習者に対して個別に教えてあげて、どこがまだ向上する必要がある、どこに問題があると教えたほうがよいのです。あなたがもし公に、あなたの法輪はどれくらい大きく、彼の法輪はどんな様子だと言うなら、皆さんはあなたを囲んで、毎日こればかり聞くことになります。また自分がどれほど高くまで修めたかを聞く人がいます。くれぐれも勝手に言わないようにしてください。教えてあげれば執着心が起こります。この点はしっかり把握しなければいけません。

弟子：煉功は職場で積極的な支持が得られていると言う人がいます。

師：多くの地区、寒冷な地区で、冬に煉功するのは大変苦しいことです！ 一部の職場は積極的に支持し、煉功場所を提供してくれています。このような例もかなり多いのです。我々の影響がとても良いからです。学習者は煉功を終えてからその場所をきれいに掃除し、雪が降った時は庭もきれいに掃除することがあります。我々はどこでも素晴らしい行動をしているので、職場は自然に便利な条件を提供してくれます。

弟子：法輪功学習者が集まって修煉体験を交流することについて。

師：長春では録画を撮りました。学習者は心を打つ話を語り、聞いている学習者もかなり感動し、涙がこぼれる人もいました。交流会は非常に充実しており、雰囲気も良く、皆さんも非常に喜びました。まさにあなたが先ほど言ったようにその場において、私本人がいない以外はすべて揃いました。我々の講習会の時と同じく、その場は非常に強いのです。それはまさに法輪功の結集であり、法会と同じです。だから効果はとても良いのです。将来学習者が多くなったら、このように修煉体験を交流したほうがよいでしょう。更に学法を合わせれば、向上にとっても効果的です。功を学んだあとにどんな収穫があったかを学習者自身が話すのは、ある面から見れば、我々が話すよりも生き生きとしているのです。

弟子：皆さんが修煉体験を交流することです。

師：高次元に達してから見えるこれらはすべて縁によるもので、次元の向上によるのです。このようなものは交流してはいけません。交流というのは、ただ心性の修煉において如何に向上するかのことだけです。我々の修煉は正法なので、複雑な環境の影響を恐れていません。

弟子：法輪功輔導站と現地の気功協会との関係を如何に正しく対処すべきでしょうか？

師：これはとても重要な問題です。先程言いましたが、原則としては現地の気功科学研究会、人体科学研究会あるいは気功協会の人、我々の管理の仕事に参加してはならず、輔導站の責任者、輔導員になってはいけません。しかし我々は彼らとよく協調しなければなりません。なぜなら、今中国気功科学研究会には、明文化された規定があり、つまり直属する功派は修煉において本派の先生により自ら管理しますが、地方行政においては彼らの管理に属します。しかし、我々には行政管理はなく、功派の管理も非常に緩やかなのです。我々は輔導站の責任者を彼らの所に届け出たり、正式な会議があれば責任者を参加させたりするのは構いません。しかし、もし学習者を誘って他のことを行なえば、それが我々の規定に符合しない場合は行ないません。これらのことは彼に明確に言ってもいいのです。もし彼らが何らかの有益な活動を企画し、他の問題に及ばず、体操をするかのような何百人もの大衆的な活動なら、各功派が集まって動作を行ない、どのチームがよくできるかを競い合い優勝者を選出して奨励します。これはあくまで体育事業の発展を促進するための活動なので、参加しても構わず問題ありません。我々の功派を利用して他のことを行なうなら、それははいけません。このことを関係者に明言すればよいでしょう。

地方の関係部門への届け出は、彼らの所に登録してもよく、登録したにしても大した活動はありません。ほとんどあまり関わらないのです。たまにどこかの気功師が講習会を開く時、参加するように呼びかけられますが、信じるか、信じないか、学習者が自分で把握すればよいのです。彼らに呼びかけられても行かなければ、それだけの問題です。人体科学研究会はあまりこれらのことに関わらないのです。広州の法輪功総輔導站はすでに広州市人体科学研究会に登録しています。現在ではなく、かなり以

前にすでに登録しました。何かの活動があれば我々の責任者は参加してもよいのです。それは問題ありません。つまりこのような関係です。大連のような、多くの地区の気功科学研究会と我々との関係は非常に良く、彼らの多くの人は法輪功を修煉しています。こうして法輪功の活動の展開、大衆の煉功にとっても便利な条件を提供してくれました。障害はなく、これは非常に良いのです。つまり如何に彼らとの関係をよく協調できるかの問題で、我々は原則をしっかりと守り、つまり法輪功に規定した原則は堅持しなければなりません。他の事情に至っては、取るに足りない些細なことなら大した問題にはなりません。

弟子：僧侶や居士にどう勧めたらよいでしょうか？

師：時間の推移に従って、彼らは恐らく最後まで取り残されて認識するようになります。現状から見ればほぼこのような形勢です。先に法を得るものはすでに全部得ました。将来の状況を見ましょう！ 当時私が出山した時、このことに関して明確に私は言いました。これらの人はそれらのことがもう確実に存在していないと分かった時、むなしく感じるようになるでしょう。一部の人は還俗するかもしれず、一部の人は法輪功を修めることになるでしょう。このような問題が現れるはずですが、これは暫く後のことです。居士ならまだ解決しやすいのです。居士は社会において往々にして気功を学んでみたいと、あれこれ外へ捜しに行き、法輪功に出会えて学びたくなり、本当にのめり込んだら、つまり法に対して理解でき、真に認識できるなら問題はありません。すでに出会ったので、学び続けていけば、きっと認識できます。重要なのは法を学ぶことです。彼らをまとめて法を学んでください。

弟子：精神異常の人に対してどう対処したらよいでしょうか？

師：この問題について次のように対処しましょう。もしその人の話の様子や立ち振る舞いが異常であれば、これは間違いなく法輪功を学ぶ要求に符合していません。このような問題が現れた人は、およそ次のような状況です。一つは彼自身の根基が良くないかもしれません。もう一つはこの人は根基が良いが、執着心のために放下できないものがあり、良くないものを招いてしまったのです。この二つの原因でもたらされた

のです。彼に説明して放下でき分かってくればそれでよいのですが、分からなければ仕方ありません。もちろん、最も有効で強制的な方法が一つあります。もしこの人が非常に良く、周囲に影響も大きいならば、我々は彼の状態に合わせて、皆一緒に彼に向かって本を読み、彼に学びたいかどうかを聞き、学びたければ一緒に彼を囲んで本を読みましょう。本を読む時、部分的に選択して読んでもよいのです。彼は精神がおかしいので、それが魔を招き、魔を生じたのではありませんか。彼に向かって本を読み聴かせ、彼自身も読んで理解します。彼の主元神が強くなり分かるようになれば目が覚めるでしょう。もし彼が目覚めずに、しかも我々の力を牽制すれば、この人によって学習者が影響されないようにすべきだと思います。およそ精神がしっかりせず、おかしくでたらめな話を言ったり、あるいは自分がどんなに高いかを言ったり、あるいは摩訶不思議なあいまいな話を言ったりする人は、きっと精神に異常があり、この人に問題があります。これらの人に対し、もし輔導員であれば、すぐ止めさせなければなりません。もし一般の学習者であれば注意してあげて、それでも直らなければ煉らないように勧めましょう。彼が煉ろうとするなら、皆さんは誰も彼の言うことを聴かないで、彼のそばに近づかないようにしてください。このような人に活動の環境を提供しないでください。環境がなければ、その魔はやる気がなくなるのです。彼の話聴く人がいなければ、彼は我々の法を破壊できず、やる気がなくなるのです。

弟子：『文芸の窓』の問題について。

師：『文芸の窓』について私はすでに彼らにこの問題を話しました。編集者から原稿の提供者まで、彼らの目的は法輪功を破壊しようということではなく、法輪功を宣伝したいのです。しかし彼らは往々にして文芸の角度に立ってものを書きます。文芸作品なら、編集したり、誇張したり、随意に想像したりして、任意に行なうことができます。私はすでに彼らに言いましたが、できるだけ我々のこの法を理解したうえでほしいのです。この原稿の提供者はすでに何回か講義を聞いたことがあり、しかし彼が一回講義を聞いた後、とても素晴らしいと思い感動したので、すぐ書き始めました。しかし彼は深く理解できず、しかもその後の数回の聴講は、それを書くために聴いていたので、メモを取るのに気を取られ、結局よく聴き取れず深く理解できなかったのです。最初に提出した原稿はそれほど大きな問題はなかったのですが、その編集

者はただ数回講義を聞いただけで、気ままに編集を加えたり、勝手に直したりしたので、面目が全く変わり、仕上がったものはそんな内容になってしまったのです。しかしはっきり言えるのは、彼らの出発点は法輪功を破壊したいということではなく、これは間違いなことです。それにしても我々に一定の影響をもたらしたことは確かです。私はこう思います。彼らの出発点は良いもので、破壊しようということではなく、ただ言葉の使い方や想像力で発揮されたものは法輪功の要求に符合していない部分があります。もちろん、このものを私は見ず、一冊も見ませんでした。我々は学習者にはっきりと言っておきます。それを我々の修煉のよりどころとしてはいけません。我々の修煉のよりどころは現在出版された法輪功の本であり、正式に発行された本あるいは私の講義の録音です。私自身が修煉していたそれらのものに関しては、適当な時期になれば、それを書くつもりです。今書くつもりはありません。今は法を伝える時期で、書き出したら人々は信じてでも信じなくても構いませんが、学習者はそれほど高い認識がない時、ある種の神秘的なものや機能などを追求するかもしれません。その他に、理解のできない者は、あなたはこの……と思うかもしれません。

弟子：どのように学習者を組織して体験交流を行なうかについて。

師：我々は事前に選択して彼が何を話すのかを確認したほうがよいのです。特に大型の交流会を開く時、必ず発言の原稿を審査しなければなりません。一つ注意すべき問題があり、もしある学習者が一言間違っただけを話してしまったら、このことに問題をもたらすかもしれません。

弟子：寄付のことについて。

師：私は先程言いましたが、もし、彼の会社の規模がかなり大きく営業状況も非常に良く、彼が寄付したければ、或いは彼が国外から来た者で確かに経済力があり、我々に寄付しようとしても、各地の輔導站は受け取らないでください。彼が力添えしたいなら、この状況が現れたらどうすればよいでしょうか？ 彼に研究会へ連絡させればよいのです。我々は統合して按排し、まとめて修煉の拠点を設立します。将来学習者はあちこち走り回らなくてもよく、幾つかの地区、北部地域や南部地域で修煉の拠点

を作ります。今まで我々は一切寄付を受けたことはありません。

弟子：煉功の動作の問題について。

師：更に高い次元に突破した時、如何なる動作もなくなり、ただ坐禅するだけです。佛家にしても道家にしても、いずれも坐禅するだけです。それは完全に自動的に功を形成するようになり、自動的に上へ伸びていきます。あなたが心性を高めさえすれば、その功が伸びていきます。くれぐれも注意してください。一旦他の動作が現れたら、必ずそれを排斥しなければなりません。学習者にはっきり説明してください。先生の教えていたのが見えた人がいます。しかしそれは偽物です。私は絶対このように皆さんに教えるわけがありません。

弟子：手印を真似て結ぶことについて。

師：その手印を真似ないでください。なぜでしょうか？ その手印は私が学習者に語った言葉です。私が今日話した言葉と同様に、あなたは私の立場に立ち私の話を語ってはいけないことと同じ道理です。

弟子：広東からの話ですが、ある人が「私は法輪功の第何代目の伝承者です」、「李洪志と同門です」と自称しています。

師：この人はもしかしたら、めちゃくちゃな憑き物に取りつかれているのかもしれませんが。お金を稼ぎたいとか、法輪功を破壊したいとか、全部この類いのものです。皆さんにはっきり言いますが、この世において法輪功を伝えているのは、私一人しかいません。法輪世界の他の誰であっても、彼はここに下りて来て法を伝える勇氣はありません。このことを皆さんにはっきり言っておきますが、つまりこのことを行なう人は誰もいません。私の同門の兄弟なども存在しません。皆さんはすべて輔導站の責任者なので、私は皆さんに少し高いことを話してもよいのですが、我々のこの法輪功は、他の功派と違い、私が今生で誰それについて学んだということはありません。皆さんは読んだと思いますが、本の中に私には師父がいる——全覚法師などなど、また何ら

かの法師がいると書いていますが、これはどういうことなのか皆さんに教えましょう。この全覚法師および八極真人など、これらの人ですが、皆さん知っているように、天象がこの段階に進んだ時、あるいは歴史のある段階でこの大きなことを行なう時、すべての歴史がこの段階にまで進んできて、あるいは発展の過程に現れた現象は、すべてこの法のためであるかもしれません。そうすれば、この過程の中ですべての魔はすべてこの法を破壊するためのものかもしれません。つまり、我々は今日この段階まで歩んできたので、私が生まれた時、すぐ悟りが開かれるわけにはいかず、開かせてもらうわけにもいきません。そうなれば、人を済度することができず、私はやるべきこともできなくなります。この段階においては私の以前のものを私に提示してくれる方式で、私に悟りを開かせる人が要ります。この人はつまり私の言った全覚法師です。悟りを開いた後、私自身のものが分かりました。その後、半分閉ざされる状態でまた他のものを学びました。私自身のものは動かされていません。多くの方は私が来たことを知っており、この人も私に良いものをあげたい、あの人も私に良いものをあげたい、いずれも私に彼の一門のものを承認してもらいたくて、将来彼が保護され残されることを望んでいるにほかなりません。つまりこういうことです。我々はここで少し高いことを話しました。もちろん良いものにも、悪いものにも、それを量る方法が必ずあります。良いものは必ず保護され、悪いものは取り除かれるかもしれないのです。しかし本当にこの法輪功を伝え、このことを行ない、つまり真に法輪功の一門のものを代表するのは私しかいません。他に誰もいるはずがありません。

弟子：広西省で輔導站を設立したいのですが。

師：よろしいです。そこに今学ぶ人がどれくらいいますか？ 百人あまりですね。広州の学習者に相談して輔導總站を設立するのを手伝ってもらいます。あなたたちはまだ日が浅いので、しばらくの間、広州に頼んで代わりに管理してもらってもよいのです。将来独自に活動できるようになったら、独立すればよいのです。

法輪大法北京輔導總站による録音

北京法輪大法輔導員会議での法を正すことに関する意見

李洪志

一九九五年一月二日

皆さん新年おめでとうございます！

お正月休みなのに会議のために皆さんに集まってもらったのは、この会議を開かなければならないからです。多くの学習者はすでに知っていますが、私は間もなく国外に行って功を伝えることになっています。時間の余裕がありませんので、やむなく皆さんに集まってもらいました。というのは、幾つかのことを話さなければなりません。そうでなければ、今すでに幾らかの兆候が現れており、これによって我々大法の健全な発展が影響されるかもしれません。

まず法輪大法の伝播の状況について話します。皆さんが知っているように、この法輪大法の全国各地での影響は比較的大きいのです。今気功界の指導者、また各地の多くの気功組織、各省や市の気功科学研究会はみな次のような感じになっています。つまり、他の気功グループは沈滞気味になっているのに対し、法輪大法だけは上り調子の勢いをなしており、しかも発展が非常に速いのです。これは各地の気功科学研究会や気功管理部門の責任者が言ったことで、私が言ったことではありません。これによって一つの問題が明らかになりました。何の問題でしょうか？ つまり、大法の発展は益々速くなり、人数は益々多くなっています。こんなに速く発展できるには、二つの原因があると思います。その一つは、多くの気功は偽物で人を騙し、道徳を重視しないので、一度か二度は人を騙すことができても、時間が長くなれば、人々は分かるようになります。もう一つの原因は、法輪大法が伝え出されてから、我々は学習者に責任を負い、社会に責任を負うことに基づいて、多くの人を本当に受益させることができ、多くの人が大法の修煉の中で社会の気風に良い促進作用を発揮できました。ですから、非常に良い効果が得られました。つまり法輪大法の伝播は非常に速く、現在、

より多くの人々に認識され、ますます広く伝わっています。しかし、ここではっきり言いますが、良い形勢の中から我々自身の不足も見えています。これは確かなことです。各地の輔導員や多くの煉功者、及び一部の古い学習者の多くの行為は、大法の要求から大きくずれています。これはある程度、法輪大法を破壊し、一種の破壊作用を果たしています。我々は一人の学習者として、一人の法輪大法の修煉者として、特に輔導員の仕事を担当している場合、周りの人はあなたを一個人と見なしておらず、普通の煉功者と見ていません。あなたが如何なることを行なっている時でも、周りの人は常にあなたを法輪大法の修煉者と見なしており、法輪大法の形象を代表していると思っています。これは非常に重要なことです。全国各地で多くの人々は法輪大法の素晴らしさを知っており、その素晴らしさは心性の修煉を重んじることで、最も根本的な問題を明らかにしたからです。法輪大法の修煉者はみな心性を重んじるので、周り的人々は法輪大法を修煉するあなたたちを観察しており、その一挙一動を注目しています。行動に問題があれば、あなたたちは口で言うだけで行ないが伴っていないと思ってしまう。もし口では良いと言っても、実際その通りでなければ、人々にこのような感覚を与えてしまいます。私に言わせれば、これは良くないことです。

先程、私が言ったのは功を伝える状況です。我々もこのような状況が見えたので、この会議を開くことにしました。それと同時に私は外国に行く前に必ず皆さんにこの問題を話さなければなりません。なぜなら、北京で法輪大法を修煉する人数がわりと多く、一定の影響があるからです。私が外国に行って功を伝えることは国内で功を伝えることと同じです。皆さんが知っているように、私は今日東北に行き、明日西南に行き、明後日南方に行き、それからまたあちこちに行ったり来たりして、いつもこのように回っているのではありませんか？ 外国に行っても同じです。地球を一周回っても二日しかかかりません。私がどこかに行ったら永遠に戻らなくなるのではありませんが、多くの人はこのように考えているようです。また「李洪志が去ったら、私が大王になれる」と言う人がいます。どんな考えを持つ人もいます。

我々法輪大法の修煉は心性の修煉を重んじるので、あなたの一挙一動が修煉者の基準に符合していなければ、学習者はみなそれを察知することができます。しかし、一部の人はこれらの間違った傾向、誤った表現を明確に認識することができず、これは

学習者の多くの執着心、顕示心、様々な心を取り除かれていないためにもたらされたことです。皆さんはこの法の素晴らしさを知っており、この法が人を済度する役割を果たすことができることも知っています。それでは考えてみてください。この法は人を済度することができますが、なぜできるのでしょうか？ なぜ人を良くなるように変わらせることができるのでしょうか？ その先決条件としては、あなたが良くなりたくなければ、誰もあなたを済度することはできません。しかも、あなたが良くなるということは、あなた自身が良くなりたかったからです。故に一挙一動でも真の修煉者の基準に符合しなければなりません。これは非常に厳粛な問題です！

ある人は顕示心が非常に目立っており、このまま続けていけば、法を破壊しかねず、その他一部の講習会に参加したことがない人や各煉功場の人に間違った認識をもたらし、場合によってはこれらの人もその人に追随して訳も分からずでたらめなことを行なうかもしれません。ここで話しているのは輔導員としての責任の問題です。輔導員の責任はとても重要なのです。私は広州へ功を伝えに行く前、こう話したことがあります。つまり「輔導員の責任は寺院の住職に劣らない」ということです。なぜこのように言うのでしょうか？ 本当に高次元へ功を伝えることは、つまり人を済度する問題です。本当に修煉に専念している人は、真に修煉している人であり、ただ彼は宗教の中で修煉していますが、我々の大多数は社会のこの形式の中で修煉しているのです。いずれも修煉する人なので、みな一緒に煉功し切磋琢磨し、一緒に向上する面においては、その責任者、つまりその輔導員はお寺の住職と同じ役割をしているのではありませんか？ 私に言わせれば、末法時期には、法輪大法の学習者の心性は和尚よりも高いのです。それでは、我々の輔導員は寺院の住職、方丈よりも高いはずですが、一部の輔導員はこの要求に達しているのでしょうか？

もちろん、在席の皆さんの中に講習会に参加したことがないのに輔導員になった人がいます。これは一つの問題です。しかし、この点に関して我々は反対しません。将来全国各地の煉功者がみな講習会に参加して、はじめて輔導員になれるということは不可能です。重要なのはあなたが輔導員としての基準に符合しているか、法に対してどの程度まで理解できているかのことです。もし言葉づかいや立ち居振る舞いさえも修煉者らしくなく、大法の修煉者らしくなければ、このような人は輔導員になっては

いけません。我々の修煉の目的はとても明確で、つまり高次元への修煉ができることです。これについて講習会で我々はすでにはっきりと説明しました。考えてみてください。道を得たその真人、あるいは佛家が言ったその佛、菩薩は、あなたのような言葉づかいをするのでしょうか？ あなたのような不純な思想があるのでしょうか？ あなたのようなやり方で物事をするのでしょうか？ もちろん、我々は皆さんに対してこんなに高く要求しているわけではありません。皆さんはあくまで修煉中の人です。しかし、あなたは厳しく自分に要求すべきではありませんか？

大多数の学習者や輔導員はみな非常によくできており、大きな貢献を果たし、皆を集めて学習することに苦勞しています。我々はみな自発的に修煉に来たので、あなたに官職を与えたり、成果を約束したり、お金を儲けさせたりすることはありません。我々には何の権力もなく、しなければならない義務もなく、いくら給料を貰えるということもありません。皆さんはみな自発的に無償で働いており、熱意と法に対する敬愛によってこのことを行なっているのです。そうであれば、なぜこのことがよく行なわれていないのでしょうか？ 先ほど私が話した講習会に参加したことがない人に対して、将来我々は定期的に新しい学習者あるいは輔導員に対して養成訓練を行なう必要があります、必ずこうしなければなりません。さもなければ追いついて来られないのです。古い学習者が一人もいない地区もありますが、それでも輔導站を作らなければなりません。その場合、彼らに対して必要な養成訓練を行なわなければなりません。もちろん養成訓練はこれからのことですが、あなたが講習会に参加したかどうかに関わらず、我々の要求としては、今からすべての輔導員はこの法をよく理解できるようにしなければなりません。能力のある人、若くて精力旺盛な人は、年を取って記憶力が良くない人を除いて、皆さんはこの本を暗記すべきです。私が提出したことはかなり高く、要求があまりにも高すぎたかもしれませんが、多くの地区で、多くの学習者がみな非常によく暗記できており、法を学ぶ時に本が要らなくなり、みな暗唱できます。この人たちに比べてみれば……私の故郷は東北にあります。いつも北京に滞在しており、北京は研究会の所在地でもあり、私がここで行なった講習会の回数も割合多く、つまり我々の現在の基礎はここにあるのです。ですから、北京の学習者は率先して模範の役割を果たすべきだと私は思います。本来ならこの模範の役は北京の学習者が果たすべきですが、現在全国各地の学習者はみなすでに学び始めました。

法を学ぶことにはどんな良いことがあるのでしょうか？ それはつまり学習者が問題にぶつかったら自分で解決できることです。もう一つは、もし誰かがでたらめなことを行なうなら、学習者は自らそれを識別できるので、邪なこと、でたらめに行なおうとする人はそれができなくなり、周りに許されないのです。今後我々は規範を設け、あなたが法輪大法を修煉するならば、大法の中で修煉したければ、あなたは法を学ばなければなりません。ただ動作を煉るだけでは認められません。これは皆さんに対する要求が高くなったわけではなく、このことはすでにひどく我々の法の名誉を傷つけたからです。動作だけを煉って心性を修めず、社会において何の配慮もせず、したい放題で、常人の中で常人の行為よりも良くなく、私に言わせればこれはいけないことです。ですからこのような要求を出しました。

一部の学習者は顕示心が取り除かれていないため、このような様々な状況が現れました。例えば、常に自分を顕示したい人がいます。私はここで輔導員のことを指しており、これは輔導員の会議だからです。私が学習者のことを指摘しても、学習者には聞こえないので、ここでは輔導員のことだけに話しています。顕示心が取り除かれないこの主要な原因は多くの輔導員は法に対する理解が非常に低く、一般の学習者にも及ばないからです。これによって一つの問題が生じます。つまり学習者が分からない問題にぶつかった時、以前は本を読まず、学ばず、本を読んでも続かず、そうすると次のようなことが現れます。つまり彼は様々な解決できない問題にぶつかったら、輔導員に聞きに行きます。聞かれると、輔導員自身の心性の問題で……輔導員も法を学ばず、本を読まず、法に対する理解が中途半端なのです。それによって次のように思う輔導員がいます。「もし答えられなかったら、私は威信を失ってしまい、皆さんを呼び集めて一緒に煉功することが難しくなるのではないか」。もちろん、目的はこの法を護るためかもしれませんが。つまり皆さんを集めて一緒に煉功することはやりにくくなるのではと心配しているのです。そのために一部の輔導員は自分がまだ分かっていない問題に対して勝手に結論を下し、でまかせに話し、あるいは自分の感覚に頼って話してしまうのです。これは実質上、法を破壊することであり、非常に嚴重に法を破壊するのです。私は以前この問題について話したことがあり、自分の感覚で、自分のいる次元で悟ったことに頼ってこの法を解釈してはいけないのです。この問題に

ついてすでに明確に説明したではありませんか？ つまりこういう問題です！ ですから皆さんはくれぐれもこのことに気を付けてください。

皆さんの目的は良く、この法を護るためです。自分の威信を高めるためではなく、「皆さんを集めて煉功できなくなれば、自分が仕事をうまくできなくなる」と心配しており、このような目的に基づいているかもしれません。しかし皆さんに教えますが、この問題を解決する唯一の方法、唯一の道は、あなたがこの法を会得し法を深く理解することです。それができれば、人に聞かれたら、あなたはこの法に従って説明すれば、すなわちこの法を講じているのです。機能の状態の各種の現われに関して、説明しなくてもよいのです。「様々な機能には万に上る表現形式があり、どうやって説明してあげるのですか」と言えばよいのです。各種の状態、この状態、あの状態がありますが、あなたが自分を一煉功者とするなら、それらのことに構わなくてもよいのです。ある状態は感じ取ることができますが、ある状態はまだ感じていないうちにすでにその段階は過ぎてしまいました。その機能は万にも留まらず、身体の中でちょっと動けば感じられます。その機能は強力な電気や磁気を含んでおり、まだ他のものもあり、それらのものが動くあなたに感覚があり、非常に敏感なのです。様々な状態、また進化によって生じた各種の生命体、これらのことをどうやって解釈してあげるのでしょうか。これらのことは解釈してあげなくてもよいのです。「これらのことはすべて正常な反応で、みな良いことです」と言ってあげたらよいでしょう。もし法を深く理解できたら、法に基づいて説明してもよいのです。我々は以前ずっとこの法を守りたく、皆さんに多く解釈してあげたいのですが、しかし、皆さんがよく理解できないことを心配していました。法を深く理解できなければ、当然人にうまく説明することができません。説明できないから面子を失うことを恐れ、でまかせに話してしまいます。そういうことはこの法を破壊することではありませんか？

このような顕示心が更に強くなれば、個人の名利に対する追求を助長するはずです。それは元々名利に対する追求から生じたものだからです。更に強くなれば、自分の勢力を形成し、自分はボスになるでしょう。そうなれば、「あなたたちはみな私の言った通りにしなさい！ 李洪志さえも何かをする時、私の言った通りにしています」と言うでしょう。いずれも学習者は知らないのです、彼は勝手に言うのです。甚だしきに

至っては、彼は「李洪志も魔だ！ 私の言う通りに従わなければならない」と言うかもしれません。現在このような人がすでに一人現れたのではありませんか！ これらの問題は非常に深刻なことです。この法の中で、今在席の輔導員の中や、北京のこのところで、このような事件はもう二度と現れるべきではないのですが、それでもやはりまた現れました。このことは我々の法に対する理解が非常に浅いことを物語っているのです。そのために、現在何人かの人は過激なことを行ない、非常に問題になっています。また一部の人々は盲目的に彼を崇拜しています。これらのことに関して、我々はそのこと自体を問題視しており、人を指して言っているのではなく、つまりそのことだけを言っているのです。皆さんはくれぐれもこれらの問題に注意しなければなりません。

もう一つの状況は輔導員の中に現れており、つまり一種の事を為す心です。これは歴史上かつてなかったことで、今日のこの特殊な状況下に現れ、特殊な歴史時期に現れたのです。なぜこの状況が現れたのでしょうか？ 歴史上に中国人、または世界の他の地区の人々もみな同じですが、すべて家庭を中心としていたのです。しかし現代人、特に中国人はみな仕事を持っており、一生の間仕事を続けてきたので、もし仕事がなくなったら精神が潰れてしまいそうになります。そのため、このような状況が現れ、法輪大法を一種の事業として行なおうと、多くの輔導員はこのような心を抱いています。彼も法は素晴らしいと分かっており、そうでなければこのようにするわけではないのですが、その前提は間違いなく素晴らしいと知っています。しかし、彼は如何に法をよく学び、法をよく認識し、如何に法の中で自分を高めるかを講じるのではなく、一種の事を為す心を抱いているのです。自分はすでに晩年に入り、今すでに退職しており、あるいはもうすぐ退職するので、することがなく、今回することが見つかって楽しくなり、しかもこの功は素晴らしいからだと言っていると彼はこのような心を抱いています。皆さん考えてみてください。このような考えは、法の要求からあまりに離れたものではありませんか？ 我々はこの法に責任を持たなければならず、あなた個人の感情に責任を持つものではありません。あなたは自分がすることがないため、心を寄せるところがないため、やることを見つけないかと思ひ、そうではありませんか。これは一つのとても目立つ問題です。どんな考えを持って法に対処するのか、これはとても厳粛な問題です！

人が修煉し、真に高次元へ修煉するのは、それは即ち他人を濟度し自分自身を濟度する問題です。あなたがこの思想の要求についてこられなければ、あなたはこの仕事をうまくやり遂げることができません。そうではありませんか？ 私は重ねて強調しており、全国各地でこの問題について話したことがあり、我々はこの事を一つの事業団体、経済実体、あるいは一つの企業部門としてやってはいけません。私はよく次の例を挙げますが、釈迦牟尼は当時法を伝えていた時にも、人がこの形式に陥ってしまうことを警戒していました。その時はまだこれらの問題に及ぶことはなく、ただ名と利に対する追求の問題だけでした。釈迦牟尼はあなたにそれを絶たせるため、あなたを深山に連れて行き、山の洞窟に入って修煉し、何もあなたに持たせず、物質から絶たせ、各種の執着心、名利への執着をすべて捨てさせるようにしました。しかし我々は常人社会の中におり、皆さんは常人社会で修煉しており、みな自発的に修煉しているのです。実は私はここで皆さんを批判するつもりは全くなく、修煉に対してただ責任を持つため、これらの高次元への修煉にひどく影響する障害を指し示しただけなのです。しかし我々は輔導員として、責任の問題があり、もしあなたがよくできなければ、そのグループの人は皆あなたによって誤った道に入るかもしれません。もしそのグループの人が皆あなたによって誤った道に入ったら、自分がどうなるかは別にして、あなたはこの人たちを駄目にしてしまうかもしれません！ 私はよくこの問題に触れ、この事を為すという心を指摘しています。もちろんそれにはそれなりの良いところもあり、この関係に正しく対処しなければなりません。皆さんは誰も事を為したいという心がなく、誰も輔導員になりたがらなければ、我々の仕事もうまく進まなくなくなります。皆さんはこの事をしたい熱情を持たなければなりません、しかし出発点はこの法のためでなければいけません。法を学び、法を得、法を広めて人を濟度するためなので、出発点は専ら何かの事を為すためにしてはいけません。この点において我々には不足があり、我々はよく反省すべきです。

今後、輔導員は必ずこの法を深く理解しなければなりません。そうすれば、これらの問題は解決できると思います。講習会に参加したことの無い学習者も含め、必ず法を深く理解しなければなりません。ですから、輔導員に対する基準も高いのです。また、個人の感情に頼って対処する人もおり、「我々二人は仲が良く、以前から仲が良

いので、彼を連れて来て輔導員にさせます」と、このようにこの問題に対処してはいけません。必ず我々の中をよく勉強できた人、よく修煉できた人にこの仕事をさせるべきです。ここで皆さんに対する要求は高いかもしれません。地方の状態に関して私は知っていますが、何と言ってもここは北京であり、法輪大法研究会もここにあり、中心はここにあるので、このことがうまくできなければ他の地区にも影響を与えてしまいます。

これ以上多く話したくありません。何と言ってもそれらは不足の面ばかりで、皆さんを批判するつもりはありませんが、話したことはやはり不足のところではあります。この会に関係者以外の人を参加させないのも、今後の皆さんの仕事に影響が及ぶことを心配しているため、関係者以外の人を参加させず、輔導員だけを参加させました。輔導員が模範を示して、それらのことがよくできれば、我々の功派の樹立、今後の順調な発展は問題ないと思います。

また「李洪志が外国に行って、もう帰らないかもしれない」という噂があります。この話をする人は私を一般の常人と同じように見なしています。私が外国に出て、そこで少しお金を稼いで持って帰る、あるいはそこに永住すると思われています。私はそのような人ではありません。皆さんが知っているように、私は国外に親戚がおり、外国に出ようと思えばいつでも出られ、その生活もここより良いのです。しかし私はこれらのものを追求せず、名誉や利益、享樂などいづれも追求しておらず、それらは私にとって何の意味もありません。しかし一部の人はこのことを知らず、このような考えを持っているかもしれません。私がいなかった場合、一部の地区ではこのような問題が現れるかもしれません。修煉を指導するため、私がいなかった場合、一切のことは法輪功研究会によって統一して決定し、皆さんを率いて修煉するのです。以前研究会が出したすべての決定はみな私の同意を経ており、私がどこにいても、彼らが決定を出す時には、必ず電話やファックスを通じて私と連絡をとっているのです。もう一つのことですが、私はすでに彼らに言いましたが、これも研究会に対する一つの試練です。つまり私がいなかった場合、うまく皆さんを率いることができるかどうか、これは彼らに対する試練でもあります。もちろん問題はないと思っています。なぜなら、彼らは私に付いている時間がかかなり長いので、私のやり方や、やりたいこと、法を広めるため

に全体的にやろうとすることを、彼らは比較的よく知っているからです。ですからここで明確に言いますが、私がいないうち、研究会が出した決定に、全国各地の輔導站はすべて従い、行なわなければなりません。輔導員としては更に率先してそのように行なうべきです。

輔導員に話題を戻しますが、我々の多くはそれを一種の肩書としています。我々が皆さんに常人の中の職位、職務の名称を呼ばせないのは、つまりこのことを避けたいからです。輔導員は何の官職でもありません。更に言えば、もしあなたが煉功場で威張るなら、その人が顔を背けてあなたを相手にしなければ、あなたはなす術もありません。あなたが更に強く言うなら、相手は「私が煉功に来なければいいのでしょう」と言うかもしれません。ですから我々には何の権力もなく、皆さんは奉仕する気持ちのボランティアで行なっており、皆のために良いことをしているのです。ですから我々は仕事のやり方においても少し注意すべきです。何かの権力でも職位でもないので、輔導員の更迭はいつでもできると思います。このことに執着してはいけません。

「私に輔導員をやらせるならやりますが、そうでなければ、私は一般の煉功者として皆と一緒に煉功すればよい」という覚悟を持つべきです。実際は、輔導員は奉仕の仕事にすぎず、あなたに輔導員をさせたらあなたは必ず圓滿成就できるということでもありません！　そういうことではなく、ただ皆のためにより多く貢献し、より多く魔難を受け、多く仕事を行なうだけです。多くの地区にもこの情況が現われ、輔導員を更迭されたら意気消沈し、甚だしい場合は人を束ねて派閥を結成する人もいます。これらは法輪大法の中に現われるべきではないと私は思います。修煉の人はこのようにやってよいのですか？　私は輔導員に対して言っています。我々はこのレベルでこれらのことを話しています。これらのことはあまり重く見てはならず、決して重く見てはいけません。

しかし、それらの真にこの法を傷つけた人に対して、彼が誰であっても構わず、そのような人が現れたら、すぐ取り替えなければなりません。我々は学習者に対して何の要求もなく、あなたが学びたいければ学ばよく、そうでなければ、それも仕方ありません。しかしあなたが学ぶなら、我々はあなたに責任を持たなければならず、教えないければなりません。輔導員としては同じようにしてはなりません。あなたが良くで

きなれば、周りにも影響を及ぼし、他の人を妨害してしまうからです。ですから、でたらめなことを行なう人が現れたら、すぐ取り替えなければなりません。ここで正式に皆さんに言いますが、四季青公園の煉功場のある学習者は、一時期のやり方にたいへん問題が多かったのですが、今になっても自分の誤りを認めていません。もちろん我々は彼が誤りを認めることを求めています。これらのことは彼が自分で直すべきですが、未だに改める兆しがありません。しかもその影響は非常に良くないと聞いています。彼は表面上からも裏からも、私に対して関係ありませんが、彼はこの法に影響したため、もう輔導員をさせてはいけません。例えばある人は、「私は佛だ、私は誰それで、ここに下りてきたのだ、私の法輪は家ほど大きい」、あるいは「私は李洪志よりも強い」と言っていますが、彼が何を言っても構わず、私も彼に干渉しません。しかし法輪大法輔導員の基準に符合しなければ、それではいけません。我々は彼を取り替えなければなりません。今後問題がなくなったら、また彼に站长をさせるかもしれない。我々は一時的なことで人の未来を判断してはいけません。つまりこういう問題です。ここでは誰かを批判し、誰かを責める意味はありません。我々はそのこと自体を問題視しており、人を指して言っているのではありません。つまり例を挙げているだけです。他に触れていないところに、このようなことはありますか？ もちろんあります。ただそれほど突出していません。

その他に、前回すでに話しましたが、つまり我々は法を学ぶブームを起こさなければなりません。必ずそうしなければなりません。法を深く理解し、この法を深く理解することができれば、誰かがでたらめにやろうと思ってもその環境が得られなくなります。彼の一念、一言に対して、あなたはすぐ彼の言ったことが正しいかどうか分かります。そうすれば、彼はまだでたらめなことができるでしょうか？ 邪なことやでたらめなことができないはず。必ずそうなるのです。

皆さんはこの法が素晴らしいと知っていますが、実は、私は毎回の講習会で異なる角度から話しているのです。ある人は「私が聴いた今日の講義では先生はこう言われたのですが、別の講義ではあのように言われた」と言いました。実は同じ問題ですが、私は異なる角度から話したのです。しかし私が毎回説いた法は、あなたの今後の修煉の中で、あるいはあなたの今後の向上の中で、あるいは異なる時期にこの本を読む時

に、あなたを指導するものがすべて含まれており、全部この本の中にあることにあなたは気づくはずです。この法の中には多くの異なる角度、異なる成分、異なる状態の下で説いたものが含まれていますが、私は全部一つの状態の下でそれを説きました。ですから、あなたが理解していけば必ず収穫が得られます。皆さんがしっかりこの法を学べば、問題ないはずだと私は思います。私の第三冊目の本——『轉法輪』はもうすぐ出版されます。その中には私が説いた内容がすべて含まれており、比較的、全面的なもので、もうすぐ出版されます。最も早くこの本を読むことができ、最も早く受益できるのはやはり北京の学習者です。皆さんは法を多く学び、よく法を理解しなければなりません。

私はあれこれ話しましたが、目的は皆さんが真に向上できるようにするためであり、そのためにこれらのことを話したのです。こんなに急に皆さんを呼び集めたのは、皆さんが将来の修煉過程でうまく把握できず、あるいはよく理解できず、あるいは私があなただを正しい道に導くことができず、途中で挫折してしまうことを心配しているからです。そうなれば、皆さんに申し訳ないと思います。ですから、皆さんを集めて再度説明しました。修煉は自分自身のことであり、将来誰かが落ちて、誰かが駄目になっても、私はあなたを特別に扱うことはできません。「私から見ればこの人は悪くない」と言って、あるいは私に状況を説明したからと言っても、我々は特別に何かをしてあげて、あなたを上がらせる、これはいけないことです。皆さんが知っているように、私が今日伝えたものは法であり、この法は宇宙の法です。もし私がこの法に従って行なわなければ、私は率先してこの法を破壊することになるのではありませんか？ですから完全に皆さんが自ら修めることによるのです。法は素晴らしく、人を済度することができ、人を救うこともできます。ただ皆さんが如何に法を理解し、如何に法を認識するかにかかっています。皆さんを呼び集めたのは、これらのことを話したいからです。くれぐれもこの会議は私が皆さんの不足を見たので、皆さんを叱責したいという会議だと見なさないでください。そうではありません。一部の問題は即時に指摘したほうが、後で指摘するより良いと思います。各地の輔導駅の站长に、あるいは輔導員の中に、問題がある人を見てすぐ責任者の役をやめさせました。この人は猛反省して、徐々に自分の問題を認識し、改めて修煉を始めました。站长や輔導員を担当するかしないかに関わらず、同じように最後まで修煉できます。猛反省したので、か

えって彼にとっては非常に良かったのです。彼は自分でも自覚できたので、ずっと修煉し続けています。一部の人は、再三に機会を与えましたが、どうしても悟らず、最後にはもう間に合わなくなって、すでに完全に落ちてしまい、魔のような状態に変わりました。これは教訓です！

私は真っ直ぐに話をするのが好きなので、遠回しは好みません。この時期に、我々の輔導站、分站、各煉功場の輔導員にしても、確かに多くの仕事を行ないました。それによって、この法は今日こんなに大きな影響があるようになりました。もちろん、法が素晴らしいことはその主な一面ですが、皆さんが多くの貢献をして、この法を護り、この法を宣伝するのも重要な一面です。実はこの法は、私に言わせればつまり宇宙の法であり、皆さんもこの中におり、この法の中に含まれています。そうであれば、この法はあなたたちのものでもあります。この法を護るかどうか、この法を宣伝するかどうか、この法を広めるかどうか、将来この法に同化するかどうか、すべて皆さん自身のことです。私はただこの法を説いて、正しい道に皆さんを導いています。これは私が行なうことです。真に将来圓滿成就になるのは、それはあなた自身が修めたことによるのです。

皆さんの時間をあまり多く使いたくありません。本来多くの人は先生が輔導員の会議で高次元へのものに関して何を説くのか聞きに来たのです。追求、執着、知識を探索する心を抱いて来たのです。これは非常に良くないことだと思います。私はもう多く話しません。これくらいにしたいと思います。何か問題があれば、特別な問題があれば、少し時間を残して、問題を出してください。北京総輔導站は写真を撮るように段取りしていますが、後で各輔導站、各分站も皆さんを集めて写真を撮ってもよいのです。皆さんと一緒に写真を撮っても構いません。これから皆さんは何か特別な問題があれば提出してください。私の話はこれくらいにしましょう。

また一部の学習者が各煉功場を見て回りたいということをお聞きしました。各煉功場を見て回ることも良いことで、互いに連絡を強め、相互に経験を学び、これも良いことです。しかし一部の人は別の煉功場に行く時、一種の顕示心を抱いているようです。「私はあれこれのことを知っています」と噂を伝え、あるいは「これらのことを

あなたたちは知らないが、私は知っています」と言いふらして、いつもそうして……潜在的なそのような僅かな兆候があります。僅かですが、この法を利用して自分を持ち上げようとしています。これも顕示心なのです。明確に自分を持ち上げるつもりではなく、そうではありませんが、ただ僅かな顕示心があるだけです。この顕示心は修煉者にとって非常に有害なものです。

弟子：悟りを開いていない人にはなぜ法身がありえるのか、と尋ねる学習者がいます。

師：悟りを開いていない人は注意してください！ 悟りを開いていない人が、もし修煉が佛の次元に達したら法身もありえます。しかし我々の学習者の中に今は一人もおらず、他の功派の気功師を含めて一人もいません。私の知っている限り法身があるのは私一人しかいません。あなたは夢の中で我々の輔導員、我々の站长、また他の何かを見ましたが、それはあなたの考えとあなたの空間場の作用で、あなたの空間場との対応関係によって映し出されたものです。これらのものの作用であなたの空間場の範囲内に映し出されたそのような一つの状態です。その他に、一定の程度まで修煉できたら、もし鍵をかけていなければ分身することができます。つまり彼の主元神、身体は分身することができます。しかし、それはすべて小手先のもので、とても低い次元のやり方です。

弟子：ある人は自分が韋馱菩薩だと自称し、先生から学習者に植え付けられた法輪を取り出すことができると話しています？

師：それは彼自身の心から魔が生じたことで、自分の心で演化したもので、彼自身が想像したものです。彼は取り出したのでしょうか？ 取り出したのは彼自身が想像したものです。彼の空間場範囲内で自分が想像した影です。彼は何もできません。韋馱菩薩と自称しているのでしょうか？ 私は皆さんに教えますが、すでに皆さんにこのことを話したことがあります。末法の時期に高次元の生命でさえも劫難の中にあります。保護すべきものはみな保護されましたが、保護されていないものはみな爆発とともに壊滅され、今は誰もいなくなりました。多くの方は観音菩薩を見ましたが、その像を持って開眼する学習者もいます。皆さんに教えますが、人が佛を拜むその瞬間に

現れた心は最も慈悲で、最も善良な、最も良い心なのです。あなたのこの心を護るために、あなたに観音菩薩の形象を見させたのです。実はすべて私の法身の現れです。以前の講習会で私はすでにこの問題を話したことがあります。

法輪大法北京輔導総站による録音

再版の言葉

『法輪大法義解』は当初出版した時、主に輔導員の素質と輔導能力を高めるためでした。一般の新しい学習者が受け入れられなければ、大法に損失と妨害をもたらすので、発行の範囲を縮小させました。

全国の弟子が法を学び実修することを展開してから、皆さんは大法に対する理解を深めました。実修を通じて大法の広大さと次元の向上との緊密な関係を実際に感得し、認識も著しく向上しました。この状況下で、私は『法輪大法義解』を再発行することにしました。ただし皆さんは一つの傾向に注意すべきです。つまり、大法の中で新奇を探し求めてはいけません。確かに絶えず私がまた何を説いたのか、また何か新しい本が出版されたのか、また何か新しい指示があったのか……などなどを探している人がいます。心が動ぜず着実に修めなければなりません。実は更にいくら経書を出版しても、いずれも『轉法輪』のための補助にすぎません。真に修煉を指導するのは『轉法輪』しかありません。その中には常人の次元から無比に高い次元までの内涵が含まれており、あなたが修め続けさえすれば、『轉法輪』は永遠にあなたが修煉して向上することを指導できます。

『轉法輪』は文章の表面上においてきらびやかではありません。甚だしきに至っては、現代の文法に符合しないこともあります。しかし、私がもし、現代的な文法でこの大法の本を整理したなら、一つの重大な問題が現われます。文章の言語構造は規範的で美しくても、さらに深く、さらに高い内涵はありえないのです。それと言うのも、現代の規範的な語彙では、大法のさらに高い異なる次元での指導と法の各次元での現われを示し、学習者の本体と功の演化ならびに向上のこの種の実質的な変化をもたらす術が、まるでないからです。

この『義解』も同様に皆さんが『轉法輪』をよく理解できるように補助として出版したのです。大法弟子が法を師として妨害を排除し、堅実に修めるよう希望します。これがすなわち精進です。

李洪志